病院年報

2023（令和5）年度

地方独立行政法人
桑名市総合医療センター
KUWANA CITY MEDOCAL CENTER

地方独立行政法人
桑名市総合医療センター
年　報

2023（令和5）年度

目　次

巻　頭　言…… 1
基本理念・基本方針…… 2

1. 病院概況　6 ～ 14

1.病院概要 …… 6
2.交通アクセス …… 6
3.病院沿革 …… 7
4.指定・認定 …… 8
5.病院組織図 …… 10
6.施設基準届出状況 …… 11
7.人員構成図 …… 14

2. 統計資料　18 ～ 34

1. 診療実績
■診療科別外来患者数…… 18
■診療科別入院患者数…… 19
■平均在院日数推移…… 20
■病床利用率推移…… 20
■死亡退院患者数推移…… 20
■紹介率…… 21
■逆紹介率…… 21
■連携検査…… 21
■救急搬送患者受入れ率…… 22
■剖検数…… 22
■剖検率…… 22
■入院患者の転倒・転落発生率 …… 23
■輸血製剤廃棄率…… 23
■栄養指導　糖尿病透析予防指導
栄養相談件数…… 24

2. 統　　計
■診療科別退院患者統計【2023年度】 ……25
■診療科別・年齢別退院患者数【2023年度】……26
■MDC２分類別患者統計 ……27

がん登録統計
年次推移と部位別登録数…… 28
症例区分…… 30
診断時住所別…… 31
年齢の割合…… 32
来院経路…… 34
発見経緯…… 34

3. 部署紹介・統計　38 ～ 115

循環器内科…… 38
消化器内科…… 41
糖尿病内分泌内科…… 44
膠原病リウマチ内科…… 45
血液内科…… 46
腎臓内科…… 49
呼吸器内科…… 51
小児科…… 52
産婦人科…… 54
消化器外科・一般外科・乳腺外科…… 57
心臓血管外科・呼吸器外科 …… 61
整形外科・リウマチ科 …… 63
脳卒中センター・脳神経外科 …… 66
脳神経内科…… 70
眼科…… 72
泌尿器科…… 74
放射線科…… 76
歯科口腔外科…… 78
救急科…… 80
病理診断科…… 83
麻酔科…… 85
看護部…… 87
健診センター…… 90
薬剤部…… 91
放射線室…… 94
検査室…… 96
臨床工学室…… 98
リハビリテーション室 …… 100
栄養管理室…… 102
医療安全管理室 …… 105
院内感染対策室 …… 107
地域医療センター …… 109
がん相談支援センター …… 111
治験事務局 …… 113
教育研修センター…… 115

4. 業　績　120 ～ 139

学会発表…… 120
論文発表…… 127
著　書…… 133
研究会・講演会…… 134
市民公開講座 …… 138
CPC記録 …… 139

後　記…… 140

巻頭言

桑名市総合医療センター
理事長　白石　泰三

地方独立行政法人桑名市総合医療センター年報2023年度が完成しました。本書には、2023（令和５）年度における本院の診療や臨床研究、患者サービスの改善、環境整備、社会貢献などの実績や院内外での様々な活動が収載されています。

2023年といえば新型コロナウイルス感染症が感染症法上の５類に移行しました。当院におきましても、急速に増えるコロナ患者と、それ以外の救急患者への対応に追われながら、一般診療、特に高度医療の維持にも努めねばならず、たいへんな日が続いていましたが、ようやくそれも収まってきました。

そんな慌ただしい診療の中、令和4年度には三重大学、桑名市と当院との間で「新しい未来の共創に関する協定」が締結されました。これは地域医療の発展のために欠かせない様々な医療Dxの開発を共同で行おうとするものです。令和５年度はその一環として、医療情報共有アプリNOBORIが使えるようになりました。いわゆる医療情報共有アプリで、ご自身のスマートフォンで、桑名市総合医療センターで行われた血液検査の結果やレントゲン画像、処方、次回の予約などを確認することができるようになりました。また、令和４年度末ではありますが、三重県の「女性が働きやすい医療機関」の指定を受けました。同５年度末には地域周産期母子センターの準備が進んでおりました。2024年１月には能登半島地震がありましたが、発災翌日には第一次DMATを派遣し、月末までに計３チームを派遣しました。

当院にとって2023年度は、ポストコロナを見据えて少しずつ新しい取り組みを始めた年でもあります。その実現のために、職員の誰もが力を合わせ必死になって努力しました。その成果が本書には詳細に収載されています。職員全員の頑張りの凄さが伝わって参ります。改めて各人のご尽力に深謝申し上げます。

基本理念・基本方針

基　本　理　念

最良の医療を提供し、地域の皆さまから信頼され必要とされる病院を目指します。

基　本　方　針

◆患者さんを中心に考え、思いやりの医療を提供します。
◆医療の水準と質の向上に努め、安全性を確保します。
◆地域の皆さまに安心していただける中核病院としての責任を永続的に果たします。
◆患者さんおよび職員にとって魅力ある病院をつくります。

患者さんの権利

患者さんの権利

◆だれもが、個人として人格が尊重され、医療提供者との相互協力関係のもと、安全で良質な医療を公平に受けることができます。
◆だれもが、病気、検査、治療、費用、見通しなど納得できるまで十分な説明、情報の提供を受けることができます。そしてご自身の治療方法を選択することができます。
◆だれもが、ご自身の病気に関して主治医以外の意見を聞くことができます。
◆だれもが、ご自身の診療記録の開示を求めることができます。
◆診療の過程で得られた個人情報や、プライバシーが厳正に保護されます。

子ども患者さんの権利

桑名市総合医療センターでは、子どもの権利条約に基づいて、子どもたちの権利(生きる権利、育つ権利、守られる権利、参加する権利)を尊重します。

◆どんな病気にかかったときでも、ほかの人と同じようによい医療をうけることができます。
◆病気のことや検査のこと、そして病気を治していく方法をわかりやすいことばや絵などをつかって、病院の人からおしえてもらうことができます。
◆病気のことや、病気を治す方法について、十分な説明を聞いたうえで、自分の考えや気持ちを病院の人や家族に伝えることができます。
◆あなたの秘密は守られます。病院以外の人に広がることはありません。

1．病院概況

1. 病院概要

名　　称　桑名市総合医療センター

所　在　地　〒511-0061　三重県桑名市寿町三丁目11番地

開　設　者　地方独立行政法人桑名市総合医療センター

理　事　長　竹田　寛(たけだ　かん)

病　院　長　登内　仁(とのうち　ひとし)

病　床　数　400床

標　榜　科　循環器内科、消化器内科、糖尿病内分泌内科、膠原病リウマチ内科、血液内科、脳神経内科、肝臓内科、腎臓内科、呼吸器内科、総合診療科、小児科、産婦人科、精神科、外科、消化器外科、乳腺外科、心臓血管外科、呼吸器外科、整形外科、リウマチ科、脳神経外科、眼科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、皮膚科、放射線科、歯科口腔外科、救急科、リハビリテーション科、病理診断科、麻酔科

建物の構造等　外来棟　延床面積　7,531平方ﾒｰﾄﾙ　ｺﾝｸﾘｰﾄ造(制振構造)　5階

入院棟　延床面積　24,828平方ﾒｰﾄﾙ　鉄骨鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ一部鉄骨造(制振構造)　10階

西　棟　延床面積　7,723平方ﾒｰﾄﾙ　7階

診 療 時 間

	受付時間	月	火	水	木	金
初診受付	8：30～11：30	○	○	○	○	○
再診受付	8：00～11：30	○	○	○	○	○

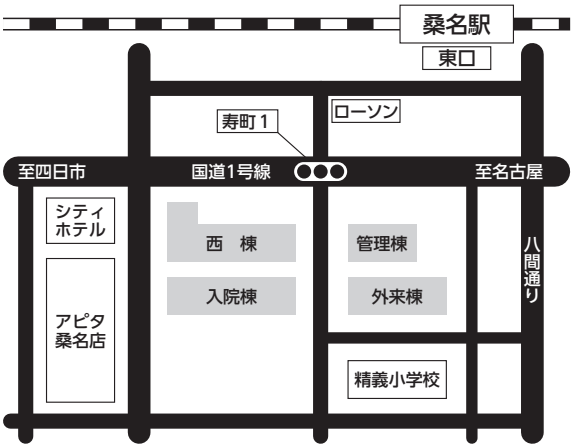
受付時間は診療科によって異なります。事前に外来担当医表でご確認ください。

休　診　日　土曜、日曜、祝日、年末年始

2. 交通アクセス

●電車でお越しの場合

桑名駅東口から徒歩５分



●お車でお越しの場合

- 名古屋方面からお越しの方
  国道一号線の「寿町１」の交差点を左折
- 四日市方面からお越しの方
  国道一号線の「寿町１」の交差点を右折

●バスでお越しの場合

桑名市コミュニティバス「K-バス」にて「桑名市総合医療センター」バス停前です。

東部ルート、北部ルート、南部ルートが「桑名市総合医療センター」バス停を通ります。

3. 病院沿革

1945年	9月	山本病院（後の山本総合病院）開院
1951年	5月	平田外科医院（後の平田循環器病院）開院
1966年	4月	桑名市民病院開院
2006年	8月	桑名市民病院あり方検討委員会より桑名市に答申書が提出
2009年	10月	桑名市民病院（234床）と特別医療法人和心会平田循環器病院（79床）が統合 地方独立行政法人桑名市民病院（313床）を設立 桑名市民病院は桑名市民病院本院、平田循環器病院は桑名市民病院分院に名称変更
2012年	4月	地方独立行政法人桑名市民病院（313床）と医療法人山本総合病院（349床）が統合 地方独立行政法人桑名市総合医療センター（662床）に名称変更 桑名市民病院本院は桑名西医療センター、桑名市民病院分院は桑名南医療センター、 山本総合病院は桑名東医療センターに名称変更
	7月	桑名市により桑名市総合医療センター基本構想・基本計画を策定
2013年	3月	新病院の基本設計業務が完了
2014年	3月	新病院の実施設計業務が完了
2015年	8月	新病院の新棟新築工事の契約を締結
2016年	3月	桑名市により桑名市総合医療センター新改革プランを策定
2018年	1月	新病院の新棟新築工事竣工
	3月	新病院の既存棟改修工事の契約を締結
	5月	３病院を統合し新病院開院、病床数を400床に変更
	6月	放射線治療開始
	11月	新病院の既存棟改修工事竣工
2019年	4月	地域包括ケア病棟を開設
2019年	5月	B棟C棟解体等関連工事の契約を締結
2020年	3月	地域災害拠点病院に指定
	6月	B棟C棟解体等関連工事竣工　【一連の新病院整備事業が完了】
	8月	Ｐ４駐車場（64台）供用開始
	9月	地域医療支援病院の名称承認
2021年	4月	がん相談支援センター開設
2022年	3月	三重大学・桑名市と「新しい未来の共創に関する協定」締結
	4月	がん診療連携準拠点病院に指定
	5月	入院支援センター開設
	9月	内視鏡手術支援ロボット（ダヴィンチ）稼働
2023年	4月	教育研修センター開設

4. 指定・認定

■指定医療機関

救急指定病院
国保療養取扱機関
労働災害保険指定病院
結核予防法指定病院
指定自立支援医療機関（精神通院医療）
原爆被爆者一般疾病医療機関
指定小児慢性特定疾患医療機関
厚生労働省指定臨床研修病院
地域医療支援病院
紹介受診重点医療機関
三重DMAT指定病院
日本医療機能評価機構認定病院
健康保険医療機関
母体保護法指定病院
生活保護法指定病院
身体障害者福祉法指定病院
指定自立支援医療機関（更正医療）
難病医療費助成指定医療機関
難病医療協力病院
地域災害拠点病院
三重県がん診療連携準拠点病院
人間ドック実施医療機関
三重県肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業指定医療機関

■研修施設等指定状況

日本内科学会認定医制度教育関連病院
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
日本心血管インターベンション治療学会研修施設
日本消化器外科学会専門医修練施設
日本消化器病学会専門医制度認定施設
日本肝臓学会認定施設
日本腎臓学会認定教育施設
日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度認定施設
日本産科婦人科学会専門研修連携施設
日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設
日本周産期・新生児医学会周産期専門医（新生児）暫定認定施設
日本脳卒中学会認定一次脳卒中センター（PSC）コア施設
日本外科学会外科専門医制度修練施設
日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設
日本脈管学会認定研修指定施設
日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設
日本大腸肛門病学会認定施設
日本リウマチ学会教育施設
日本呼吸器学会関連施設
呼吸器外科専門医制度専門研修連携施設
日本乳癌学会専門医制度関連施設
日本婦人科腫瘍学会専門医制度指定修練施設
日本脳卒中学会研修教育施設
心臓血管外科専門医認定機構認定修練施設
日本神経学会専門医制度教育施設
日本脳神経血管内治療学会研修施設
日本眼科学会専門医制度研修施設
日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関
日本病理学会研修認定施設B
日本医療薬学会がん専門薬剤師研修施設
日本臨床工学技士会認定臨床実習指導施設
日本透析医学会専門医制度認定施設
日本病態栄養学会認定病態栄養専門医研修認定施設
日本緩和医療学会認定研修施設
日本脳ドック学会認定施設
日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会エキスパンダー実施施設
日本栄養療法推進協議会（JCNT）NST稼働施設
マンモグラフィ検診施設画像認定施設
公益財団法人痛風・尿酸財団指定痛風協力医療機関
三学会構成心臓血管外科専門医認定機構

基幹施設三重大学医学部付属病院関連施設
特定非営利活動法人婦人科悪性腫瘍研究機構登録参加施設
日本認知症学会専門医制度教育施設
日本脳神経外科学会専門研修プログラム連携施設
日本整形外科学会専門医研修施設
日本臨床細胞学会施設認定
日本麻酔科学会麻酔科認定病院
日本医療薬学会認定薬剤師制度研修施設
日本リハビリテーション医学会研修施設
日本臨床栄養代謝学会栄養サポートチーム(NST)専門療法士認定教育施設
日本がん治療認定医機構認定研修施設
浅大腿動脈ステントグラフト実施施設
日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会インプラント実施施設
日本病態栄養学会認定栄養管理・NST実施施設
三重県輸血機能評価(I&R)認定施設
日本医学放射線学会画像診断管理認証施設
女性が働きやすい医療機関
三重県肝疾患専門医療機関

5. 病院組織図

2023年４月１日現在

6. 施設基準届出状況

【基本診療料】

情報通信機器を用いた診療に係る基準	地域歯科診療支援病院歯科初診料
地域歯科診療支援病院入院加算	歯科診療特別対応連携加算
歯科外来診療環境体制加算２	急性期一般入院料１
救急医療管理加算	超急性期脳卒中加算
診療録管理体制加算２	医師事務作業補助体制加算１（15対1）
25対1急性期看護補助体制加算（看護補助者5割以上）	夜間100対1急性期看護補助体制加算
注４に規定する看護補助体制充実加算	夜間看護体制加算
看護職員夜間配置加算（12対1）	療養環境加算
重症者等療養環境特別加算	栄養サポートチーム加算
医療安全対策加算１	医療安全対策地域連携加算１
感染対策向上加算１	注２に規定する指導強化加算
患者サポート体制充実加算	報告書管理体制加算
ハイリスク妊娠管理加算	ハイリスク分娩管理加算
病棟薬剤業務実施加算１	後発医薬品使用体制加算１
病棟薬剤業務実施加算２	データ提出加算２（イ　200床以上の病院の場合）
地域医療体制確保加算	認知症ケア加算１
入退院支援加算の注８に掲げる総合機能評価加算	入退院支援加算１
地域連携診療計画加算	入院時支援加算
脳卒中ケアユニット入院医療管理料　ＳＣＵ	ハイケアユニット入院医療管理料１　ＨＣＵ
小児入院医療管理料５	新生児特定集中治療室管理料２　ＮＩＣＵ
看護職員配置加算（地域包括ケア病棟入院料の注3）	地域包括ケア病棟入院料２
看護職員夜間配置加算（地域包括ケア病棟入院料の注7）	看護補助者配置加算（地域包括ケア病棟入院料の注4）
注４に規定する看護補助体制充実加算	入院時食事療養（Ⅰ）及び入院時生活療養（Ⅰ）
看護職員処遇改善評価料71	

【特掲診療料】

歯科疾患管理料の注11 に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料	糖尿病合併症管理料
心臓ペースメーカー指導管理料の注５に掲げる遠隔モニタリング加算	がん患者指導管理料イ
がん性疼痛緩和指導管理料	がん患者指導管理料ハ
がん患者指導管理料ロ	糖尿病透析予防指導管理料
がん患者指導管理料ニ	婦人科特定疾患治療管理料
乳腺炎重症化予防･ケア指導料	二次性骨折予防継続管理料１
腎代替療法指導管理料	二次性骨折予防継続管理料３

二次性骨折予防継続管理料２	下肢創傷処置管理料
小児科外来診療料	夜間休日救急搬送医学管理料の注3に掲げる救急搬送看護体制加算１
院内トリアージ実施料	外来腫瘍化学療法診療料１
外来放射線照射診療料	ニコチン依存症管理料
連携充実加算（外来腫瘍化学療法診療料１）	がん治療連携計画策定料
開放型病院共同指導料	ハイリスク妊産婦連携指導料１
がん治療連携指導料	薬剤管理指導料
ハイリスク妊産婦連携指導料２	医療機器安全管理料１
地域連携診療計画加算	在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
在宅血液透析指導管理料	持続血糖測定器加算（間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合）
持続血糖測定器加算（間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合）及び皮下連続式グルコース測定	ＢＲＣＡ１／２遺伝子検査（血液を検体とするもの）
遺伝学的検査	先天性代謝異常症検査
ＢＲＣＡ１／２遺伝子検査 （腫瘍細胞を検体とするもの）	検体検査管理加算（１）
ＨＰＶ核酸検出及びＨＰＶ核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）	心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
検体検査管理加算（４）	ヘッドアップティルト試験
時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	神経学的検査
長期継続頭蓋内脳波検査	ロービジョン検査判断料
全視野精密網膜電図	ＣＴ透視下気管支鏡検査加算
コンタクトレンズ検査料１	画像診断管理加算１
精密触覚機能検査	ＣＴ撮影及びＭＲＩ撮影
画像診断管理加算２	心臓ＭＲＩ撮影加算
冠動脈ＣＴ撮影加算	抗悪性腫瘍剤処方管理加算
乳房MRI撮影加算	無菌製剤処理料
外来化学療法加算１	脳血管疾患等リハビリテーション料（１）
心臓大血管リハビリテーション料（１）	呼吸器リハビリテーション料（１）
運動器リハビリテーション料（１）	がん患者リハビリテーション料
摂食機能療法の注3に規定する摂食嚥下機能回復体制加算２	人工腎臓　慢性維持透析を行った場合１
歯科口腔リハビリテーション料２	透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
静脈圧迫処置（慢性静脈不全に対するもの）	組織拡張器による再建手術（乳房（再建手術）の場合に限る。）　一次再建
導入期加算２及び腎代替療法実績加算	CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレー
下肢末梢動脈疾患指導管理加算	緊急整復固定加算及び緊急挿入加算
骨移植術（軟骨移植術を含む）（同種骨移植（非生体）・同種骨移植（特殊なもの））	椎間板内酵素注入療法

脳刺激装置埋込術（頭蓋内電極植込術を含む）及び脳刺激装置交換術	脊髄刺激装置埋込術及び脊髄刺激装置交換術
緑内障手術（流出路再建術（眼内法）及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術）	緑内障手術（濾過胞再建術（needle法））
乳腺腫瘍画像ガイド下吸引術（一連につき）（ＭＲＩによるもの）	乳がんセンチネルリンパ節加算１及びセンチネルリンパ節生検（併用）（乳がんセンチネルリンパ節加算１）
乳がんセンチネルリンパ節加算２及びセンチネルリンパ節生検（単独）（乳がんセンチネルリンパ節加算２）	乳がんセンチネルリンパ節加算２及びセンチネルリンパ節生検（単独）（乳がんセンチネルリンパ節生検（単独））
ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）	食道縫合術（穿孔、損傷）（内視鏡によるもの）、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、小腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、結腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、腎（腎盂）腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、尿管腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、膀胱腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、膣腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）
経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）	経皮的中隔心筋焼灼術
ペースメーカ移植術及びペースメーカ交換術	ペースメーカ移植術及びペースメーカ交換術（リードレスペースメーカー）
大動脈バルーンパンピング法（ＩＡＢＰ法）	腹腔鏡下リンパ節群郭清術（側方）
内視鏡的逆流防止粘膜切除術	腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術（胆嚢床切除を伴うもの）
腹腔鏡下肝切除術	腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
内視鏡的小腸ポリープ切除術	腹腔鏡下直腸切除・切断術（内視鏡手術支援機器を用いる場合）
腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術（内視鏡手術支援機器を用いるもの）及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術（内視鏡手術支援機器を用いるもの）	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
腹腔鏡下膣式子宮全摘術（内視鏡手術支援機器を用いる場合）	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに限る。）
輸血管理料１	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
麻酔管理料Ｉ	麻酔管理料Ⅱ
高エネルギー放射線治療	保険医療機関間の連携による病理診断
病理診断管理加算１	病理診断管理加算2
悪性腫瘍病理組織標本加算	口腔病理診断管理加算１
クラウン・ブリッジ維持管理料	酸素の購入価格の届出　（医科）
酸素の購入価格の届出　（歯科）	染色体検査の注2に規定する施設基準

7. 人員構成図

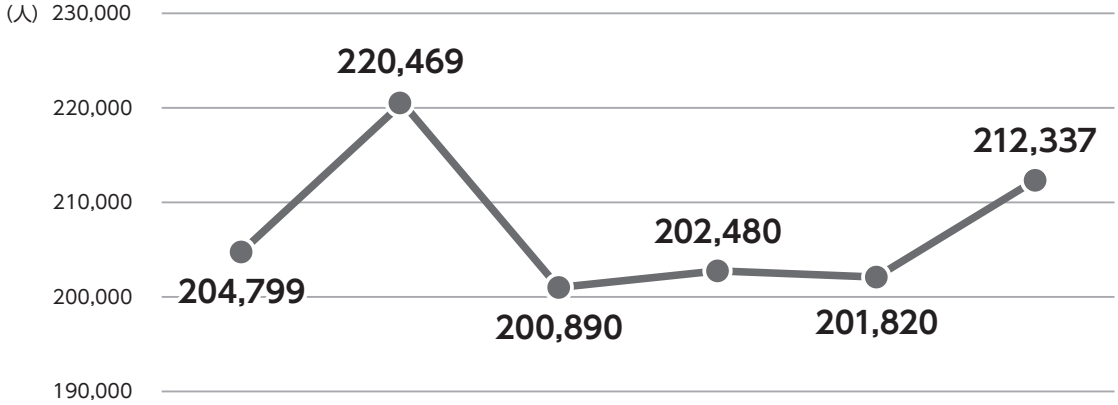
単位：人　　2023年４月１日現在

職種	2018年度（５月１日）	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
医師	103	107	109	120	119	134
歯科医師	3	3	3	1	2	2
看護師	446	466	483	513	509	517
准看護師	25	26	23	19	18	13
介護福祉士	16	20	21	23	22	22
薬剤師	23	21	21	25	25	24
診療放射線技師	20	21	21	21	22	22
臨床検査技師	32	29	34	33	34	33
理学療法士	9	9	9	10	10	11
作業療法士	3	3	4	4	4	4
管理栄養士	8	9	6	9	10	9
臨床工学技士	15	15	17	19	21	21
言語聴覚士	4	3	3	3	3	3
視能訓練士	3	3	3	3	3	3
歯科衛生士	4	2	4	5	4	5
看護助手	17	18	15	14	10	6
社会福祉士	7	7	10	9	8	9
事務	150	143	134	141	139	126
保育士						13
計	888	905	920	972	963	977

2. 統計資料

1. 診療実績

■ 診療科別外来患者数



単位：人

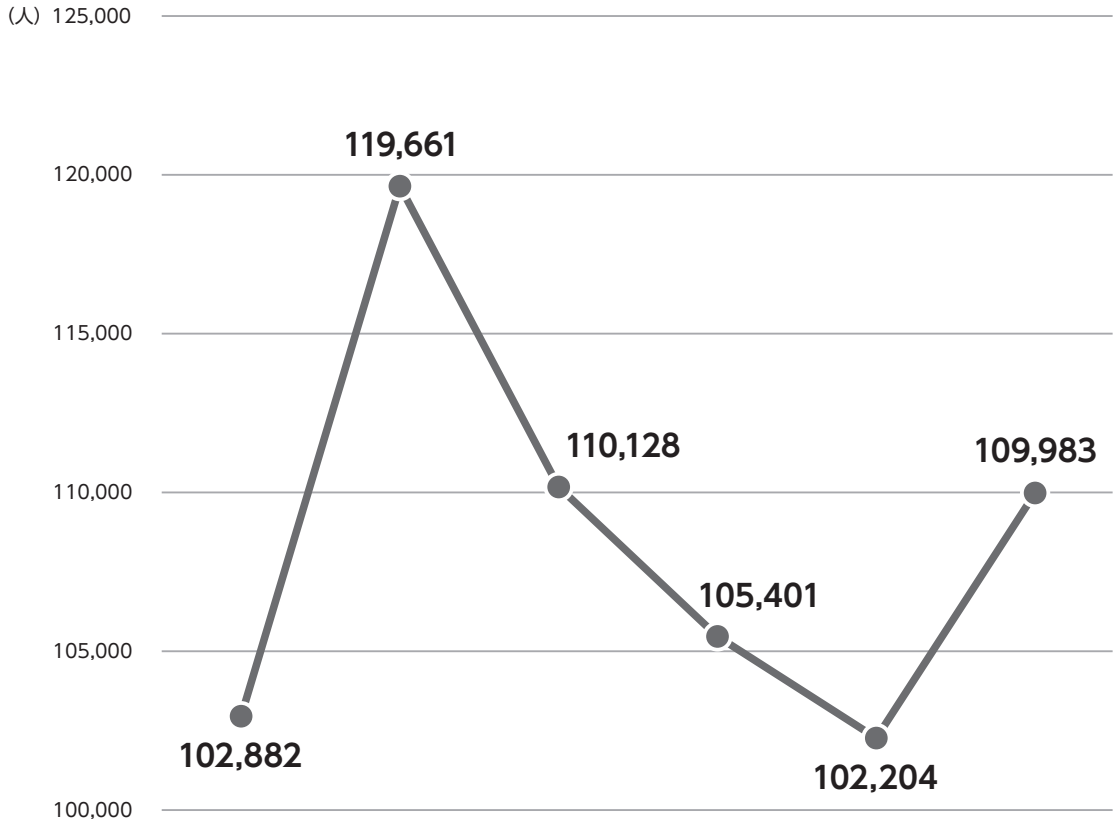
年　度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
合　計	204,799	220,469	200,890	202,480	201,820	212,337

（2018年5月～2019年3月）

単位：人

循環器内科	30,943	30,110	23,211	22,541	22,573	23,473
血液浄化療法部	16,325	18,619	19,875	19,657	20,045	21,512
消化器内科	19,596	16,594	14,617	14,744	13,296	15,177
外科	14,041	15,693	15,592	16,267	16,616	17,439
歯科口腔外科	13,562	16,636	11,520	9,961	11,165	12,786
眼科	9,583	11,830	11,994	12,066	12,598	12,237
整形外科	12,834	12,851	9,477	9,406	10,603	10,873
糖尿病内分泌内科	10,116	11,175	10,724	11,525	11,995	13,515
泌尿器科	9,996	11,435	10,822	10,386	4,729	5,825
産婦人科	9,442	10,752	10,983	11,288	11,073	11,261
リウマチ膠原病内科	6,061	7,732	7,800	8,053	8,598	6,975
呼吸器内科	6,207	7,427	7,117	7,916	8,043	8,437
耳鼻咽喉科	6,838	7,545	6,100	6,252	6,114	6,789
脳神経外科	6,126	6,052	5,760	6,039	6,421	6,376
総合内科	6,501	5,978	5,738	5,123	5,030	4,026
脳神経内科	4,703	5,884	5,857	6,482	6,487	6,711
小児科	5,620	5,041	4,075	5,222	5,522	6,230
腎臓内科	3,946	4,601	4,371	4,648	5,293	5,745
放射線治療科	1,063	2,012	3,120	3,486	2,729	2,860
皮膚科	2,009	2,514	2,681	1,983	1,815	2,093
放射線診断科	1,787	2,011	1,885	2,034	2,356	2,207
救急科	2,569	2,067	1,408	1,231	1,298	1,494
精神科	1,423	1,520	1,445	1,417	2,075	2,428
血液内科	1,184	1,273	1,438	1,331	1,411	1,591
心臓血管外科	1,163	1,285	1,311	1,285	1,630	1,877
麻酔科	576	1,098	1,057	1,070	1,243	1,422
総合診療科	379	455	437	553	482	470
形成外科	206	279	475	514	580	508

■ 診療科別入院患者数



単位：人

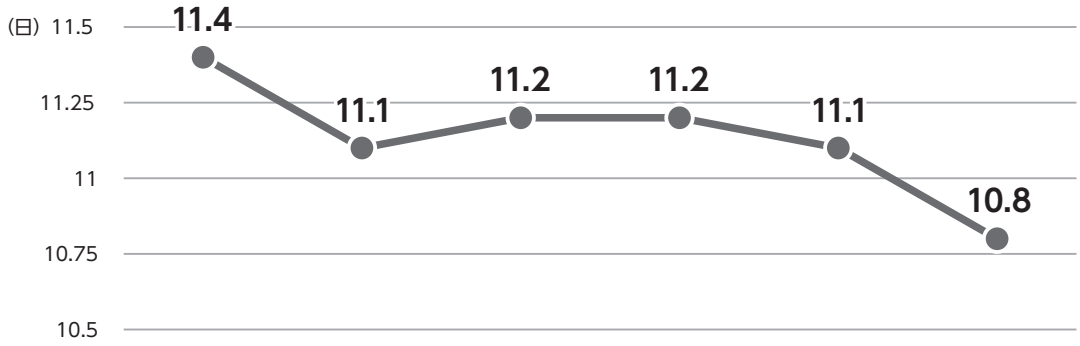
年　度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
合　計	102,882	119,661	110,128	105,401	102,204	109,983

（2018年5月～2019年3月）

単位：人

消化器内科	18,059	17,822	15,897	15,204	12,675	15,890
循環器内科	17,105	18,877	14,650	12,620	13,625	15,325
外科	12,920	16,386	14,232	12,533	11,760	10,395
整形外科	8,575	10,860	12,233	11,453	11,202	14,156
脳神経外科	8,057	10,606	9,700	10,000	8,590	8,921
腎臓内科	9,972	10,313	8,131	7,292	7,896	9,159
産婦人科	6,122	6,875	6,772	6,716	5,779	7,321
脳神経内科	3,833	5,048	6,274	5,081	5,289	5,684
呼吸器内科	4,450	4,806	4,698	6,062	7,101	6,991
小児科	3,199	3,712	3,610	4,097	3,380	3,745
糖尿病内分泌内科	2,900	3,810	3,097	3,484	4,006	4,299
リウマチ膠原病	1,642	3,719	3,299	3,220	3,227	2,471
心臓血管外科・呼吸器外科	1,667	2,349	2,224	2,011	2,009	2,451
総合内科	772	0	1,773	3,139	3,398	52
口腔外科	1,485	1,894	1,298	647	644	940
眼科	925	1,214	1,195	977	734	799
泌尿器科	1,099	1,359	967	858	889	1,384
救急科	100	11	78	7	0	0

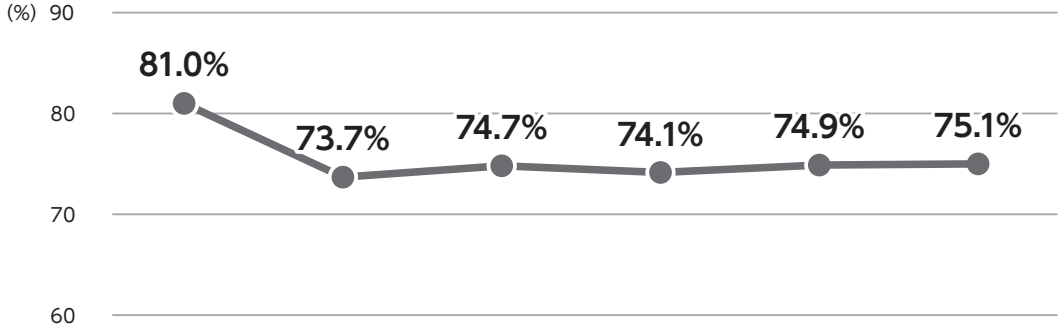
■ 平均在院日数推移



単位：日

年　　度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
合　　計	11.4	11.1	11.2	11.2	11.1	10.8

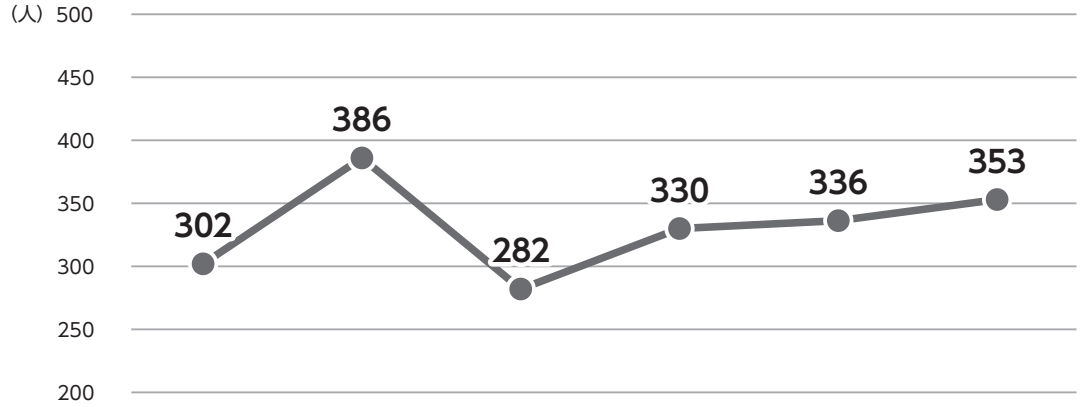
■ 病床利用率推移



単位：%

年　　度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
合　　計	81.0	73.7	74.7	74.1	74.9	75.1

■ 死亡退院患者数推移



単位：人

年　　度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
合　　計	302	386	282	330	336	353

■ 紹介率

単位：%

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2018		44.6	49.8	48.4	47.3	45	56.6	53.3	56.8	52.8	54.3	58.6	51.6
2019	68.8	68.9	68.4	74.9	69.2	75.0	76.1	78.2	77.9	77.3	76.8	78.7	74.2
2020	73.7	79.9	78	78.8	83.6	85.9	87.8	85.6	89.2	86.8	91.5	86.5	83.9
2021	88.9	93.3	93.2	90.9	91.4	91.9	90.7	86.6	91.7	88.8	86.9	93.7	90.7
2022	92.4	94.4	92.0	92.1	88.5	89.0	93.8	91.8	88.9	87.8	85.7	94.1	90.9
2023	91.6	93.5	92.8	94.5	96.4	93.0	93.1	90.6	90.8	89.1	90.8	91.7	92.3

■ 逆紹介率

単位：%

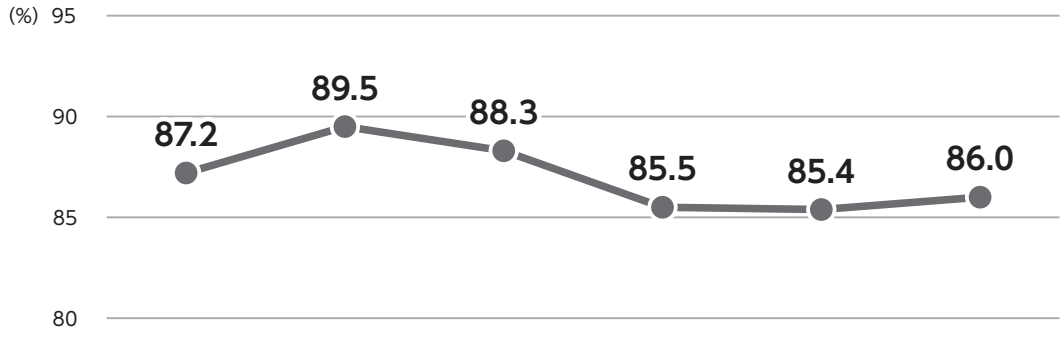
年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2018		47.3	59.3	55.3	60.5	61.4	64.6	73.7	78.5	70.9	81.9	78.7	66.6
2019	87.1	79.1	87.7	88.4	92.8	92.6	131.8	137.6	112.3	98.9	97.6	103.6	100.8
2020	112.1	115.1	96.8	95.7	115.5	113.7	101.6	101.8	125.9	120.3	129.9	138.9	113.9
2021	130.5	101.6	104.9	98.7	111.3	99.8	101.5	119.6	175.8	158.3	124.4	118.3	120.4
2022	125.8	115.8	116.2	108.1	108.4	119.0	118.2	111.6	110.6	119.0	103.1	135.5	115.8
2023	125.3	118.2	123.5	125.0	123.8	114.0	109.3	117.6	138.0	153.3	141.6	145.5	127.7

■ 連携検査

単位：件

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2018		189	228	214	186	175	240	182	175	177	166	234	2,166
2019	202	191	242	218	185	211	249	193	186	157	189	204	2,427
2020	122	129	229	246	188	204	239	200	184	163	190	235	2,329
2021	180	216	203	180	190	207	220	268	215	153	161	252	2,445
2022	225	309	254	224	203	242	253	294	219	199	217	234	2,873
2023	216	251	268	210	220	222	250	240	191	183	236	231	2,718

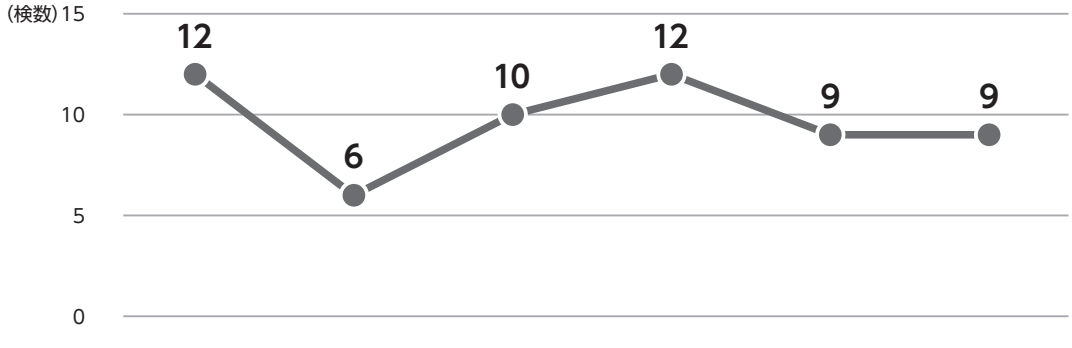
■ 救急搬送患者受入れ率



単位：%

年　　度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
合　　計	87.2	89.5	88.3	85.5	85.4	86.0

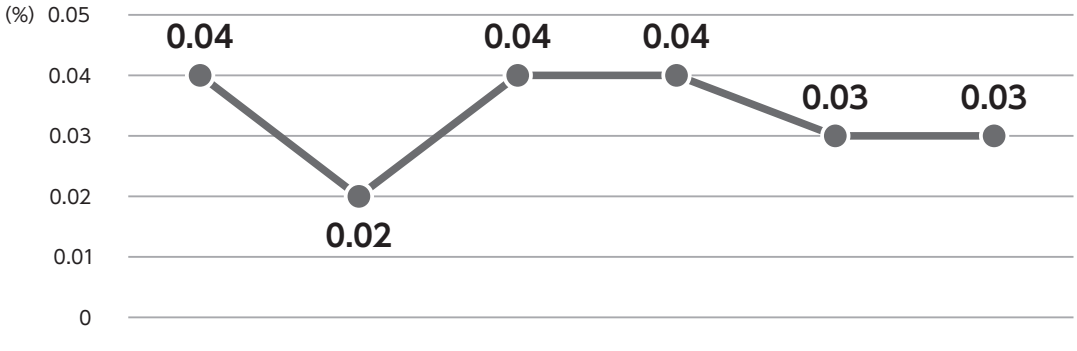
■ 剖検数



単位：検数

年　　度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
合　　計	12	6	10	12	9	9

■ 剖検率

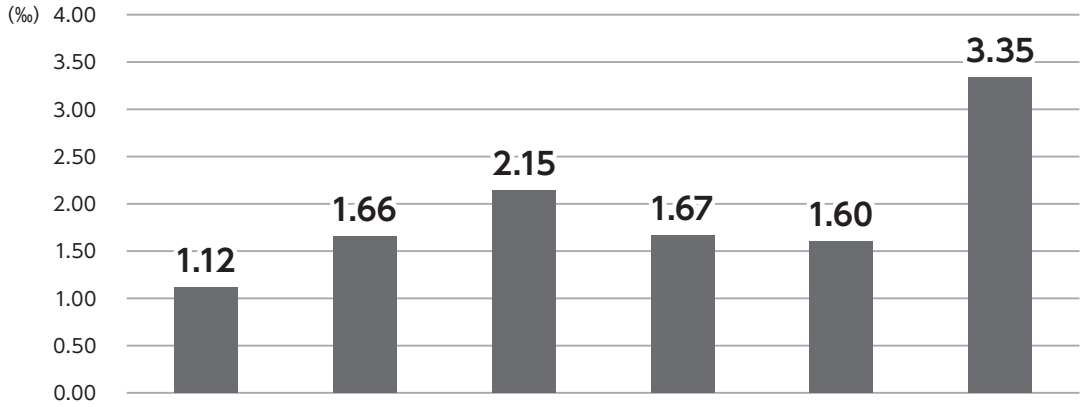


単位：%

年　　度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
合　　計	0.04	0.02	0.04	0.04	0.03	0.03

■ 入院患者の転倒・転落発生率

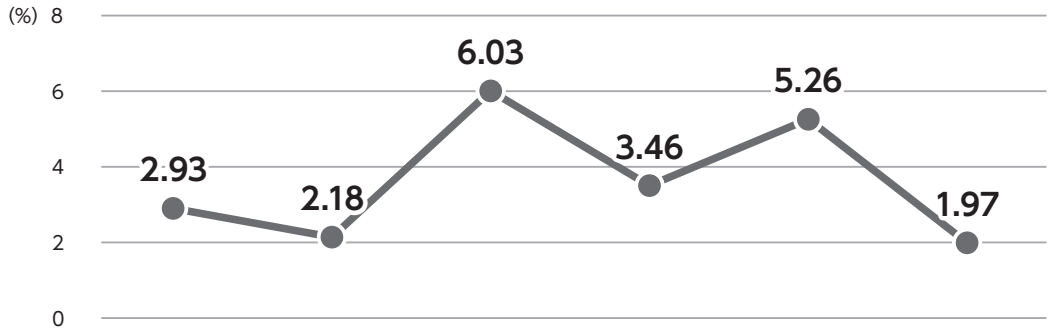
年度	転倒・転落報告件数	入院患者延数	発生率
2018	100	89,685	1.12
2019	182	109,693	1.66
2020	217	101,014	2.15
2021	168	100,787	1.67
2022	164	102,204	1.60
2023	368	109,984	3.35



単位：‰

年　　度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
合　　計	1.12	1.66	2.15	1.67	1.60	3.35

■ 輸血製剤廃棄率



単位：‰

年　　度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
合　　計	2.93	2.18	6.03	3.46	5.26	1.97

■ 栄養指導　糖尿病透析予防指導　栄養相談件数

単位：人

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
入院　個人栄養指導	695	714	781	704	681	775
外来　個人栄養指導	1,962	2,332	2,586	3,227	3,032	3,456
集団栄養指導	153	328	0	0	0	102
糖尿病透析予防指導	245	192	192	138	103	131
健診センター　栄養相談	0	0	0	3	0	0
合 計	3,055	3,566	3,559	4,072	3,816	4,464

2. 統　　計

■ 診療科別退院患者統計【2023年度】

診療科	性別	退院患者数	平均在院日数	死亡患者数	院内粗死亡率
小児科	男	333	6.6		0.0%
	女	322	6.8		0.0%
外科	男	526	13.1	16	3.0%
	女	419	12.4	10	2.4%
整形外科	男	269	19.2	1	0.4%
	女	414	24.1		0.0%
産婦人科	男	96	6.4		0.0%
	女	1,021	7.5	1	0.1%
眼科	男	267	2.7		0.0%
	女	259	2.4		0.0%
消化器内科	男	976	9.7	31	3.2%
	女	714	10.4	23	3.2%
泌尿器科	男	310	4.8		0.0%
	女	33	5.9	1	3.0%
脳神経内科	男	176	18.2	6	3.4%
	女	177	17.8	6	3.4%
脳神経外科	男	339	15.3	10	2.9%
	女	276	16.3	10	3.6%
循環器内科	男	931	10.6	36	3.9%
	女	509	13.9	30	5.9%
心臓血管・呼吸器外科	男	125	14.6	6	4.8%
	女	82	8.0	1	1.2%
糖尿病内分泌内科	男	158	17.8	9	5.7%
	女	110	13.9	5	4.5%
腎臓内科	男	326	17.6	21	6.4%
	女	169	21.9	15	8.9%
膠原病リウマチ内科	男	82	15.2	7	8.5%
	女	119	12.8	4	3.4%
呼吸器内科	男	306	18.0	24	7.8%
	女	123	15.8	12	9.8%
歯科口腔外科	男	134	4.1		0.0%
	女	160	4.2		0.0%
合計	男	5,354	11.7	167	3.1%
	女	4,907	11.8	118	2.4%
	総数	10,261	11.7	285	2.8%

単位：人

※産婦人科には、産科入院の新生児を含む　※平均在院日数=退院患者総在院日数/総退院数　※院内粗死亡率=死亡退院患者数/総退院数

■ 診療科別・年齢別退院患者数【2023年度】

診療科／年齢	性別	10歳未満	20歳未満	30歳未満	40歳未満	50歳未満	60歳未満	70歳未満	80歳未満	90歳未満	90歳以上	合　計
小　児　科	男	303	30									333
	女	297	25									322
外　　科	男	2	6	16	17	36	69	101	159	111	9	526
	女		3	9	15	59	59	61	127	69	17	419
整形外科	男	6	24	14	16	18	39	30	63	54	5	269
	女	2	4	5	6	6	39	67	125	112	48	414
産婦人科	男	96										96
	女	99	13	203	370	118	108	61	40	9		1,021
眼　　科	男	3	2	2	2	11	16	34	128	65	4	267
	女		1		3	3	11	30	102	99	10	259
消化器内科	男		4	16	15	53	123	171	326	233	35	976
	女		4	13	19	45	57	98	216	206	56	714
泌尿器科	男			1	2	8	22	67	155	45	10	310
	女			1	2	1	6	3	14	6		33
脳神経内科	男		2	4	5	11	21	27	50	52	4	176
	女		5	5	4	15	10	21	42	51	24	177
脳神経外科	男		2	3	8	20	36	54	102	97	17	339
	女		3	3	4	20	34	39	69	77	27	276
循環器内科	男		2	1	7	32	77	149	311	295	57	931
	女		3		3	7	22	62	123	192	97	509
心臓血管・呼吸器外科	男		11	7		5	8	19	52	20	3	125
	女		1	1	4	9	7	14	30	12	4	82
糖尿病内分泌内科	男			4	9	8	19	29	40	44	5	158
	女		3	8	9	5	10	16	23	24	12	110
腎臓内科	男		4	7	6	12	32	36	112	88	29	326
	女		1	5	3	5	6	19	49	56	25	169
膠原病リウマチ内科	男		1	5	1	4	3	15	21	23	9	82
	女			6	6	4	21	20	29	21	12	119
呼吸器内科	男			2	2	14	17	44	119	101	7	306
	女					6	6	28	36	41	6	123
歯科口腔外科	男	10	20	22	23	19	10	7	12	10	1	134
	女	1	19	42	27	13	21	8	14	12	3	160
合　　計	男	420	108	104	113	251	492	783	1,650	1,238	195	5,354
	女	399	85	301	475	316	417	547	1,039	987	341	4,907
	総数	819	193	405	588	567	909	1,330	2,689	2,225	536	10,261

単位：人　※産婦人科には、産科入院の新生児を含む

■ MDC２分類別患者統計

※このデータはDPC提出データを基に集計

MDCコード	ＭＤＣ名称	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
01	神経系疾患	601	803	743	679	693	753
02	眼科系疾患	357	435	473	451	484	523
03	耳鼻咽喉科系疾患	202	257	149	131	110	99
04	呼吸器系疾患	944	990	686	761	846	1,087
05	循環器系疾患	1,270	1,461	1,096	1,150	1,190	1,364
06	消化器系疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患	2,185	2,175	2,153	2,145	1,971	2,243
07	筋骨格系疾患	247	267	260	226	244	341
08	皮膚・皮下組織の疾患	71	74	61	52	62	84
09	乳房の疾患	95	90	97	90	95	113
10	内分泌・栄養・代謝に関する疾患	195	198	146	186	178	198
11	腎・尿路系疾患及び男性生殖器系疾患	538	641	571	511	568	681
12	女性生殖器系疾患及び産褥期疾患・異常妊娠分娩	387	549	688	686	670	757
13	血液・造血器・免疫臓器の疾患	103	77	87	90	90	108
14	新生児疾患、先天性奇形	110	132	112	96	78	68
15	小児疾患	22	26	20	22	16	28
16	外傷・熱傷・中毒	552	647	591	562	590	626
17	精神疾患	23	34	17	19	15	13
18	その他	135	153	198	210	198	333

がん登録統計

○「院内がん登録標準登録様式2016年版」の登録対象に基づき、原発かつ初発の診断が行われた腫瘍を登録

○登録対象となる腫瘍の種類

・国際疾病分類－腫瘍学第3.2版において悪性又は上皮内癌に分類された腫瘍
・中枢神経系腫瘍
・消化管間質腫瘍
・境界悪性の卵巣腫瘍の一部

○集計期間

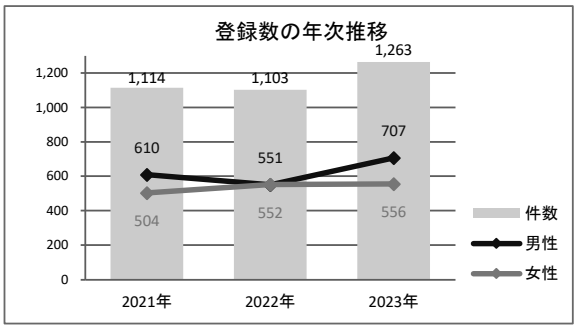
・2021年：2021年1月1日から2021年12月31日の間に診断された症例
・2022年：2022年1月1日から2022年12月31日の間に診断された症例
・2023年：2023年1月1日から2023年12月31日の間に診断された症例
（本年度より、がん登録データ提出に合わせ暦年期間へ変更しております。）

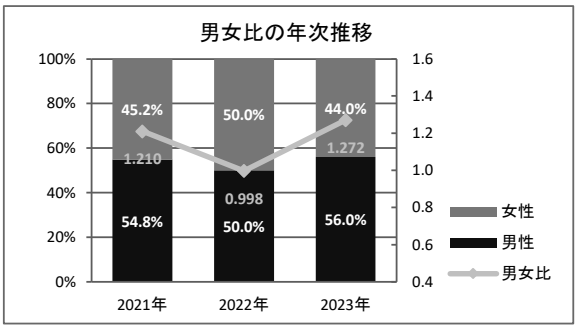
年次推移と部位別登録数

登録数の年次推移

	2021年		2022年		2023年	
	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)
全体	1,114		1,103		1,263	
男性	610	(54.8%)	551	(50.0%)	707	(56.0%)
女性	504	(45.2%)	552	(50.0%)	556	(44.0%)
男女比	1.210		0.998		1.272	

*男女比は女性を1としたときの男性の比率

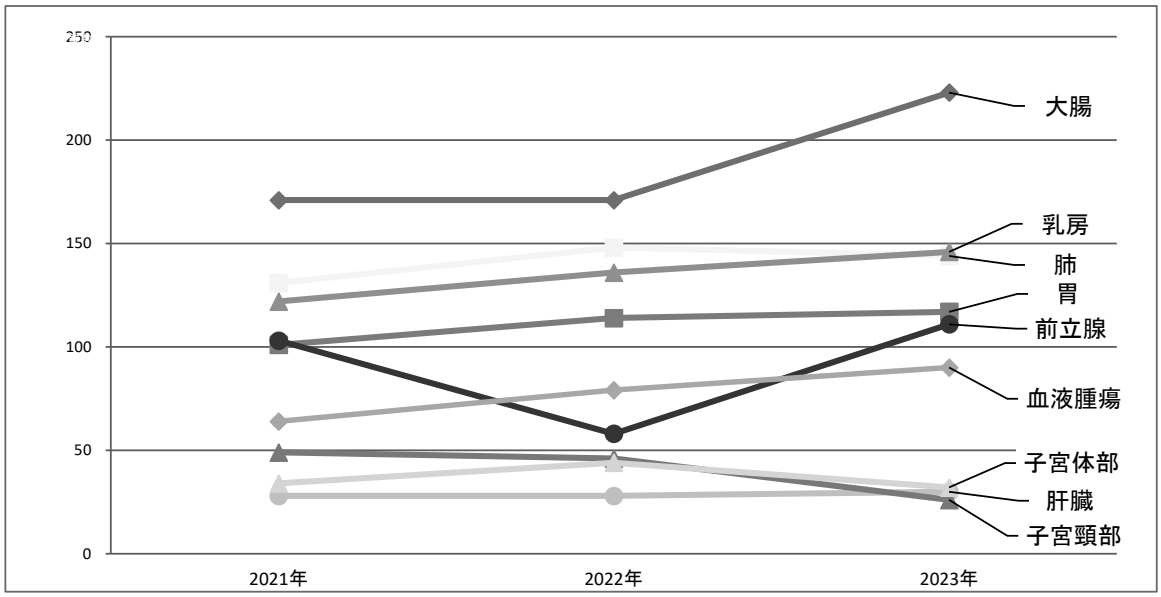




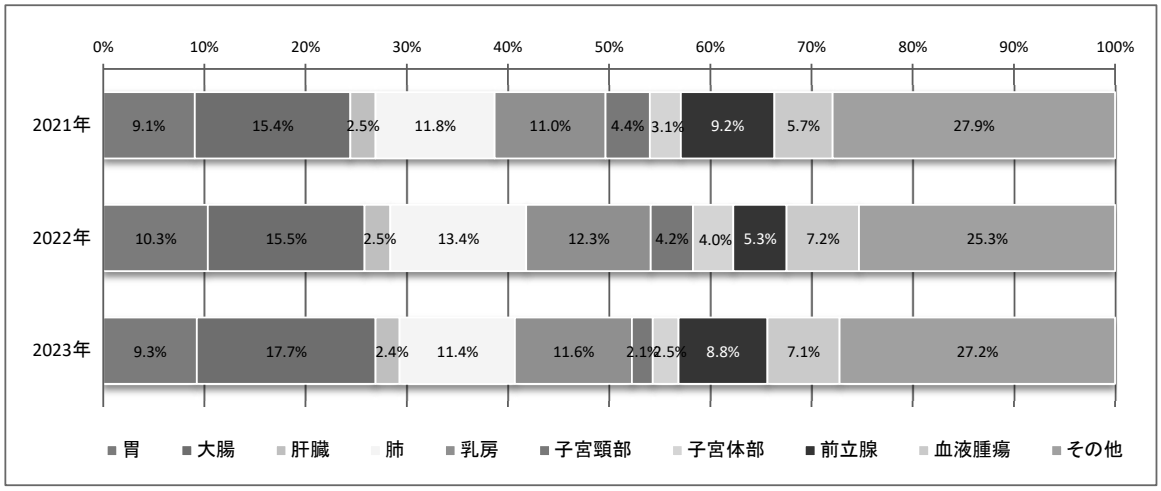
登録数の年次推移（部位別）

	2021年		2022年		2023年	
	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)
口腔・咽頭	7	(0.6%)	13	(1.2%)	16	(1.3%)
食道	24	(2.2%)	17	(1.5%)	33	(2.6%)
胃	101	(9.1%)	114	(10.3%)	117	(9.3%)
結腸	129	(11.6%)	117	(10.6%)	159	(12.6%)
直腸	42	(3.8%)	54	(4.9%)	64	(5.1%)
肝臓	28	(2.5%)	28	(2.5%)	30	(2.4%)
胆嚢・胆管	27	(2.4%)	18	(1.6%)	23	(1.8%)
膵臓	51	(4.6%)	51	(4.6%)	40	(3.2%)
喉頭	1	(0.1%)	4	(0.4%)	0	(0.0%)
肺	131	(11.8%)	148	(13.4%)	144	(11.4%)
骨・軟部	3	(0.3%)	3	(0.3%)	3	(0.2%)
皮膚(黒色腫を含む)	10	(0.9%)	7	(0.6%)	10	(0.8%)
乳房	122	(11.0%)	136	(12.3%)	146	(11.6%)
子宮頸部	49	(4.4%)	46	(4.2%)	26	(2.1%)
子宮体部	34	(3.1%)	44	(4.0%)	32	(2.5%)
子宮	0	(0.0%)	1	(0.1%)	2	(0.2%)
卵巣	12	(1.1%)	15	(1.4%)	19	(1.5%)
前立腺	103	(9.2%)	58	(5.3%)	111	(8.8%)
膀胱	39	(3.5%)	33	(3.0%)	44	(3.5%)
腎・他の尿路	35	(3.1%)	32	(2.9%)	42	(3.3%)
脳・中枢神経系	64	(5.7%)	48	(4.4%)	66	(5.2%)
甲状腺	4	(0.4%)	9	(0.8%)	14	(1.1%)
悪性リンパ腫	26	(2.3%)	43	(3.9%)	43	(3.4%)
多発性骨髄腫	7	(0.6%)	6	(0.5%)	13	(1.0%)
白血病	11	(1.0%)	5	(0.5%)	16	(1.3%)
他の造血器腫瘍	20	(1.8%)	25	(2.3%)	18	(1.4%)
その他	34	(3.1%)	28	(2.5%)	32	(2.5%)
合計	1,114		1,103		1,263	

部位別登録数の推移

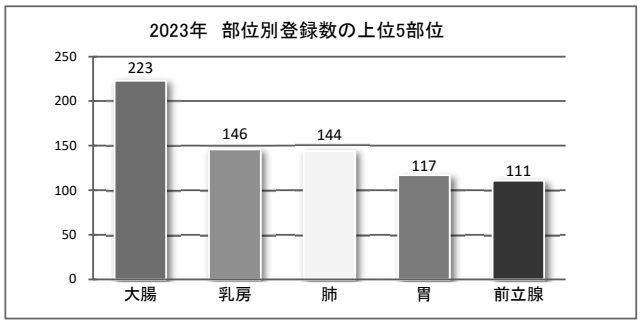


登録数の部位別の割合



部位別登録数の上位5部位

	2021年		2022年		2023年	
順位	部位名	件数	部位名	件数	部位名	件数
1	大腸	171	大腸	171	大腸	223
2	肺	131	肺	148	乳房	146
3	乳房	122	乳房	136	肺	144
4	前立腺	103	胃	114	胃	117
5	胃	101	前立腺	58	前立腺	111

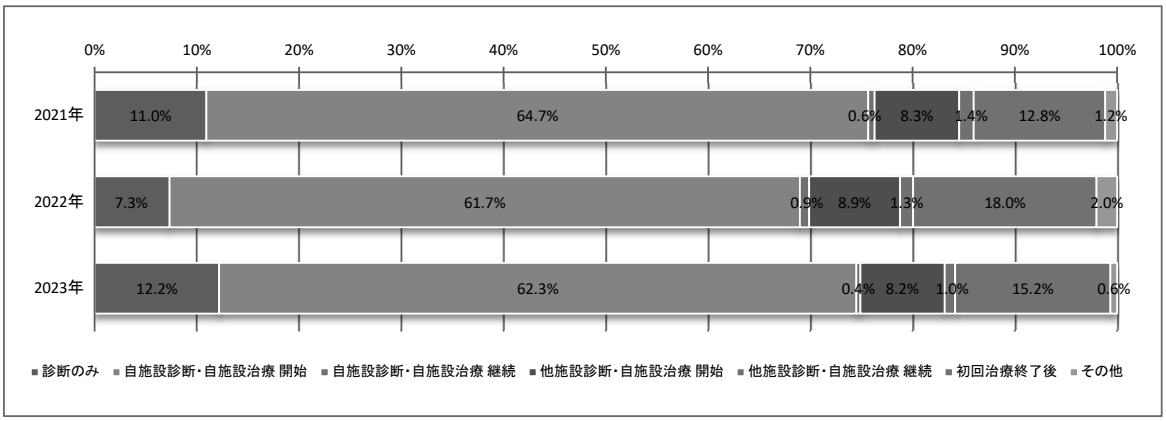


症例区分

症例区分

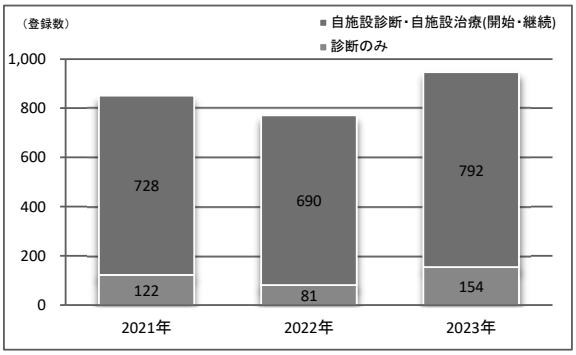
	2021年		2022年		2023年	
	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)
診断のみ	122	(11.0%)	81	(7.3%)	154	(12.2%)
自施設診断・自施設治療 開始	721	(64.7%)	680	(61.7%)	787	(62.3%)
自施設診断・自施設治療 継続	7	(0.6%)	10	(0.9%)	5	(0.4%)
他施設診断・自施設治療 開始	92	(8.3%)	98	(8.9%)	104	(8.2%)
他施設診断・自施設治療 継続	16	(1.4%)	14	(1.3%)	13	(1.0%)
初回治療終了後	143	(12.8%)	198	(18.0%)	192	(15.2%)
その他	13	(1.2%)	22	(2.0%)	8	(0.6%)

症例区分の割合



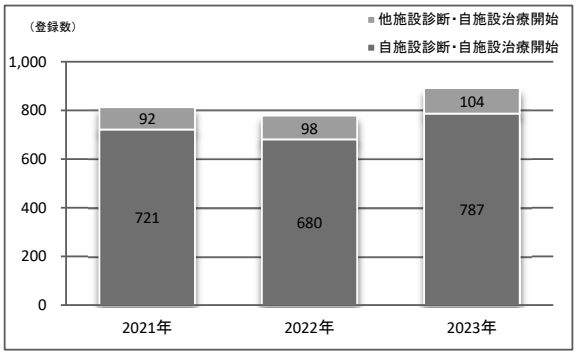
自施設でがんと診断した症例の年次推移

（診断のみ、自施設診断・自施設治療開始、自施設診断・自施設治療継続）



自施設初回治療開始症例の年次推移

（自施設診断・自施設治療開始、他施設診断・自施設治療開始）



2023年の症例区分の診断施設・治療施設マトリクス

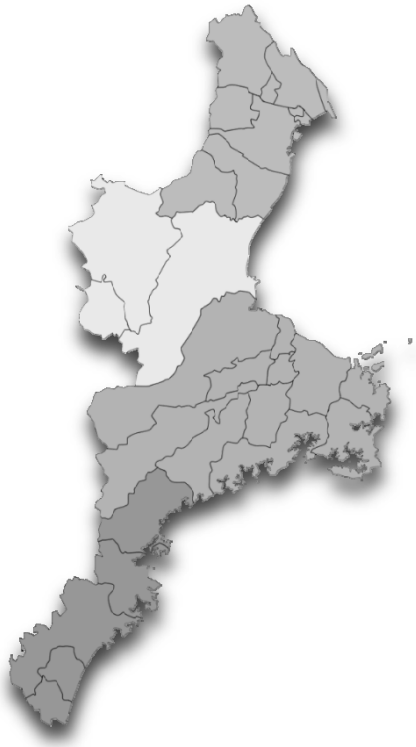
治療施設＼診断施設	自施設診断 （当該腫瘍について"がん"と診断された最も確かと考えられる検査が自施設初診後に行われた症例）	他施設診断 （当該腫瘍について"がん"と診断された最も確かと考えられる検査が自施設初診前にすでに行われていた症例）
自施設で初回治療せず	＜診断のみ＞ 154	＜その他＞ 8
自施設で初回治療開始	＜自施設診断・自施設治療開始＞ 787	＜他施設診断・自施設治療開始＞ 104
初回治療継続	＜自施設診断・自施設治療継続＞ 5	＜他施設診断・自施設治療継続＞ 13
初回治療終了後	＜初回治療終了後＞ 0	＜初回治療終了後、その他＞ 192
その他	＜その他＞ 0	＜その他＞ 0

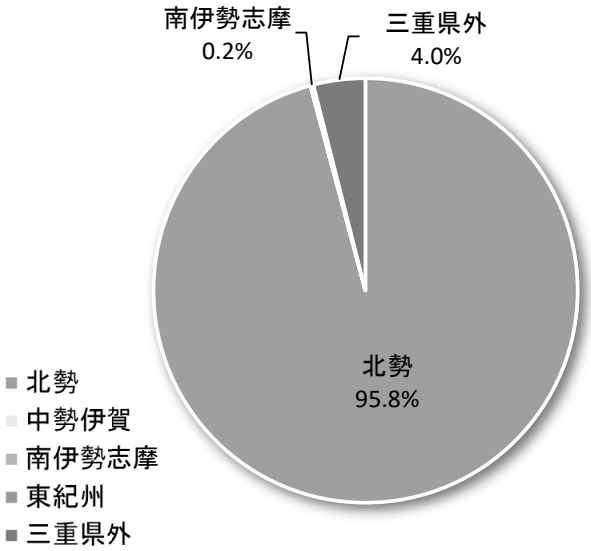
※表中の＜＞は診断施設・治療施設から選択される症例区分

診断時住所別

診断時住所別

医療圏	市郡・県外	町村	2021年			2022年			2023年		
			件数	(%)	件数	件数	(%)	件数	件数	(%)	件数
北勢	四日市市		1,074	(96.4%)	47	1,069	(96.9%)	59	1,210	(95.8%)	67
	桑名市				766			738			828
	鈴鹿市				3			2			6
	亀山市				2			0			1
	いなべ市				82			82			119
	桑名郡	(木曽岬町)			2			4			5
	員弁郡	(東員町)			114			112			112
	三重郡	(菰野町,朝日町,川越町)			58			72			72
中勢伊賀	津市		3	(0.3%)	3	1	(0.1%)	1	0	(0.0%)	0
	名張市				0			0			0
	伊賀市				0			0			0
南伊勢志摩	伊勢市		1	(0.1%)	0	1	(0.1%)	0	3	(0.2%)	2
	松坂市				0			0			1
	鳥羽市				0			1			0
	志摩市				0			0			0
	多気郡	(多気町,明和町,大台町)			0			0			0
	度会郡	(玉城町,度会町,大紀町,南伊勢町)			1			0			0
東紀州	尾鷲市		2	(0.2%)	2	2	(0.2%)	1	0	(0.0%)	0
	熊野市				0			1			0
	北牟婁郡	(紀北町)			0			0			0
	南牟婁郡	(御浜町,紀宝町)			0			0			0
三重県外			34	(3.1%)	34	30	(2.7%)	30	50	(4.0%)	50
合計(全登録数)					1,114			1,103			1,263



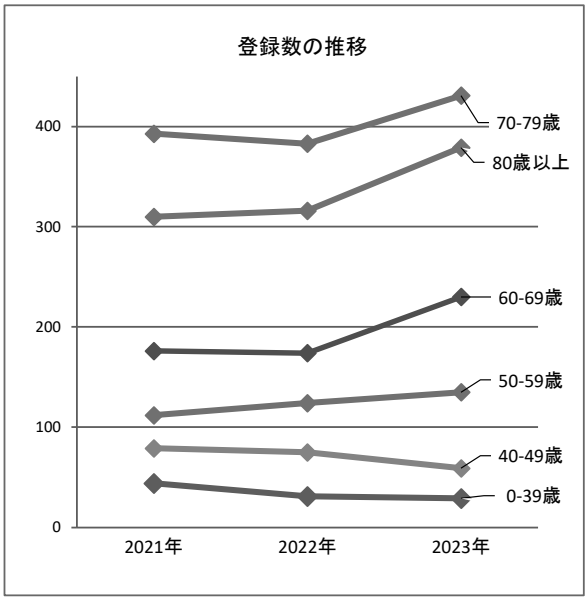


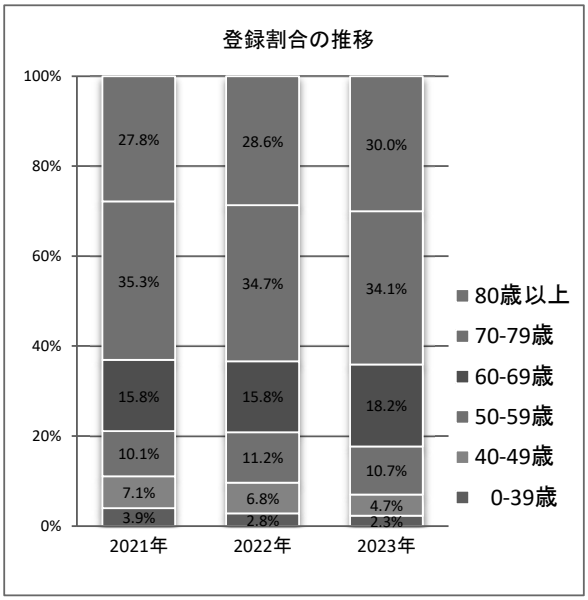
2023年診断住所別

年齢の割合

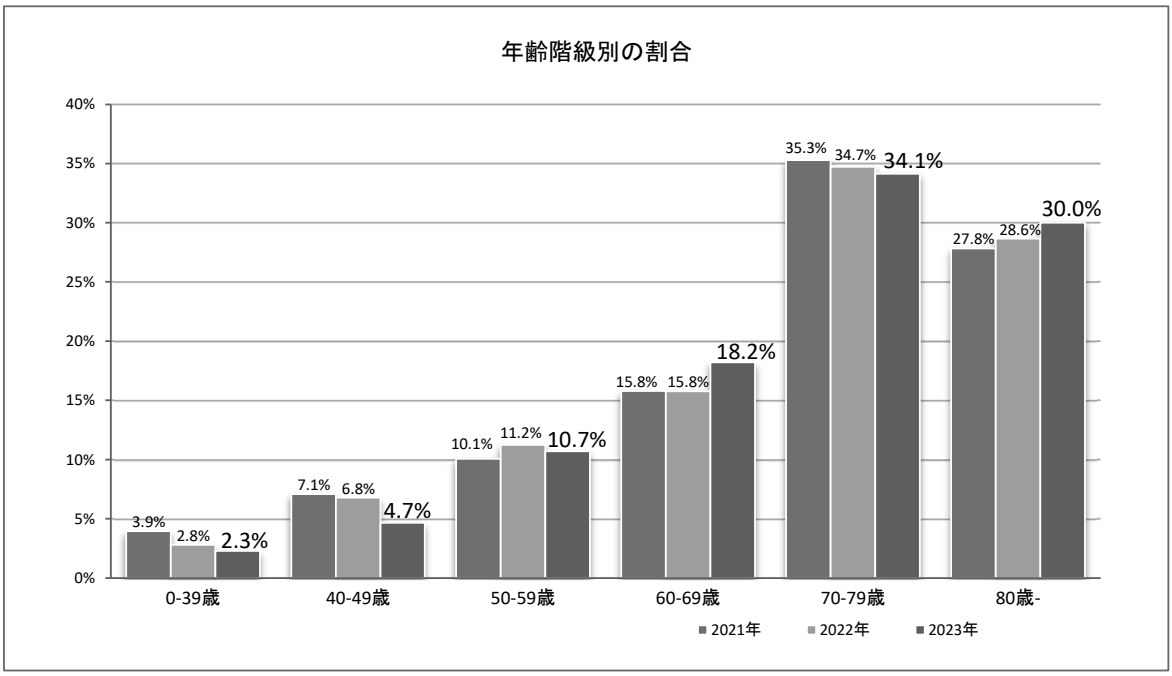
年齢階級別登録数の年次推移

診断年	2021年		2022年		2023年	
	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)
0-39歳	44	(3.9%)	31	(2.8%)	29	(2.3%)
40-49歳	79	(7.1%)	75	(6.8%)	59	(4.7%)
50-59歳	112	(10.1%)	124	(11.2%)	135	(10.7%)
60-69歳	176	(15.8%)	174	(15.8%)	230	(18.2%)
70-79歳	393	(35.3%)	383	(34.7%)	431	(34.1%)
80歳-	310	(27.8%)	316	(28.6%)	379	(30.0%)





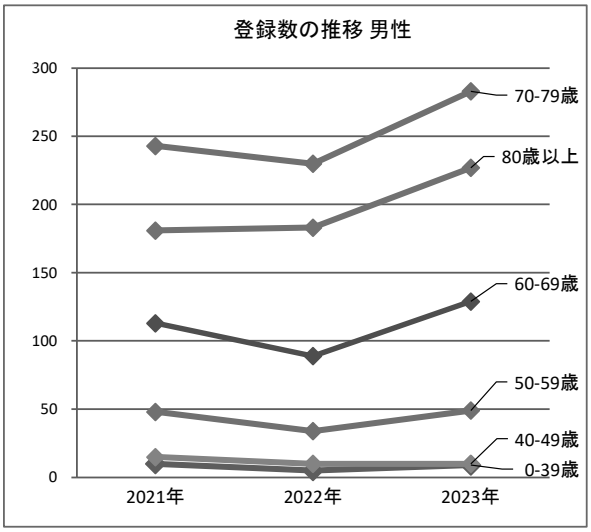
年齢階級別登録割合

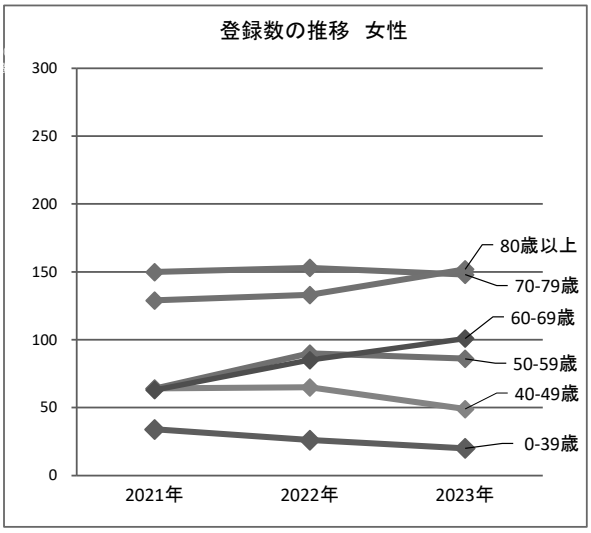


男女別　年齢階級別登録数の年次推移

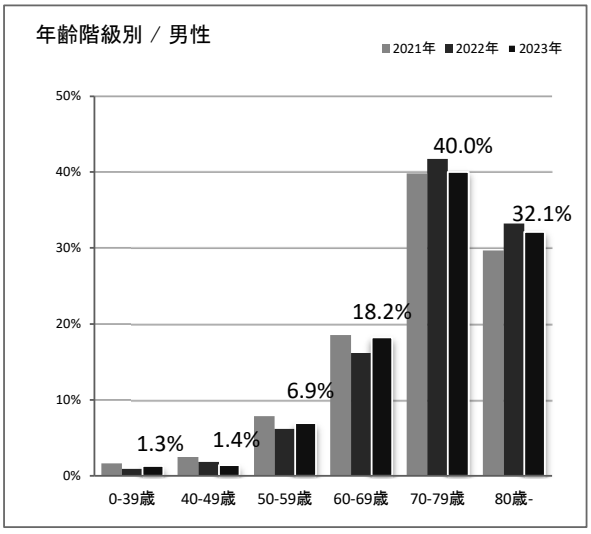
男女別　年齢階級別登録数の年次推移

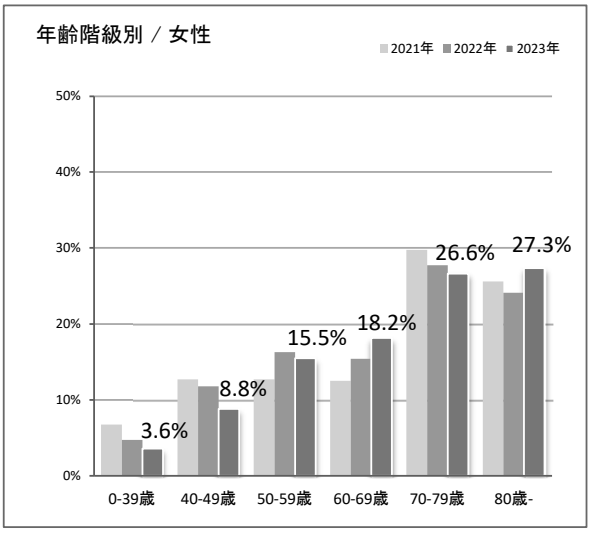
診断年	2021年		2022年		2023年	
男性	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)
0-39歳	10	(1.6%)	5	(0.9%)	9	(1.3%)
40-49歳	15	(2.5%)	10	(1.8%)	10	(1.4%)
50-59歳	48	(7.9%)	34	(6.2%)	49	(6.9%)
60-69歳	113	(18.5%)	89	(16.2%)	129	(18.2%)
70-79歳	243	(39.8%)	230	(41.7%)	283	(40.0%)
80歳-	181	(29.7%)	183	(33.2%)	227	(32.1%)
女性	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)
0-39歳	34	(6.7%)	26	(4.7%)	20	(3.6%)
40-49歳	64	(12.7%)	65	(11.8%)	49	(8.8%)
50-59歳	64	(12.7%)	90	(16.3%)	86	(15.5%)
60-69歳	63	(12.5%)	85	(15.4%)	101	(18.2%)
70-79歳	150	(29.8%)	153	(27.7%)	148	(26.6%)
80歳-	129	(25.6%)	133	(24.1%)	152	(27.3%)





男女別　年齢階級別登録割合



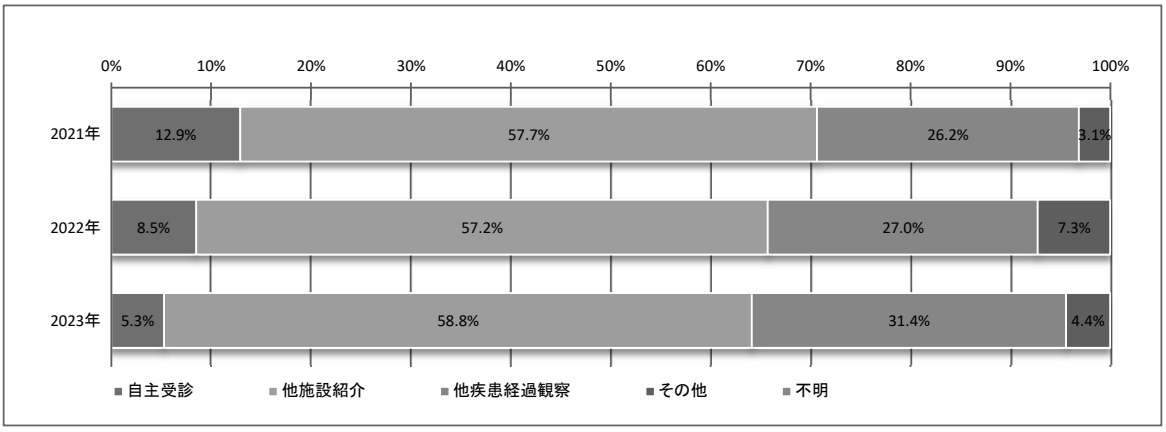


来院経路

来院経路

	2021年		2022年		2023年	
	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)
自主受診	144	(12.9%)	94	(8.5%)	67	(5.3%)
他施設紹介	643	(57.7%)	631	(57.2%)	743	(58.8%)
他疾患経過観察	292	(26.2%)	298	(27.0%)	397	(31.4%)
その他	35	(3.1%)	80	(7.3%)	56	(4.4%)
不明	0	(0.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)

来院経路

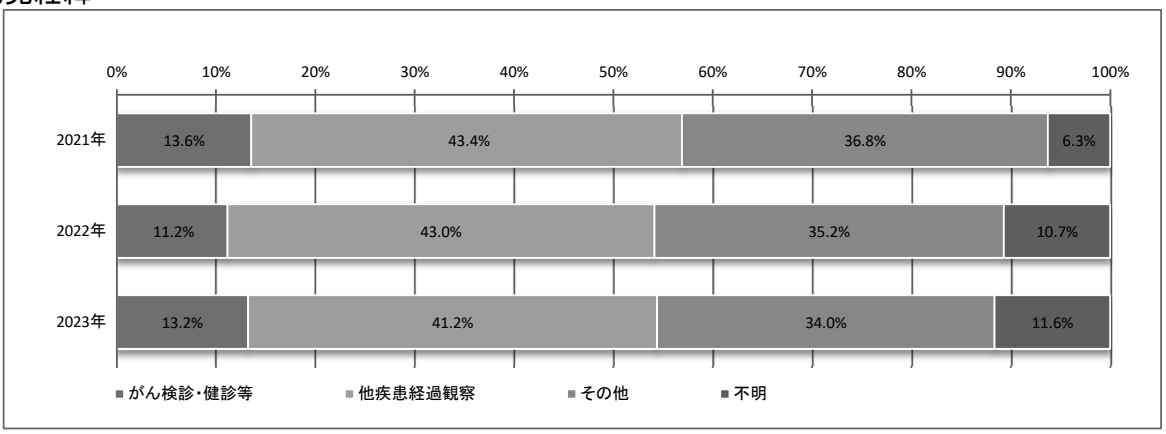


発見経緯

発見経緯

	2021年		2022年		2023年	
	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)
がん検診・健康診断・人間ドック	151	(13.6%)	123	(11.2%)	167	(13.2%)
他疾患経過観察	483	(43.4%)	474	(43.0%)	520	(41.2%)
剖検発見	0	(0.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)
その他	410	(36.8%)	388	(35.2%)	429	(34.0%)
不明	70	(6.3%)	118	(10.7%)	147	(11.6%)

発見経緯



3. 部署紹介・統計

循環器内科

スタッフ

名誉病院長	市川毅彦	医学博士	日本内科学会認定総合内科専門医・指導医 日本循環器学会認定循環器専門医 日本医師会認定産業医 人工透析従事職員研修修了 臨床研修指導医講習修了 緩和ケア研修会修了 三重大学医学部臨床講師
副病院長	山田典一	医学博士	日本内科学会認定総合内科専門医・認定内科医・指導医 日本循環器学会認定循環器専門医、社員・フェロー 日本脈管学会認定脈管専門医、評議員 日本血栓止血学会認定医、評議員 日本心臓病学会評議員、特別正会員 日本静脈学会理事 日本肺高血圧・肺循環学会評議員 弾性ストッキング・圧迫療法コンダクター認定 医療安全管理者養成研修会修了 臨床研修指導医講習修了 緩和ケア研修会修了 Best Doctors in Japan 2012-2013、2014-2015、2016-2017 2018-2019、2020-2021、2022-2023 三重大学客員教授 三重大学医学部臨床教授
部長	大久保節也	医学博士	日本内科学会認定総合内科専門医・指導医 日本循環器学会認定循環器専門医 日本医師会産業医 総合診療専門研修特任指導医 日本感染症学会認定ICD(Infection Control Doctor) プログラム指導者講習会修了 臨床研修指導医講習修了 緩和ケア研修会修了 厚生労働省オンライン診療研修修了 厚生労働省指定緊急避妊薬の処方にかかるオンライン診療研修修了 三重大学医学部臨床教授
循環器センター長	大村崇		日本内科学会認定総合内科専門医・認定内科医・指導医 日本循環器学会認定循環器専門医 日本心血管インターベンション治療学会専門医・施設代表医 日本心臓リハビリテーション指導士 臨床研修指導医講習修了 緩和ケア研修会修了

部　　長	千賀通晴　　医学博士 （～2023年12月31日）	日本内科学会認定総合内科専門医・認定内科医 日本循環器学会認定循環器専門医 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医 植込み型除細動器(ICD)/ペーシングによる心不全治療(CRT)研修証 緩和ケア研修会修了
医　　長	今井裕一	日本心血管インターベンション治療学会認定医 浅大腿動脈ステントグラフト実施医 リードレスペースメーカー(Micra)研修会修了実施医 Diamondback360実施医 日本フットケア・足病医学会下肢創傷処置・管理のための講習会修了 臨床研修指導医講習修了
医　　長	岡島春花	日本内科学会認定内科医 緩和ケア研修会修了
医　　長	糟谷彰悟	日本心血管インターベンション治療学会認定医 緩和ケア研修会修了
	柳澤将史	緩和ケア研修会修了
	大内亮介	緩和ケア研修会修了
	堀　智裕	
非　常　勤……2名		

診療科の特色・診療対象疾患

虚血性心疾患、不整脈、心不全、心臓弁膜症、大動脈疾患、末梢動脈疾患、肺循環障害(肺高血圧症、肺塞栓症)、静脈血栓塞栓症などに対し、検査・治療を行っています。

急性冠症候群については24時間365日緊急対応が出来る体制を整えホットラインとして開業医の先生方からの直接連絡に対応しています。

また、心疾患回復に向けた心臓リハビリテーションにも力を入れています。

年度回顧

年間106件の急性冠症候群に対し緊急での冠動脈カテーテル治療を行い、冠動脈形成術は372件に増加しました。石灰化が強くｽﾃﾝﾄ拡張が困難である症例に対してはIVL(血管内破砕術)が行えるようになり初期成績の向上が見込まれるようになりました。

不整脈治療については専門医の退職により症例数が減る可能性があるなか前年同様の手術件数を維持することが出来ました。

下肢血管治療については79件と前年度の倍以上の件数を行いました。

また心臓リハビリテーションでは地域連携を強化するための取り組みを継続・発展させています。

活動記録

	2023年度
冠動脈造影	604
冠動脈形成術	372
カテーテルアブレーション	70
ペースメーカー植込み/交換	85
下肢血管形成術	79

今後の展望

引き続き地域かかりつけ医の先生方とのホットラインでの連携強化・維持のほか、救急外来と密接な連携をとり、急性冠症候群に対しより早期の治療介入・予後改善を目指します。

不整脈についてはカテーテルアブレーションについては非常勤医による施行になりますが緊密な連携をとり情報共有を行い、リードレスペースメーカー留置の手技習熟等患者負担軽減を目指します。

下肢血管治療についてはCLTI(包括的高度慢性下肢虚血)に対する治療を「足の傷外来」立ち上げなどを含め低侵襲およびQOL改善を目指した高度治療を行っていきます。

心不全患者さんについては心臓リハビリテーションチーム介入のもと地域の医療機関・施設との連携をより深め情報の共有、再入院の抑制を目指します。

循環器治療全般的にガイドラインに準じた標準的治療を行うとともに、緊急および重症対応が必要な症例については他の基幹病院と連携をとり患者さまの予後改善に貢献していきます。

消化器内科

スタッフ

副病院長・ 感染管理部長	石田　聡	医学博士	日本内科学会認定内科医・指導医 日本消化器病学会認定消化器病専門医・指導医 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 日本肝臓学会認定肝臓専門医・指導医 日本医師会認定産業医 日本人間ドック学会人間ドック健診専門医 日本人間ドック学会人間ドック健診情報管理指導士 (人間ドックアドバイザー) ICD制度協議会ICD(Infection Control Doctor) 日本化学療法学会抗菌化学療法認定医 日本プライマリ・ケア連合学会プライマリ・ケア認定医・指導医 日本専門医機構総合診療領域特任指導医講習修了 臨床研修指導医講習修了 緩和ケア研修会修了 三重大学医学部臨床准教授
消化器センター長	中川直樹	医学博士	日本内科学会認定総合内科専門医・認定内科医・指導医 日本消化器病学会認定消化器病専門医・指導医 日本消化器内視鏡学会認定消化器内視鏡専門医・指導医 日本肝臓学会認定肝臓専門医・指導医 日本病態栄養学会認定病態栄養専門医研修指導医・ NSTコーディネーター 日本カプセル内視鏡学会認定医・指導医 日本消化管学会認定胃腸科専門医 日本医師会認定産業医 臨床研究講習会受講認定 臨床研修指導医講習修了 緩和ケア研修会修了
部長	泉　道博		日本内科学会認定内科医 日本消化器内視鏡学会認定消化器内視鏡専門医 ICLSプロバイダー 臨床研修指導医講習修了 緩和ケア研修会修了
部長	大矢由美	医学博士	日本内科学会認定総合内科専門医・指導医 日本消化器病学会認定消化器病専門医・指導医 日本肝臓学会認定肝臓専門医・指導医 日本医師会認定健康スポーツ医 日本医師会認定産業医 三重がんリハビリテーション研修修了 臨床研修指導医講習修了 緩和ケア研修会修了 三重大学医学部臨床准教授

部　　長	浦 吉 俊 輔	日本内科学会認定総合内科専門医・認定内科医・指導医 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医・指導医 日本消化器病学会認定消化器病専門医・指導医 臨床研修指導医講習修了 緩和ケア研修会修了
医　　長	山本あゆみ	日本消化器病学会認定消化器病専門医 日本内科学会認定内科医 日本ヘリコバクター学会認定H. pylori(ピロリ菌)感染症認定医 緩和ケア研修会修了
医　　長	村 田 亮 介	日本専門医機構認定内科専門医 緩和ケア研修会修了
医　　員	中 地 悌 喜	緩和ケア研修会修了
医　　員	吉 兼 佑 介	緩和ケア研修会修了
非　常　勤……6名		

診療科の特色・診療対象疾患

当科は県北勢部の基幹病院の消化器内科として消化器疾患全般：(食道、胃、小腸、大腸、肝臓、胆嚢、胆管、膵臓)の診療を幅広く行っております。消化器外科、放射線科、病理診断科や地域の開業医の先生(かかりつけ医)、他病院との連携を密にし、地域の中核病院としての役割を果たすべく日夜努力しています。我が国で死亡率の高い5大がんの中で以下の４種のがん(大腸がん、胃がん、膵臓がん、肝臓がん)は消化器内科の担当です。最先端の内視鏡診断(画像強調内視鏡、超音波内視鏡下生検、カプセル内視鏡検査、小腸内視鏡検査など)と低侵襲な内視鏡的治療(内視鏡的粘膜下層剥離術、内視鏡的総胆管結石治療、超音波内視鏡下生検・ドレナージ術、内視鏡的拡張術(ステント)、内視鏡的静脈瘤治療、内視鏡的胃瘻造設術など)を導入しています。近年増加している炎症性腸疾患の難治例に対しては生物学的製剤や、低分子化合物(JAK阻害剤)を用いた治療を行っています。

肝疾患に対しては当科に日本肝臓学会専門医が4名在籍しており急性肝障害から慢性肝疾患、肝不全、悪性腫瘍の何れの疾患にも患者さんのニーズにあった、必要かつ十分な医療を提供しています。

年度回顧

2023年度の診療内容の傾向としては2022年度と同様に上部・下部消化管悪性腫瘍に対する粘膜下層切開剥離術(ESD)、内視鏡的超音波誘導組織採取(EUS-TA)が増加傾向であり、更に近年の急速に患者数が増加している炎症性腸疾患に対する生物学的製剤や低分子化合物の使用例が増加傾向です。また消化器癌に対する化学療法の進歩は目覚ましく当科関連疾患でも免疫チャックポイント阻害剤を含めた分子標的剤の適応が拡大されてき

ており化学療法施行症例が増加傾向です。更にゲノム診療の進歩により高次医療機関と連携して腫瘍組織を用いての遺伝子パネル検査の頻度も増加してきています。今後のこの傾向はしばらく続くと考えられます。

又、コメディカルスタッフにも新たに複数の若手を迎えることが出来ました。消化器診療はコメディカルの専門性が求められますが、技能習得に時間を要しますが若手の進歩は目を見張るものがあり我々も大いに助けられました。

活動記録

◆◆各種実数2023年度◆◆

患　者　数	
新規入院患者数	1,427人
平均在院日数	9.1日
検　査　数	
上部消化管内視鏡検査	2,171件
上部消化管EMR	13件
上部消化管ESD	41件
下部消化管内視鏡検査	1,993件
下部消化管内視鏡検査EMR	331件
下部消化管ESD	23件
内視鏡的逆行性膵胆管造影（ERCP関連検査全て）	242件
内視鏡的胆管ドレナージ	37件
内視鏡的乳頭括約筋切開術	91件
内視鏡的胆管ステント留置	41件
内視鏡的膵管ステント留置	7件
内視鏡的膵石除去	2件
超音波内視鏡（消化管、胆膵）	59件
EUS-FNA関連検査・治療	27件
肝生検	38件
ラジオ、マイクロ波焼灼術	19件
肝動脈塞栓術	15件
腹腔静脈シャント造設	7件
CART	14件

今後の展望

地域の基幹病院としてほぼ全ての消化器疾患に対する診療を行える体制を整え地域で完結できる診療体制を構築していきたいと考えています。引く続き量と質の充実を図ることが今後の目標となります。この為には情熱を持ったスタッフの確保や、最新医療機器の整備を目指します。

糖尿病内分泌内科

スタッフ

部　　長	北川良子	医学博士	臨床研修指導医講習修了
医　　長	堀田康広		日本内科学会認定総合内科専門医・認定内科医 日本糖尿病学会認定糖尿病専門医 日本内分泌内科認定内分泌専門医 臨床研修指導医講習修了 緩和ケア研修会修了
医　　長	江口和人		日本内科学会認定内科医 日本糖尿病学会認定糖尿病専門医
医　　長	大熊伸一		緩和ケア研修会修了
	國保良太		

非　常　勤……1名

診療科の特色・診療対象疾患

主に、糖尿、内分泌疾患に関して診療しております。

医師以外にも、看護師、栄養士、検査技師、薬剤師等のスタッフとともに、チーム医療で患者さんを支援していきます。

活動記録

毎月「糖尿病療養指導士会議」、「糖尿病委員会」を開催し、情報交換、カンファレンスを経て、より糖尿病等のチーム医療の充実を行っております。

年度回顧

COVID-19が、季節性インフルエンザと同じ感染症法上５類に引き上げられ、社会活動の活性化が戻っていた時でした。しかし、長期間にわたる自宅中心の生活は、糖尿病をはじめとした生活習慣病を悪化させている印象がありました。

今後の展望

より密に疾患の情報提供を行っていきたいと思います。 特に、糖尿病は新薬の発売が続いていますので、最新の治療も提案していきます。

膠原病リウマチ内科

スタッフ

医　　長	小寺　仁	日本内科学会認定総合内科専門医・認定内科医 日本リウマチ学会認定リウマチ専門医・指導医 日本リウマチ財団登録医 日本腎臓学会認定腎臓専門医・指導医 日本プライマリ・ケア連合学会プライマリ・ケア認定医・指導医 日本透析医学会認定透析専門医 日本旅行医学会認定医 難病指定医 臨床研修指導医講習修了 緩和ケア研修会修了 JMECCインストラクター ICLSインストラクター
	玉田達也　（2024年1月11日～）	緩和ケア研修会修了
	秋山雅裕	緩和ケア研修会修了
非　常　勤……1名		

診療科の特色・診療対象疾患

関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、シェーグレン症候群、全身性強皮症、多発性筋炎・皮膚筋炎、脊椎関節炎、成人Still病、ベーチェット病、血管炎、等があります。まだまだ原因が不明な点が多い領域ではありますが、早期診断、早期治療に努めて参ります。

活動記録

第67回日本リウマチ学会 総会・学術集会 発表
第34回中部リウマチ学会 発表
第252回日本内科学会 東海地方会 発表

年度回顧

近年では、画期的な薬剤の開発・上市が進み、治療は飛躍的に進歩しております。

今後の展望

難治性病態が少なくありませんが、このエリアの患者さんに貢献すべく、地域完結型医療の提供を行って参ります。

血液内科

スタッフ

部　　長	渡辺　隆	医学博士	日本内科学会認定内科医 日本血液学会認定血液専門医・指導医 日本血液学会評議員 日本癌学会評議員 日本リンパ網内系学会評議員 日本骨髄腫学会代議員 日本臨床腫瘍学会協議員 Best Doctors in Japan 2010-2011、2012-2013、2014-2015、 2016-2017、2018-2019、2020-2021、 2022-2023、2024-2025 臨床研修指導医講習修了 緩和ケア研修会修了

非　常　勤……1名

診療科の特色・診療対象疾患

必ずガイドラインに基づき、稀有例に関してはあらゆる報告に目を通した後、対応方針を決めています。常勤1名のため、外来対応可能な範囲での診療となり、入院加療が必要な患者さんは、近隣の病院に紹介しております。

【対象疾患】

悪性リンパ腫・多発性骨髄腫（MM）・慢性白血病・本態性血小板増多症（ET）・真性多血症（PV）・骨髄異形成症候群（MDS）・好酸球増加とチロシンキナーゼ遺伝子融合を伴う骨髄系/リンパ系腫瘍、免疫性血小板減少性紫斑病（ITP）・自己免疫性溶血性貧血（AIHA）・再生不良性貧血（AA）

年度回顧

愛知県がんセンター、名古屋大学附属・海南・鈴鹿回生・鈴鹿中央病院へ紹介し、個々の患者さんにとって最適の医療を提供でき、一部の患者さんには治癒に近い状態で逆紹介して頂いた患者さんがいました。その一方で、実は完全奏効が得られていなかったため、当院での外来経過観察が困難で逆紹介して貰っても紹介先に帰って頂かざるを得なかった患者さんもいました。講座名に相応しく、骨髄系・リンパ系腫瘍患者さんに対して複数の治療選択肢の中から患者さんの忍容性に配慮し、文字通り個別化治療を行えたと思います。他科依頼の患者さんで臨床診断でindolent lymphomaとのみ推定され、確定診断をつけず無治療経過観察（watchful waiting: w/w）中の患者さんが数名います。

活動記録

以下の患者さんを新規に診断し、下記のように対応致しました（常勤１名分のみ）。

１）緊急転院：

①小腸原発びまん性大細胞型B細胞リンパ腫（→消化管穿孔なく現在治療継続中）１名、小腸原発 aggressive lymphoma　１名

②固形がんに対する化学療法後の二次性急性骨髄性白血病　１名

③一次治療不応性クームス陰性AIHA　1

④薬剤性無顆粒球症・血小板減少症（無菌室病床へ）　１名

２）短期間での転院：

⑤小腸原発 indolent lymphoma疑い　１名

３）当院で精査後導入療法のため紹介：

⑥脾臓辺縁帯リンパ腫　１名（抗CD20抗体単独療法目的）

⑦マントル細胞リンパ腫　１名

⑧MM　十数名

⑨高リスクMDS　数名（脱メチル化阻害剤アザシチジン皮下注目的）

⑩ＡＡ　数名

４）外来治療抵抗性にて入院加療目的で転院

⑧MM　２名（１名は継続治療を望まれず緩和医療）

⑪（骨髄増殖性腫瘍からの）二次性骨髄線維症　１名

５）長期療養型入院のため転院：

⑥脾臓辺縁帯リンパ腫疑い ＋ ⑨MDS　合併　１名

６）外来治療：

③AIHA　２名（１名はクームス陰性）

⑫ITP　数名

⑬ET＋PV　計10名弱

⑭好酸球増加とチロシンキナーゼ遺伝子融合を伴う骨髄系/リンパ球系腫瘍（未治療で各種遺伝子検査いずれも陰性につき病型詳細不明）　１名

７）無治療経過観察（他科依頼より）：

⑥脾臓辺縁帯リンパ腫疑い　１名

⑨低リスクMDＳ　数名

⑩ＡＡ　数名

⑪原発性骨髄線維症　１名

⑮遺伝性球状赤血球症　4名（1名は脾摘予定）

⑯サラセミア　１名

⑰免疫不全/調節不全に生じるリンパ腫　１名（RAに対するMTX中止後）

⑱MALT節外辺縁帯リンパ腫　数名

⑲低悪性度B細胞リンパ腫疑　3名（FNAのため確定診断がつかず依頼を受け、表在リンパ節腫大時に生検で確定診断予定するもw/w）

８）その他

⑭好酸球増多症候群　３名（１例は他科で副腎皮質ステロイド投与後に依頼を受け、他２名は各融合遺伝子いずれも陰性につき病型詳細不明）

⑳相対的または二次性赤血球増加症　数名

９）他院からの転院受入：

㉑B型慢性肝炎合併にてBCR-ABLチロシンキナーゼ不耐容慢性骨髄性白血病　１名

㉒免疫特権部位（中枢神経系）原発大細胞型B細胞リンパ腫（大量化学療法/自家幹細胞移植後逆紹介）　１名

㉓選択的IgA欠損症　１名

⑧MM（経口剤治療）　１名

㉔縦隔原発大細胞型B細胞リンパ腫（逆紹介を受けるも再燃しており紹介先に戻し緩和医療）　１名

今後の展望

他院で導入療法を受けられた後自宅から近い当院へ外来通院治療目的で紹介されるMDS患者さんに対して、薬剤師さん・看護師さんの協力が得られれば、他院での導入療法の継続治療ができるよう、脱メチル化阻害剤皮下注製剤ビダーザの導入を検討したく思っています。

腎 臓 内 科

スタッフ

部　　長 血液浄化療法室部長	安 冨 眞 史	日本内科学会認定総合内科専門医・認定内科医 日本循環器学会認定循環器専門医 日本腎臓学会認定指導医 日本腎臓学会腎臓専門医 日本透析医学会専門医・指導医 日本腎代替療法医療専門職推進協会腎代替療法専門指導士 臨床研修指導医講習修了 緩和ケア研修会修了
医　　長	横 井 友 和	日本内科学会認定内科医
医　　長	西 田 順 二	日本内科学会認定総合内科専門医・認定内科医 日本腎臓学会腎臓専門医 日本透析医学会専門医 PKD認定医 JMECCインストラクター 日本透析アクセス医学会ＶＡ血管内治療認定医 日本救急医学会認定ICLS・BLSコースインストラクター 日本腹膜透析医学会認定医 緩和ケア研修会修了
医　　長	三 浦 翔 子	日本内科学会総合内科専門医・認定内科医 日本腎臓学会腎臓専門医 日本透析医学会 VA血管内治療認定医 日本透析医学会専門医 緩和ケア研修会修了
	秋 山 言 宇	緩和ケア研修会修了
	山川真由子	緩和ケア研修会修了

診療科の特色・診療対象疾患

三重県北勢地区の腎臓疾患の診療の中心的な役割を果たすべく、慢性腎炎・慢性腎不全治療を積極的に行っています。

また、急性病院では珍しく透析管理にも力を入れ、また近隣の病院での透析管理も行い、総計200名以上の透析管理を行っています。

年度回顧

医師6名であり、多くのシャントPTAやシャント造設・また他院においての透析管理の開始など三重県北勢の最大規模の腎臓内科としての飛躍ができた年であった。

活動記録

シャントPTAは537例
シャント造設は70例（内人工血管使用３例）
人工血管抜去術　２例
長期留置カテーテル挿入術　２例
腹膜透析カテーテル挿入術　１例
腎生検　47例であった。
多数の講演会での講演・学会発表を行った。

今後の展望

今後も三重県北勢地区での腎臓内科治療の底上げを行うとともに、次世代の腎臓内科医の育成にも力を入れていきたい。

呼吸器内科

スタッフ

部　　長	油田尚総	医学博士	日本内科学会認定総合内科専門医 日本呼吸器学会認定呼吸器専門医・指導医 日本呼吸器内視鏡学会認定気管支鏡専門医・指導医 日本感染症学会認定感染症専門医 日本化学療法学会認定抗菌薬臨床試験指導医 日本結核病学会認定結核・抗酸菌症指導医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医
部　　長	蛯原愛子	医学博士	日本内科学会認定総合内科専門医・指導医 日本呼吸器学会認定呼吸器専門医 日本呼吸器内視鏡学会認定気管支鏡専門医 日本がん治療認定医機構認定医 日本化学療法学会抗菌化学療法認定医 日本結核病学会結核・抗酸菌症認定医 日本感染症学会認定ICD(Infection Control Doctor) 緩和ケア研修会修了
	大岩綾香	（2023年10月1日～）	日本内科学会認定内科専門医 日本結核病学会結核・抗酸菌症認定医
	平井貴也		緩和ケア研修会修了
非　常　勤……４名			

診療科の特色・診療対象疾患

呼吸器疾患全般（睡眠時無呼吸症候群を除く）に対し、専門診療を行っています。

年度回顧

常勤４名体制で診療を行っています。

活動記録

◆◆入院患者延べ数◆◆

	常勤医師	入院患者（年間）
2020年	2名	206名
2021年	3名	330名
2022年	4名	444名
2023年	4名	431名

今後の展望

2024年４月から常勤医師５人体制となる見込みです。

小　児　科

スタッフ

部　　長	森谷朋子	小児科専門医 新生児蘇生法専門コースプロバイダー オンライン診療研修修了 臨床研修指導医講習修了
部　　長 周産母子センター長	馬路智昭	小児科専門医・指導医 日本周産期・新生児医学会認定周産期（新生児）専門医 日本小児救急医学会SIメンバー・代議員 出生前コンサルタント小児科医 新生児蘇生法専門コースインストラクター アメリカ心臓協会認定BLSインストラクター アメリカ心臓協会認定PALSインストラクター アメリカ心臓協会認定PEARSインストラクター 三重県災害時小児周産期リエゾン 身体障害者福祉法第15条第1項による指定医師 日本コーチ協会認定メディカルコーチ プログラム責任者養成講習会修了 臨床研修指導医講習会修了 三重大学医学部臨床講師
部　　長	山本和歌子　医学博士	小児科専門医・指導医 日本周産期・新生児医学会認定周産期（新生児）専門医・指導医 身体障害者福祉法第15条第1項による指定医師 難病指定医 小児慢性特定疾病指定医 三重県災害時小児周産期リエゾン 新生児蘇生法専門コースインストラクター 臨床研修指導医講習修了
部　　長	大槻　静	小児科専門医・指導医 新生児蘇生法専門コースプロバイダー オンライン診療研修修了 臨床研修指導医講習修了
部　　長	間宮範人	小児科専門医 身体障害者福祉法第15条第1項による指定医師 新生児蘇生法専門コースプロバイダー オンライン診療研修修了 臨床研修指導医講習修了
医　　長	山田菜美	新生児蘇生法専門コースプロバイダー アメリカ心臓協会認定PALSプロバイダー
医　　長	牛田英里	小児科専門医 新生児蘇生法専門コースプロバイダー

堀 口 駿 一 （～2023年6月30日）	緩和ケア研修会修了
加 藤 公 也	新生児蘇生法専門コースプロバイダー アメリカ心臓協会認定PALSプロバイダー 緩和ケア研修会修了

非　常　勤……５名

診療科の特色・診療対象疾患

当センターの周産母子センターはNICU（新生児集中治療室）9床が認可されており、治療・管理が必要な新生児に24時間体制で対応しています。

一般小児病棟では急性疾患や慢性疾患を中心に入院治療を行っています。

外来では神経疾患、循環器疾患、腎疾患、アレルギー疾患、内分泌疾患などの診療や、NICUフォローアップ外来をしています。

年度回顧

2018年5月新病院オープン時はNICU６床でしたが、2020年９月に６床から９床に増床しました。2021年度は桑名市内および近隣市町の産科クリニックからの母体搬送が増えています。当センターで出生して急性期にNICU入院後は、産科クリニックと連携して、産後の育児支援を円滑にすすめる事ができるようになりました。

活動記録

◆◆診療実績（2023年度）◆◆

入院	NICU入院数	186例
	６南小児科入院数	438例
外来	在宅療養支援	12例

今後の展望

2024年は地域周産期センターとして県からの指定を得て、今後はGCU6床の開設をめざします。

また桑名市内の医療的ケア児の在宅医療サポートのため、2021年度からレスパイト支援事業を始めており、行政や関係機関と協働してこの事業に更に取り組みます。

今後にますます病診連携をすすめて、かかりつけクリニックでは日常診療をお願いして、当センターでは急性疾患の入院加療や慢性疾患の精密検査入院を担当して、地域の小児医療に尽くしてまいります。

産 婦 人 科

スタッフ

部　　長	前 田 佳 紀	日本産科婦人科学会産婦人科専門医・指導医 母体保護法指定医 日本超音波医学会 日本超音波専門医 Fetal Medicine Foundationライセンス （NT,NB,DV,TR） 妊産婦死亡症例検討評価委員会委員 日本母体救命システム普及協議会ベーシックコース受講修了 オンライン診療研修修了 緊急避妊薬の処方にかかるオンライン診療研修修了 緩和ケア研修会修了
部　　長	千 田 時 弘	日本産科婦人科学会産婦人科専門医・指導医 日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医 日本産科婦人科内視鏡学会腹腔鏡技術認定医 母体保護法指定医 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医 ダヴィンチサージカルシステム術者認定 新生児蘇生法専門コースプロバイダー JPTECプロバイダー ICLSプロバイダー TNT(Total Nutrition Therapy)プロジェクト終了医師 JOGa_器質性月経困難症に対する適正なホルモン療法等に係る研修修了 緊急避妊の処方にかかるオンライン診療研修修了 オンライン診療研修修了 臨床研修指導医講習修了 緩和ケア研修会修了
医　　長	手石方康宏	日本産科婦人科学会産婦人科専門医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 日本産科婦人科内視鏡学会腹腔鏡技術認定医 日本内視鏡外科学会技術認定医 ダヴィンチサージカルシステム術者認定 JOGa_器質性月経困難症に対する適正なホルモン療法等に係る研修修了 臨床研修指導医講習修了 緩和ケア研修会修了
医　　長	脇 坂 太 貴	日本産科婦人科学会産婦人科専門医 日本がん治療認定医機構日本がん治療認定医 JOGa_器質性月経困難症に対する適正なホルモン療法等に係る研修修了 日本DMAT隊員 ダヴィンチサージカルシステム助手認定資格 緊急避妊薬の処方にかかるオンライン診療研修修了 オンライン診療研修修了 緩和ケア研修会修了

医　　長	小髙紗季	日本産科婦人科学会産婦人科専門医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 ダヴィンチサージカルシステム助手認定資格 日本母性内科学会母性内科診療プロバイダー 臨床研修指導医講習修了 緩和ケア研修会修了
	榊原康平	新生児蘇生法専門コース修了 ダヴィンチサージカルシステム助手認定資格 緩和ケア研修会修了
	杉本賢政	新生児蘇生法専門コースプロバイダー 日本産婦人科医会J-MELSベーシックコース修了 ALSOプロバイダー JOGa_器質性月経困難症に対する適正なホルモン療法等に係る研修修了 ダヴィンチサージカルシステム助手認定資格 緊急避妊薬の処方にかかるオンライン診療研修修了 オンライン診療研修修了 緩和ケア研修会修了
非　常　勤……1名		

診療科の特色・診療対象疾患

地域中核総合病院の産婦人科として、主に産科、婦人科、女性医学領域を主体に診療しています。産科ではNICU（新生児集中治療室）を併設した周産期センターとして地域のハイリスク妊婦や合併症妊娠を中心に診療に当たっています。

婦人科では子宮頸癌、卵巣癌、子宮体癌等の婦人科悪性腫瘍に加え、良性疾患に対しては低侵襲手術としてDa Vinciを用いたロボット支援手術、腹腔鏡下手術、子宮鏡下手術の実施可能であり各症例に応じて最適な治療を選択しています。

年度回顧

2023年から無痛分娩を24時間対応可能とし、結果的に無痛分娩の症例数が著しく増加しそれに伴って分娩数も増加傾向にあります。また、胎児超音波を用いた出生前検査の拡充を進めています。

婦人科ではロボット支援手術を積極的に進めました。また、新たな手術方法としてV-NOTES(vaginal natural orifice transluminal endoscopic surgery)を導入しました。腟からアプローチする腹腔鏡手術であり術後疼痛の減少や腹部に傷がつかないことによる整容性が従来の方法と比べ優れていると考えられます。

活動記録

◆◆産科実績◆◆

年　　度	2023	2022	2021
分　娩　数	371	319	293
帝王切開数	103	121	111
母体搬送数	44	44	55
早　　産	28	30	43
多　　胎	7	8	13
無 痛 分 娩	82	7	13

◆◆手術実績◆◆

年　　度	2023	2022	2021
全 手 術 件 数	324	404	398
悪性腫瘍手術	38	43	59
腹腔鏡下手術	92	154	123
ロボット支援下手術	9	1	0
V-NOTES	2	0	0

◆◆その他実績◆◆

年　　度	2023	2022	2021
入院化学療法	88	41	51
外来化学療法	170	152	175
放 射 線 治 療	15	7	16
子宮動脈塞栓	5	7	4
子宮内膜焼灼	3	4	2

今後の展望

産婦人科では無痛分娩のニーズの増加や新しい手術方法や抗がん剤治療の誕生など常に医学知識のアップデートをしていく重要性を感じています。

そういった時代の潮流の中で、我々の責務である『地域の方々の健康を守る』ために、患者様とご紹介をいただく先生方の期待に応えるべく尽力して参ります。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

消化器外科・一般外科・乳腺外科

スタッフ

病院長	登内　仁	医学博士	日本外科学会認定外科専門医・指導医 日本消化器外科学会認定消化器外科専門医・指導医 日本消化器病学会認定消化器病専門医 日本大腸肛門病学会認定大腸肛門病専門医 消化器がん外科治療認定医 臨床研修指導医講習修了 緩和ケア研修会修了 三重大学客員教授
副病院長	町支秀樹	医学博士	日本外科学会認定外科専門医・指導医 日本消化器外科学会認定消化器外科専門医・指導医 日本消化器病学会認定消化器病専門医・指導医 日本肝臓学会認定肝臓専門医・指導医 日本感染症学会認定ICD(Infection Control Doctor) 日本慢性期医療協会認定医 日本緩和医療学会緩和医療認定医 検診マンモグラフィ読影認定医師 臨床研修指導医講習修了 緩和医療認定医　研修指導者講習会修了 緩和ケアの基本教育に関する指導者研修会修了 緩和ケア研修会修了 三重大学医学部臨床講師・非常勤講師
部長	鈴木秀郎	医学博士	日本外科学会認定外科専門医 日本消化器外科学会認定消化器外科専門医・指導医 日本消化器病学会認定消化器病専門医 日本病理学会認定病理専門医 日本乳癌学会乳腺専門医・認定医 TNT(Total Nutrition Therapy)プロジェクト終了医師 検診マンモグラフィ読影認定医師 日本医師会認定産業医 日本臨床栄養代謝学会認定医 日本DMAT隊員 臨床研修指導医講習修了 緩和ケア研修会修了 三重県警察医
部長	小西尚巳	医学博士	日本外科学会認定外科専門医・指導医 日本消化器外科学会認定消化器外科専門医・指導医 日本消化器病学会認定消化器病専門医 日本乳癌学会認定乳腺専門医 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医 検診マンモグラフィ読影認定医師 緩和ケア研修会修了

部　　長	髙橋直樹	医学博士	日本外科学会認定外科専門医 日本消化器外科学会認定消化器外科専門医・指導医 日本消化器病学会認定消化器病専門医 消化器がん外科治療認定医 日本肝臓学会認定肝臓専門医 がんのリハビリテーション研修修了 臨床研修指導医講習修了 緩和ケア研修会修了
部　　長	杉澤　文	医学博士	日本外科学会認定外科専門医・指導医 日本大腸肛門病学会認定大腸肛門病専門医・指導医 日本がん認定医機構がん治療認定医 日本消化器外科学会認定消化器外科専門医 消化器がん外科治療認定医 日本乳癌学会乳腺認定医 日本化学療法学会抗菌化学療法認定医 緩和ケア研修会修了
部　　長	肥満智紀		日本外科学会認定外科専門医 緩和ケア研修会修了
部　　長	水越幸輔	医学博士	日本外科学会認定外科専門医 日本外科学会認定外科専門医 日本内視鏡外科学会技術認定医・評議員 日本消化器内視鏡学会認定消化器内視鏡専門医 日本消化器病学会認定消化器病専門医 日本大腸肛門病学会認定大腸肛門病専門医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 日本消化器外科学会認定消化器外科専門医 日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医 三重がんリハビリテーション研修修了 ダヴィンチサージカルシステム術者認定 Robo-Doc Pilot（国内B級） 臨床研修指導医講習修了 緩和ケア研修会修了
医　　長	岡部雄介		日本外科学会認定外科専門医 緩和ケア研修会修
	篠田真理	（～2023年6月30日）	ダヴィンチサージカルシステム助手認定資格 緩和ケア研修会修了
	服部小百合		緩和ケア研修会修了
非　常　勤……２名			

診療科の特色・診療対象疾患

当科は、三重大学 現 肝胆膵移植外科、旧第１外科医局と三重大学 現 消化管・小児外科、旧第２外科の２つの外科医局が県内初で一緒に仕事しており、診療対象疾患は消化器疾患(食道、胃、小腸、大腸、肛門、肝、胆嚢、膵臓)に加えて乳腺疾患と広範囲です。がんに対してはガイドラインに準拠し、必要ならば化学療法、放射線治療を手術とともに計画し集学的治療に努めています。病理専門医が常勤しており、術中迅速病理診断(センチネルリンパ節生検など)が可能でより正確な根治手術を行っています。術式に関してはmajor surgeryとして食道癌手術、肝癌に対して肝切除、膵、胆道癌に対して膵頭十二指腸切除など高難度手術を行なっています。胃癌・大腸癌の１部、良性疾患の虫垂切除、胆道良性、ヘルニアは術後QOL向上のため低侵襲の鏡視下手術を中心に行っています。近年、ロボット支援手術が、保険収載されて全国的に増加し、当院でも2022年７月よりロボット支援手術（ダビンチシステム）の導入となりました。当科も同年10月より直腸癌のロボット支援手術を開始しました。乳癌根治術に関しては、整容性を考えた乳房温存療法、乳房再建術を積極的に行っています。教室との連携も密で１回/月で三重大学肝胆膵外科 水野教授に手術指導、１回/週で三重大学消化管・小児外科問山教授の初診外来、大井准教授の手術指導をして頂いております。また、救急医療に関して日勤帯でも救急番を決めて外科系救急患者を診察し、緊急手術に積極的に対応しています。

年度回顧

2023年度が始まってすぐの５月にコロナは５類感染症となり、ＢＣＰ対応もなくなりました。手術数は増加しました。５月は病院合併して丁度５年で合併時、先行き不安な中、登内院長と県内初の当院外科の運営を５年間は頑張りましょうと励まし合ったことを思い出します。ポストコロナになり、手術数は徐々に増えて忙しくも充実した１年間でした。コロナ禍で様々な対策を練り、病院の舵取りをし、当院の運営にも尽力してきました登内院長ですが、非常に残念ながら、2024年３月で定年退職となりました。名張市立病院顧問として新天地での益々の御活躍を祈念致します。後任院長は竹田理事長の発案で院長選挙を行うことになりました。登内院長の推薦もあり、小生も立候補しましたが、次点となり、院長代行を拝命しました。もう一つトピックスがあります。今回、高橋先生より育児休暇の要望がありました。教室教授や登内院長、スタッフと相談し、約１ヶ月の育児休暇が無事に実現できました。大学からは手術応援・指導、輪番当直医局の派遣などの協力をして頂きました。男性医師としては当院初であり、他科からの反響も大きかったです。

活動記録

手術症例総数は2018年（１-12月)778例、2019年（１-12月)1145例、2020年（１-12月)911例、2021年（１-12月)965例、2022年（１-12月)920例、2023年867例（１-12月）とコロナ禍の影響にも拘わらず、健闘しています。また、多忙の中、当科業績にあるように全国学会への演題発表や論文発表を続けています。

今後の展望

手術に関してはこれまで通りに待機手術、緊急手術に頑張っていきたいと思っています。また、ロボット支援手術も適応を拡大していけるように準備を進めていきたいと思います。医師の働き方改革が厚労省により推進されてきています。ワークシェアーや当直翌日に昼から休みにすることや，夏休みも有給休暇と併せて各自1週間は確保できるようにしてリフレッシュして仕事に打ち込める体制を持続していきたいと思います。また、働きやすいように今回のような育児休暇に加え、今後、介護休暇の要望があれば実現できるよう環境を整えたいと思っています。

全国的に外科医師数の減少傾向が認められ外科診療の存続が危ぶまれています。当院は14人（フルマッチ）の卒後研修医を迎えており、初期研修医は総勢28人でほぼ毎月、当科にきてくれて、積極的に外科研修に取り組んでもらっています。教育・指導面を充実させてこの中から１人でも多く外科を志望して入局してもらえるようにしていきたいと思っています。

心臓血管外科・呼吸器外科

スタッフ

胸部外科部長 集中治療室部長	湯 淺 右 人	医学博士	日本胸部外科学会認定医・専門医会員 日本外科学会認定外科専門医・指導医 日本心臓血管外科専門医・修練指導者 日本脈管学会認定脈管専門医・指導医 下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術実施医・指導医 ダヴィンチサージカルシステム助手認定資格 弾性ストッキング・圧迫療法コンダクター講習会修了 三重大学胸部心臓血管外科臨床講師 臨床研修指導医講習修了 緩和ケア研修会修了
呼吸器外科部長	天 白 宏 典	医学博士	日本外科学会認定外科専門医・指導医 日本呼吸器外科専門医・呼吸器外科学会評議員 日本胸部外科学会専門医会員 ダヴィンチサージカルシステム術者認定 三重大学胸部心臓血管外科臨床講師 臨床研修指導医講習修了 緩和ケア研修会修了

非　常　勤……2名

診療科の特色・診療対象疾患

心臓血管外科は、成人心臓疾患・大動脈疾患・末梢動脈疾患・静脈疾患の治療を行っています。呼吸器外科は、肺悪性腫瘍・気胸・縦隔腫瘍・胸壁腫瘍・膿胸/肺化膿症・胸部外傷を対象としています。

年度回顧

呼吸器外科では2023年1月よりロボット(ダヴィンチ)支援による肺がん手術を開始しました。また医師が増えたことで呼吸器外科手術件数が増加しています。血管外科では近隣で静脈手術が行われていないために、他県からも受診患者が増えています。

活動記録

◆◆診療実績◆◆

手術件数	2023年度
胸腔鏡下肺悪性腫瘍切除術	42例
うちロボット支援手術	2例
肺悪性腫瘍・開胸手術	8例
縦隔腫瘍手術	7例
気胸手術	21例
膿胸手術	3例
その他良性呼吸器疾患手術	10例
末梢動脈手術	23例
静脈瘤手術	58例
その他	1例
合　計	173例

今後の展望

心臓血管外科では循環器内科と合同で治療を行っており、特に下肢脈管疾患治療に力を入れています。呼吸器外科はロボット支援手術を導入しており、今後も積極的に使用していく予定です。

整形外科・リウマチ科

スタッフ

部　　長	中瀬古健	医学博士	日本整形外科学会認定専門医 日本整形外科学会認定スポーツ医 日本整形外科学会認定リウマチ医 日本整形外科学会認定リハビリテーション医 日本リウマチ学会専門医・指導医 日本骨粗鬆症学会認定医 臨床研修指導医講習修了 三重大学医学部臨床教授
部　　長	松田　理		日本整形外科学会認定専門医 日本リウマチ財団リウマチ登録医 日本整形外科学会認定スポーツ医 日本整形外科学会認定リウマチ医 日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション医 難病指定医 臨床研修指導医講習修了 三重大学医学部臨床教授
部　　長	岡村直樹	医学博士	日本整形外科学会認定専門医 日本人工関節学会認定医 日本体育協会認定スポーツドクター 義肢装具等適合判定医 臨床研修指導医講習修了 自家培養軟骨実施医講習修了 三重大学医学部臨床教授
部　　長	松井佑梨世	医学博士	日本整形外科学会認定専門医
	半田忠幹	（2022年4月1日～）	
	髙田晃佑	（2023年5月1日～）	
非　常　勤……	４名		

診療科の特色・診療対象疾患

当科では、高齢者の骨折を中心に、交通事故・スポーツなどによる一般的な外傷に対する診療を行っています。また、当センターの柱である救急医療の整備に伴い、救急外来からの外傷の患者さんを迅速かつ的確に診断し、治療へと進めていくことを行っています。近隣の開業医からの紹介にも対応して、種々の検査を行い、治療をしていきます。

膝、股関節を中心とした変形性関節症に対しても保存的加療、手術的加療を考えて治療していきます。人工関節外来を行っており、変形が進行し、痛みが強い患者さんは開業医

から紹介していただき、積極的に手術を勧めています。年間股関節・膝関節を合わせて100件以上の人工関節置換術を行っています。症例に応じては、骨切り術も行っています。

骨粗鬆症に関しては、骨密度が低下している患者さんのみならず、大腿骨近位部骨折をきたして入院、手術的加療を行った患者さんにも積極的治療を開始しています。

小児科の充実に伴い、小児の整形外科疾患の診断、治療も行い、専門的な治療が必要であれば適切な専門病院へ紹介し、治療を行います。

リハビリテーションも理学療法士、作業療法士と連携を取りながら、日常生活の動作が向上するように入院、外来にて患者さんに合った治療を選択しています。

主な診療内容・対象疾患

◆高齢者の骨折◆

（大腿骨近位部骨折、橈骨遠位端骨折、圧迫骨折、上腕骨近位端骨折）

寝たきりにならないように早期の手術的加療を心がけ、早期のリハビリ、回復期リハビリ病院での加療を考えていきます。圧迫骨折は骨折の形により、安静度を考え、適切な治療を心がけます。

特に大腿骨近位部骨折は早期手術的加療が推奨されているため、可能であれば、当日もしくは次の日の手術を計画し、早期治療を心がけています。

◆上肢、下肢の骨折◆

転位の状態にて保存的加療か手術的加療かを考えて早期復帰を目指して治療します。

◆変形性関節症◆

（股関節、膝関節）

開業医にて保存的加療を行ってきて、変形が強くなり、痛みが伴ってきた患者さんは、紹介していただき、積極的に手術を行っています。人工関節外来があり、患者さんの状態に応じて保存的加療の継続、骨切り術、人工関節置換術を選択しています。

◆関節リウマチ◆

膠原病リウマチ内科と密接な連携を取り、外科的な処置が必要な患者さんは適切な時期に適切な手術を行います。

◆骨粗鬆症◆

開業医と連携し、骨密度検査を行い、状態を把握して、患者さんにあった適切な治療を行います。

大腿骨近位部骨折で入院された患者さんで骨粗鬆症の治療がされていない患者さんは、積極的に薬物治療を開始しています。

◆スポーツ障害◆

膝関節などを中心に手術適応を適切に判断し、リハビリに通える方はリハビリにての加療も行い、早期スポーツ復帰を目指します。

◆小児の骨折◆

麻酔科医が常勤しているため、準緊急にての対応はでき、症例に応じては手術的加療も積極的に行います。

◆脊椎、脊髄疾患◆

的確な画像診断を行い、基本的には保存的加療にて加療します。症状が軽快しない方、早期手術を望まれる方は十分に相談の上、脊椎・脊髄専門医に紹介して加療していきます。

◆腫瘍◆

CTやMRIなどの画像診断をもとに、良性腫瘍であれば摘出も考えた治療を行います。悪性腫瘍が疑われる場合は大学病院を紹介し、今後の治療を決定していただき当科でもできる限りの経過観察を行います。

年度回顧

2023年度は手術件数も増加し、通年と変わらない手術件数となりました。外傷による手術は当院救急外来、開業医から紹介していただき、忙しい毎日を送りました。また、人工関節置換術に対する患者からの評判は高く、順調に手術件数は増えています。毎月ローテーションしてもらっている研修医に対しては、救急での外傷の処置などいろいろ学んでもらい、整形外科疾患を理解してもらうように努めました。

活動記録

◆◆手術実績◆◆

股関節	
primary THA	51例
revision THA	1例
大腿骨近位部骨折	
人工骨頭置換術	47例
骨接合術	76例
膝関節	
primary TKA	59例
revision TKA	2例
靭帯手術、半月板手術	6例
UKA	8例
その他	6例
足関節	
関節固定術	1例
その他	3例
肩関節	
人工骨頭・関節	3例
肩関節脱臼	4例
その他	1例
手・肘外科	
絞扼性神経障害・腱鞘炎	84例
皮弁・マイクロ	1例
腱	1例
腫瘍	
良性腫瘍手術	7例
悪性腫瘍手術	1例
骨折手術（大腿骨近位部骨折を除く）	
上　肢	184例
下　肢	98例
その他	80例
計	724例

今後の展望

外傷に関しては、可能な限り受け入れを行い、早急に対応、手術的加療をしていく態勢を維持していきます。特に高齢者の大腿骨近位部骨折は、麻酔科や内科と連携し、一日でも早い手術を計画し、寝たきりにならないように治療していき、早期に回復期リハビリ病院などへの転院を計画していきます。

変形性関節症に関しては、手術が必要と思われる患者さんを、今まで以上に開業医から紹介をしていただき、体制を充実していくことが出来ればと思っています。

研修医に対しては救急の場などにて整形外科にて学んだことを生かせるような指導を継続し、より整形外科に興味を持ってもらえるようになればと考えています。その後、三重県下の整形外科を託すことが出来る整形外科医になってもらえることができればよいと考えています。

脳卒中センター・脳神経外科

スタッフ

脳卒中センター
（脳神経外科：常勤５名、非常勤３名）
（脳神経内科：常勤３名、非常勤２名）

脳神経外科 副病院長 脳卒中センター長 部長	阪井田博司	医学博士	日本脳神経外科学会認定脳神経外科専門医・指導医 日本脳神経血管内治療学会専門医・指導医 日本脳卒中の外科学会技術指導医 三重大学客員教授 三重大学医学部臨床教授
部長	田中克浩	医学博士	日本脳神経外科学会認定脳神経外科専門医・指導医 日本脳卒中学会認定脳卒中専門医・指導医 日本神経内視鏡学会神経内視鏡技術認定医 日本脳卒中の外科学会技術指導医 日本脳神経血管内治療学会専門医 臨床研修指導医講習修了 緩和ケア研修会修了
部長	黒木香行	医学博士	日本脳神経外科学会認定脳神経外科専門医・指導医 日本脳卒中学会認定脳卒中専門医・指導医 日本神経内視鏡技術認定医 日本抗加齢医学会専門医 日本頭痛学会認定 頭痛専門医・指導医 日本頭痛学会代議員 ITB療法講習会修了 臨床研修指導医講習修了 緩和ケア研修会修了
部長	濵田和秀	医学博士	日本脳神経外科学会認定脳神経外科専門医・指導医 日本脳神経血管内治療学会専門医 日本脳卒中学会認定脳卒中専門医 緩和ケア研修会修了
部長	三浦洋一		日本脳神経外科学会認定脳神経外科専門医 日本内科学会認定内科医 日本脳神経血管内治療学会指導医 日本定位・機能神経外科学会機能的定位脳手術技術認定 オンライン診療研修修了
医長	青木一晃		日本脳神経外科学会認定脳神経外科専門医 緩和ケア研修会修了

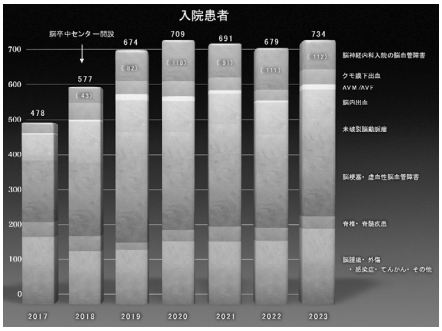
非常勤医師……３名

診療科の特色・診療対象疾患

脳神経外科が扱う代表的疾患は、脳血管障害・脳腫瘍・頭部外傷・脊椎脊髄疾患・末梢神経障害・機能的脳神経外科疾患などがあります。取り分け緊急性が高い急性脳血管障害は一般的に脳卒中と呼ばれ、脳梗塞・脳出血・クモ膜下出血に分かれます。専門性の高い知識と経験を有する多職種スタッフを集め、脳神経外科と脳神経内科が共に活動しています。今年度はさらに日本脳神経血管内治療指導医・専門医が増員となり日本脳卒中学会認定「一次脳卒中センター（PSC）コア」として脳卒中医療に取り組んでいます。

年度回顧・活動記録

平成30年（2018年）５月に新病院が開院後、型コロナ感染症に対する令和2年度（2020年度）４月の全国緊急事態宣言・三重県緊急事態措置から令和５年（2023年）５月の５類感染症移行までの間は、その蔓延状況に合わせて不要・不急の検査・治療を控える診療制限のため、入院患者数や手術件数は減少しました。さらに市民が外出を控えると脳卒中が減るという予想外の影響がみられましたが、その後の入院患者数は回復傾向となり令和５年（2023年）度の入院患者数は過去最高となりました。



◆◆入院実績◆◆

（カッコ内は神経内科入院）

入院患者数	734（112）
クモ膜下出血	40（0）
脳出血	83（6）
虚血性脳血管障害	302（102）
未破裂脳動脈瘤	58（0）
血管奇形・動静脈瘻	16（3）
脊椎・脊髄疾患	34（1）
脳腫瘍	39（0）

◆◆外科的治療・rt-PA静注療法◆◆

外科的治療総数	309
直達手術	201
破裂・未破裂脳動脈瘤	7
脳出血	14
内頚動脈狭窄・解離	6
脳腫瘍	19
血管内治療	108
破裂脳動脈瘤	20
未破裂脳動脈瘤	18
頚動脈狭窄・解離	23
血栓回収療法	32
rt-PA静注療法	28

外科的治療は血栓回収療法などの緊急治療と脳腫瘍が昨年度に比べて増加傾向となりました。

◆◆2023年度Strokeカンファレンス◆◆

院内外の教育や連携強化を目的とした「Strokeカンファレンス」は新型コロナ感染症前と同様に定期開催に戻り2023年度は第33回～42回を開催しました。

	日時	テーマ
第33回	2023年 ４月17日	院内発症ストローク 再検証第二弾

	日時	テーマ
第34回	2023年 5月15日	脳卒中ホットライン 再検証
第35回	2023年 6月19日	脳卒中ホットライン 再検証第二弾
第36回	2023年 7月24日	Perfusion CT
第37回	2023年 9月11日	ストロークMimic
第38回	2023年 10月16日	第３回市民公開講座
第39回	2023年 12月18日	新しい脳動脈瘤の血管内治療
第40回	2024年 1月15日	ピブラッツを用いた新しいSAHプロトコール
第41回	2024年 2月19日	脳卒中ホットライン 再検証第三弾
第42回	2024年 3月11日	看護必要度向上に向けて（第一弾）

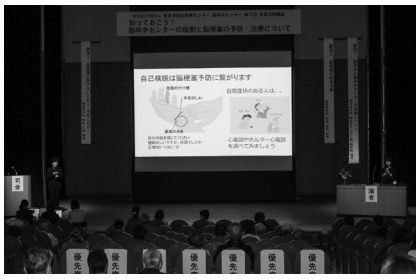
※例年と異なり８月は夏休み、11月は他のカンファレンスと重なったため休回としました。

◆◆第3回市民公開講座◆◆

新型コロナの影響で延期していた「脳卒中センター第３回市民公開講座」を2023年（令和5年）10月21日（土）に柿安シティーホールにて開催しました。

特に患者さんの数が多い「脳梗塞」と呼ばれる血管が閉塞する脳卒中を中心に取り上げ、「知っておこう！　脳卒中センターの役割と脳梗塞の予防・治療について」というテーマで3つの講演を行いました。会場内では感染症対策のためマスク着用などの協力をお願いし、初めての試みで「手話通訳・要約筆記・磁気ループ」を取り入れて講演や質疑応答などを行いました。

顔が曲がったり手に力が入らなくなったり言葉が喋りにくくなったりしたら、頭痛が無くても直ぐに救急車を呼ぶことが大切なことを、パンフレットを配布して啓発させていただきました。



今後の展望

三重大学脳神経外科施設長会議・専門研修プログラム委員会で、連携施設長を選挙で選出する新しい試みを導入することになりました。2025年３月で定年退職となる現職施設長の後任選挙が最初となり、2023年12月に選挙を施行しました。数多くの優秀な脳神経外科医が立候補し公正な選挙のもと次期施設長が選任され、一年間の引き継ぎ期間をおいて施設長を交代する予定になりました。

2024年度（令和６年度）から新たな体制で桑名市総合医療センター脳卒中センター・脳神経外科の活動を開始し、この地域ではそのニーズが非常に高い脊椎・脊髄外科の分野も発展させるべく「日本脊髄外科学会認定医」の赴任も決まっています。

昨年度と同様に重要課題として耐用年数を大幅に超えた脳血管撮影装置の更新があります。高額ではありますが、脳血管障害の診断・治療に欠かすことができない機器で、これが故障して使用できなくなれば桑名・いなべ地区の脳卒中医療が停止する可能性があります。まだ20年ほどは脳血管障害患者が増えはしても減りはしない地域性を考え、この地域の脳卒中医療を停滞させないよう予算獲得のために様々な検討や交渉が必要と考えています。

脳神経内科

スタッフ

部　　長	大 達 清 美　医学博士	日本神経学会認定神経内科専門医・指導医 日本内科学会認定総合内科専門医・認定内科医 日本リハビリテーション医学会認定リハビリテーション科専門医・指導医 日本認知症学会認定認知症専門医・指導医 オンライン診療研修修了 臨床研修指導医講習修了 緩和ケア研修会修了
部　　長	古 田 智 之	日本神経学会認定神経内科専門医・指導医 日本内科学会認定総合内科専門医・認定内科医 日本臨床神経生理学会専門医 日本脳卒中学会認定脳卒中専門医 オンライン診療研修修了 臨床研修指導医講習修了
医　　長	宮 下 紘 一	日本神経学会認定神経内科専門医 日本内科学会認定内科専門医 難病指定医 緩和ケア研修会修了
	稲 葉 耕 一	緩和ケア研修会修了
非　常　勤	……2名	

診療科の特色・診療対象疾患

当科は、脳卒中センターの中で主に脳梗塞の入院治療に携わっています。また、パーキンソン病や筋萎縮性側索硬化症といった神経変性疾患、中枢・末梢神経免疫疾患、神経筋疾患、てんかんなどの入院・外来診療を行っています。高齢化に伴い増加する認知症については、物忘れ外来を開設し、病棟では定期的に多職種で認知症ケアラウンドを行っています。また、脳卒中や誤嚥性肺炎の嚥下障害の評価や訓練にも携わっています。

年度回顧

令和５年４月から当院で初期研修を修了し、脳神経内科の後期研修医として稲葉先生が加わりました。

活動記録

◆◆診療実績◆◆

	2023年度
神経伝導検査（読影）	218
脳波（読影）	371
針筋電図	21
筋生検	6
嚥 下 造 影	60

◆◆入院・外来◆◆

	2023年度
入院患者数(総数)	344
脳卒中	118
神経疾患	111
内科疾患	119
外来患者数(のべ)	6,420
新患患者	469
うち紹介患者	252

今後の展望

当科は多くの診療科と境界をもつ希少疾患が多いことから、医師会や桑員地区の医療機関にむけての発信を増やしていけるように、努めてまいります。

眼　　科

スタッフ

部　　長	小澤摩記	日本眼科学会認定眼科専門医 ＰＤＴ認定医 補装具適合判定研修修了 身体障害者福祉法第15条第１項の規定による医師 小児慢性特定疾病指定医 臨床研修指導医講習修了
部　　長	築留英之	日本眼科学会認定眼科専門医 医学博士 身体障害者福祉法第15条第１項の規定による医師 小児慢性特定疾病指定医
医　　長	若松泰子	日本眼科学会認定眼科専門医 身体障害者福祉法第15条第１項の規定による医師 小児慢性特定疾病指定医
医　　長	太田晶子　（～2024年3月31日）	

非　常　勤……２名
視能訓練士(常勤)……３名

診療科の特色・診療対象疾患

特色：

当科には、乳児から高齢者まで年齢層も疾患も様々な方が受診されるため、眼瞼などの外眼部から網膜、視神経疾患まで幅広く診療できるように努めています。

クリニックでは対応困難な難症例も積極的に加療し、診断から手術加療までを当院で完結できることを目標にしています。

診療対象疾患：

網膜疾患：加齢黄斑変性、糖尿病網膜症、黄斑円孔、黄斑前膜、網膜剥離などサージカル、メディカルともに全般

緑内障、白内障

外眼部疾患：眼瞼下垂、眼瞼内反、眼瞼腫瘍、翼状片など

神経眼科、小児眼科、斜視

ロービジョン外来

年度回顧

コロナが明け、外来および手術件数は増加しました。また診療控えで、進行した白内障症例もみられました。

築留医師が赴任となり、小児眼科と斜視外来が開設され、紹介も多く斜視手術も増加しました。

ロービジョン外来では、低視力の患者さんのために拡大鏡や遮光眼鏡などの処方を行いました。

活動記録

◆◆診療実績◆◆

	2023年度
白内障手術	534件
硝子体手術	63件
網膜復位術	2件
緑内障手術	17件
斜 視 手 術	11件
眼 瞼 手 術	8件
翼状片手術	2件
眼瞼結膜腫瘍手術	5件

今後の展望

眼科は、白内障では外来手術が一般的になっていくと思われ、当科でも外来手術への移行を進めていきたいと思います。その一方で、クリニックでは対応できない難症例の紹介も増加しており、必要な症例には入院で高度な医療を提供できる体制を維持したいと思います。

また、適応外治療にはなりますが、角膜変性の治療も開始予定です。

今後も、診療技術、手術手技の向上、診療分野の拡大を目指していきたいと思います 。

泌尿器科

スタッフ

部　　長	小倉友二　医学博士	日本泌尿器科学会専門医・指導医 日本泌尿器内視鏡学会泌尿器腹腔鏡技術認定 日本内視鏡外科学会泌尿器腹腔鏡技術認定 日本ミニマム創泌尿器内視鏡外科学会腹腔鏡下小切開手術施設基準医 日本がん治療認定機構がん治療認定医 ダヴィンチサージカルシステム術者認定資格 ダヴィンチサージカルシステム　プロクター認定資格 臨床研修指導医講習修了 緩和ケア研修会修了
医　　長	寺邊隆史	日本泌尿器科学会専門医
非　常　勤	……1名	

診療科の特色・診療対象疾患

泌尿器科悪性疾患を中心に、泌尿器疾患全般の診療を行っています。2022年からDa-Vinci Xiサージカルシステムが導入され、前立腺がんに対するロボット補助下前立腺全摘除術をはじめ、手術の多くをロボット手術で行っています。

尿路結石、小児泌尿器に関しては専門施設に紹介させていただいています。

しっかりした病状説明を心掛け、エビデンスに沿った標準治療、満足度の高い安全で質の高い治療が提供できるよう努力しています。

年度回顧

2022年７月から泌尿器科診療が再開となりました。まだ２年目ですが2023年度も大きなトラブルなく診療を施行できました。

ロボット手術数も順調に増え、今年度のロボット支援下前立腺全摘除術は34例、ロボット支援下腎部分切除、腎全摘は10例施行しました。すべてで良好な治療成績を得ています。

新しい試みとして、前立腺肥大症に対する低侵襲手術である経尿道的水蒸気治療（WAVE治療）を症例選択し施行しました。安全に施行できています。

また、第二世代のロボット手術オペレーターとして、寺邊隆史先生がロボット支援下前立腺全摘除術を開始しました。安全に導入できています。

質の高い治療の実践のため、各部門からの厳しいご指導、ご指摘、ご意見をお願いしたいと思います。

その他、学会発表、報告を今年度から積極的に開始していきたいと思います。

活動記録

◆◆2023年度の主な手術件数◆◆

（2023年４月から2024年３月まで）

ロボット支援下前立腺全摘除術	34例
ロボット支援下腎部分切除	10例
腹腔鏡下腎摘除術	3例
腎尿管全摘除術	2例
膀胱全摘除術	2例
経尿道的膀胱腫瘍切除術	62例
軽会陰的前立腺生検	133例

今後の展望

新規手術の導入を予定しています。

ロボット支援下腎盂形成術、ロボット支援下膀胱全摘除術の導入を予定しています。

これらの手術は三重県内でも限られた施設でしか行われていません。無理なく、安全が担保できる範囲で、積極的に高度な治療を導入したいと思います。

放射線科

スタッフ

部　　長	川口達也	放射線診断専門医 検診マンモグラフィ読影認定医 プログラム責任者講習会修了 臨床研修指導医講習修了 日本医学放射線学会研修指導者
部　　長	髙野勝弘	放射線診断専門医
医　　長	永田千里巳	緩和ケア研修会修了
非　常　勤……	11名	

診療科の特色・診療対象疾患

放射線科では、画像診断・IVR・放射線治療を担当します。

画像診断ではCT（2管球及び80列マルチスライス）、MRI（３T及び1.5T）、血管造影、核医学検査、マンモグラフィを読影しレポートを作成します。なかでも２管球CTを使用した心臓CTは年間600例施行し、そのうち半数以上の症例でATP負荷を用いた心筋パーフュージョン検査を併用することにより、精度の高い心筋虚血の評価を行っています。

放射線科では主治医のオーダー内容を考慮し、検査のプロトコルの決定等も行います。

IVRは画像診断技術を用いた診療で、放射線科で行うIVRとしては止血術、体内の膿の排泄、がん治療等を、診断としてはCTを用いた生検を行っています。

放射線治療は三重大学の放射線治療専門医の協力のもとリニアックと呼ばれる装置を用い体外から患部に放射線を当てることにより治療を行います。

年度回顧

2023年度はCTレポート数約24,900件、MRIレポート数約7,200件、核医学レポート数590件を作成し、IVRを約140件、放射線治療を約170件実施しました。

地域の先生方からの紹介による検査は、約2,000件施行しました。

活動記録

三重大学医学部放射線科より後期研修医（放射線科専攻医）を受け入れ、放射線科専門研修の実施を行っています。

初期研修医に対しては研修セミナーの画像診断分野を担当しています。

今後の展望

IVR部門としてラジオ波焼灼術が肺腫瘍・腎腫瘍にも適応が拡大されたことをうけ、当センターでも施行可能となるよう準備を進めたいと考えています。

放射線治療部門としては大学の協力を得つつ、放射線治療専門医に常勤していただけるよう求めたいと考えています。

歯科口腔外科

スタッフ

部　　長	加藤英治	日本口腔外科学会認定医 日本障害者歯科学会認定医 歯科医師臨床研修プログラム責任者 臨床研修指導歯科医講習修了 緩和ケア研修会修了
	杉本遼介	

非　常　勤……3名
歯科衛生士(常勤)……3名

診療科の特色・診療対象疾患

当科は桑員地区で唯一の口腔外科を専門に扱う診療科です。歯性感染症、頬骨や上下顎骨骨折・歯の脱臼等の顎顔面外傷、口腔粘膜疾患、口腔領域に生じた良性・悪性腫瘍、智歯などの難抜歯や基礎疾患をお持ちの方の抜歯等を主に診療しています。治療は外来診療のみでなく、必要に応じて入院管理や全身麻酔下の手術も含め対応しています。

また、外科、心臓血管・呼吸器外科等で全身麻酔手術を受けられる方や化学療法中の方々の口腔ケアも歯科衛生士を中心として行っています。なお、当院入院中にお口の不具合が生じた際には歯科治療を行っておりますが、外来の方への歯科治療はしていません。

年度回顧

2023年度はCOVID-19が5類感染症へ引き下げられましたが、当科はエアロゾルの発生機会が多く、引き続き感染症に注意して診療を行っております。皆様のご紹介により、診療実績に関しては全体に上昇しています。ご協力いただきましたことに心よりお礼申し上げます。

2023年11月の第68回公益社団法人 日本口腔外科学会総会・学術大会にて当科での薬剤関連顎骨壊死に関する口演をさせていただきました。薬剤関連顎骨壊死はまだまだ不明な点が多い疾患であり、学会でも多数口演され、活発な議論がなされていました。今後も学会発表、論文作成等の活動も継続し、積極的に学術的知識を習得して、日々の診療に役立ててまいります。

活動記録

◆◆診療実績◆◆

	2023年度
初診患者数	2,783
局所麻酔手術件数	1,832
全身麻酔手術件数	185
入院患者数	300
入院患者数(延)	1,267
周術期口腔機能管理患者数	712

今後の展望

2022年度に日本歯科口腔外科学会の准研修施設に登録され、前述の通り日本口腔外科学会総会・学術大会で杉本先生が口演されました。杉本先生は三重大学、当院での研修と今回の口演をもって2024年度に口腔外科医として認定医試験に臨むこととなります。桑員地区も含め、三重県は多くの地域で口腔外科医が不足しています。引き続き当科では口腔外科に携わる人材の育成に取り組んでいきます。

救　急　科

スタッフ

部　　長	髙橋直樹	医学博士	日本外科学会認定外科専門医 日本消化器外科学会認定消化器外科専門医・指導医 日本消化器病学会認定消化器病専門医 消化器がん外科治療認定医 日本肝臓学会認定肝臓専門医 がんのリハビリテーション研修修了 臨床研修指導医講習修了 緩和ケア研修会修了
部　　長	藤岡正紀	医学博士	日本救急医学会救急科専門医 日本集中治療医学会専門医 日本循環器学会認定循環器専門医 日本内科学会総合内科専門医・認定内科医 日本医師会認定産業医 医師救急医療業務実地修練修了 臨床研修指導医講習修了 三重大学医学部臨床准教授
部　　長	畑田　剛	医学博士	日本救急医学会救急科専門医 日本外科学会認定登録医 日本消化器外科学会認定登録医 日本救急医学会指導医 日本救急医学会評議員 日本臨床救急医学会評議員 日本救急医学会JATECコース企画運営委員会オブザーバー 日本臨床救急医学会PEMEC企画運営小委員会委員 日本救急医学会ICLSコース企画運営委員会委員長 16年度メディカルコントロールに係る医師研修修了 病院前救護体制における指導医等研修修了 看護師特定行為研修指導者講習会修了 臨床研修指導医講習修了

非　常　勤……1名

診療科の特色・診療対象疾患

救急科は主に桑名市を中心に桑員地区の救急車の受け入れ、および同地域の医療機関と連携し２次救急患者と一部の３次救急患者の初期診療を担い、その後専門各科と協力し集学的治療に当たっています。当院の救急科の特色として、救急専門医による専従性をとっており、平日日勤帯は日本救急学会救急専門医２名が従事しています。また、研修医をはじめ三重大学医学部学生、救急救命士の救急科病院実習を積極的に行うことで、教育機関としての責を全うしております。

災害発生時は災害対策委員会の要請でDMATを派遣し、災害拠点病院として重症患者の受け入れを行います。

◆◆対象疾患◆◆

1）院外心肺停止症例

心肺停止患者の心肺蘇生と、自動体外式除細動器（AED）無効の薬剤抵抗性心室細動（Vf）症例に対する体外式膜型人工肺（ECMO）の導入や、蘇生後の脳保護のための体温管理療法を施行しています。

2）重症感染症

播種性血管内凝固症候群（DIC）を伴う重症敗血症患者に対し、血行動態の安定を目指すと同時に早期の抗菌薬治療を開始します。感染源に対しては、関係各科と協力し感染源コントロールを施行します。

3）急性冠症候群

ACS Hotlineを設置し急性冠症候群患者を直接受け入れるとともに、遠隔地域の救急車より12誘導心電図を伝送することで、多数の急性冠症候群の救急搬送を実現しています。以上の措置で、循環器内科と協力のもと経皮的インターベンションで早期の血行再建を行ってます。

4）脳卒中

脳卒中Hot Lineで当該疾患疑い症例の速やかな搬送を可能としています。脳神経外科、神経内科と相互協力し、遺伝子組み換え組織プラスミノーゲンアクチベータ（t-PA）投与や血管治療の早期導入を実施しています。

5）中毒

最近急増しているOTC（Over the counter）医薬品のOverdoseを含む急性薬物中毒や一酸化炭素中毒、さらに自然毒による中毒や動物咬傷に対し、薬物の特異的な中和や呼吸・循環管理、透析による薬物除去を施行しています。

6）高エネルギ―外傷

交通事故や転落等による多発外傷、なかでも高リスク受傷機転による外傷症例に対して初期・集学的治療に従事しています。

7）アナフィラキシー

蜂咬傷や薬物・食物等による外因性のアナフィラキシーに対して、院内・院外を問わず初期診療に対応してます。

8）その他

救急搬送された1・2次救急症例やWalk in患者、他院からの紹介・転院患者の初期診療を担います。院内発生の救急症例のERでの処置に対応しています。

年度回顧

新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い救急搬送症例は増加傾向で、病床不足による受け入れ困難な状況が派生しています。三重大学医学部学生の臨床実習や病院見学が急増傾向です。2024年1月1日発生した令和6年能登半島地震に対して、1月2日よりDMATを派遣しました。最終的にDMATは計3回になりました。

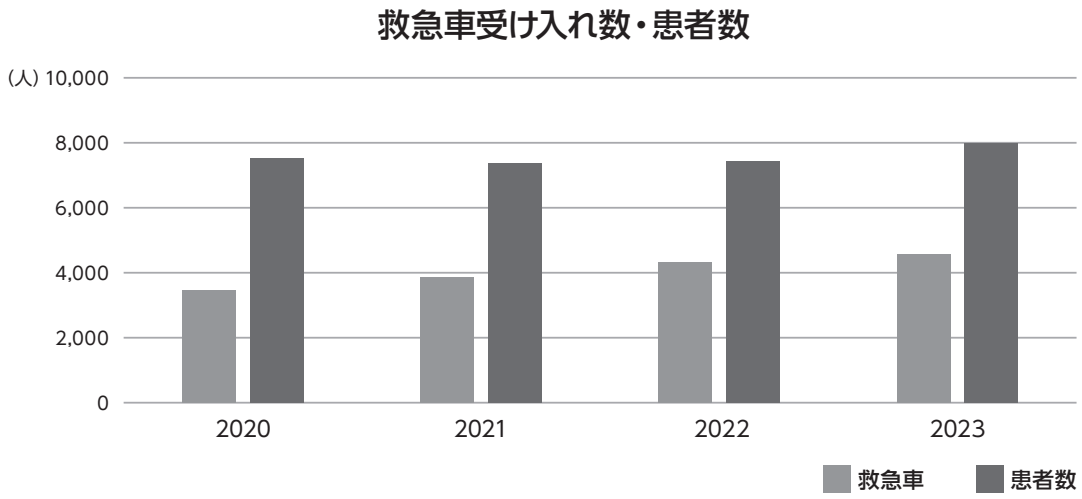
活動記録

◆◆救急車受け入れ数と患者総数◆◆

救急車受け入れ数	
2020年度	3,478件
2021年度	3,857件
2022年度	4,303件
2023年度	4,563件
患者総数	
2020年度	7,519件
2021年度	7,374件
2022年度	7,426件
2023年度	7,996件

今後の展望

当院の病床数より救急車受け入れは4,000－4,800程度と考えられます。2023年の救急車受け入れ数に対する入院率が54.4%で、一般的に救急搬送の中等症・重症率が60%程度と言われる状況より、今後中等症以上の患者の受け入れを担うとともに、適正な救急車の利用を促していきます。また、敗血症や中毒症例の加療に従事していく所存です。救急科の底上げだけでなく、近隣の医療機関との連携や後進の指導に注力して、持続可能な救急医療の構築を目指します。また、教育機関として新たに鈴鹿医療科学大学学生や愛知淑徳大学学生等の救急救命臨床実習の受け入れをさせて頂くことにしました。



病理診断科

スタッフ

副理事長 部長	白石泰三	医学博士	日本病理学会認定病理専門医 日本臨床検査学会認定臨床検査専門医 日本臨床細胞学会細胞診専門医・指導医 緩和ケア研修会修了 三重県警察医
部長	鈴木秀郎	医学博士	日本外科学会認定外科専門医 日本消化器外科学会認定消化器外科専門医・指導医 日本消化器病学会認定消化器病専門医 日本病理学会認定病理専門医 日本乳癌学会乳腺専門医・認定医 TNT(Total Nutrition Therapy)プロジェクト終了医師 検診マンモグラフィ読影認定医師 日本医師会認定産業医 日本臨床栄養代謝学会認定医 日本臨床細胞学会認定細胞診専門医・指導医 日本DMAT隊員 臨床研修指導医講習修了 緩和ケア研修会修了 三重県警察医
医長	仙波玲美		日本病理学会認定病理専門医 日本臨床細胞学会認定細胞診専門医・指導医 緩和ケア研修会修了
	髙尾ともよ		緩和ケア研修会修了

非常勤……1名

診療科の特色・診療対象疾患

当科は、病理専門医と臨床検査専門医の二つの専門医資格および学会認定である細胞診専門医資格を有する部長、病理専門医と細胞診専門医資格を有する科長と医長、および病理専攻医の計４名の常勤医師（うち科長は外科と兼任）、細胞検査士資格を有する４名の臨床検査技師からなります。

通常の病理業務に加え、デジタルパソロジー装置、自動免疫染色機、蛍光顕微鏡を備え、正確で迅速な病理診断を目指しております。また病理解剖も精力的に行っております。

年度回顧

前年度と比較すると、病理の検体数は、組織診と細胞診が微減、迅速診断は20%、病理解剖数は50%、ベッドサイド迅速細胞診は60%増加しました。

活動記録

◆◆診療実績◆◆

	2023年
組織診断数	4,536件
細胞診断数	5,367件
迅速診断数	145件
病理解剖数	12体
ベッドサイド迅速細胞診	509件

◆◆カンファレンス他◆◆

	2023年
剖検会	8回
受け入れ研修医数	5名

今後の展望

2024年から病理専攻医が１名増員となります。

新規に蛍光顕微鏡が配備され、腎生検蛍光抗体法を自施設内で行うことが可能になります。

麻　酔　科

スタッフ

麻酔部長	天野　誉	医学博士	麻酔科標榜医 日本専門医機構認定麻酔科専門医 日本麻酔科学会認定麻酔科認定医 ペインクリニック専門医
手術部長	宮原ひろみ		麻酔科標榜医 日本専門医機構認定麻酔科専門医 Difficult Airway Management(DAM)ハンズオンセミナー修了 臨床研修指導医講習修了
部長	三浦智美		麻酔科標榜医 日本専門医機構認定麻酔科専門医
部長	新谷佳大		麻酔科標榜医 日本専門医機構認定麻酔科専門医
部長	西中　文		麻酔科標榜医 日本専門医機構認定麻酔科専門医 日本麻酔科学会認定麻酔科指導医 心臓血管麻酔指導医 日本周術期経食道心エコー認定試験合格証 臨床研修指導医講習修了
医長	藤原彩紀		麻酔科標榜医 日本麻酔科学会認定麻酔科認定医 日本専門医機構認定麻酔科専門医 臨床研修指導医講習修了 緩和ケア研修会修了
医長	髙井遥香		麻酔科標榜医 日本麻酔科学会認定麻酔科認定医 日本専門医機構認定麻酔科専門医 臨床研修指導医講習修了
	半田愛子		麻酔科標榜医 日本麻酔科学会認定麻酔科認定医

非　常　勤……1名

診療科の特色・診療対象疾患

当センター手術室で行われる全手術件数の約60％を麻酔科にて管理しております。全身麻酔が必要な手術については、予定手術では全例、緊急手術では95％以上、麻酔科管理となっております。

対象となる患者さんが、安全で苦痛が少ない手術治療を受けられるよう、様々な環境を整えております。

年度回顧

開院以来、手術件数は右肩上がりで増加しており、Covid19の影響も薄れた今年度は過去最高の件数となっております。

活動記録

◆◆症例数◆◆

全手術件数	3,453例
麻酔科管理症例	2,038例
うち、全身麻酔症例数（区域麻酔併用を含む）	1,908例
区域麻酔症例数	130例
予定手術件数	1,535例
臨時手術件数	192例
緊急手術件数	311例

今後の展望

手術件数の増加と共に、ロボット支援手術などの難度の高い手術症例や、高齢者、合併症を多く持った患者さんの手術症例など、きめ細かな麻酔管理が必要な症例が増加すると思われます。個々の知識技術向上と、後進の教育指導に尽力してまいります。

看　護　部

スタッフ

看 護 部 長　　加 藤 友 美

副看護部長……２名　（常　勤）
看 護 師 長……19名　（常　勤）
※うち医療安全管理室……　１名
感染対策室……　１名
助　産　師……26名　（常　勤：22名、非常勤：４名）
看　護　師……489名　（常　勤：438名、非常勤：51名）
准 看 護 士……13名　（常　勤：11名、非常勤：２名）
介護福祉士……22名　（常　勤）
看 護 助 手……13名　（常　勤：２名、非常勤：11名）
病棟クラーク……11名

看護部の特色

世の中は日常に戻ってきています。しかし、医療機関ではまだまだ感染対策が必要な疾患があり、感染拡大防止に努めながら、緊張感をもって看護を行う場面もあります。そのような中、日々研鑽を積み上げ、看護ケアを行っていますが、近年「医師の働き方改革」がうたわれ、医師業務の一部を看護師などの他職種が担うようになってきています。

看護師も医師業務の一部を担うため、今年度初めて「特定行為研修修了看護師」をめざし、１名が研修受講をしました。研修終了後は、医師の業務負担軽減につながり様々な現場で活躍できる看護師になることが期待されます。また特定行為研修を含む感染管理認定看護師、摂食嚥下障害看護認定看護師をめざし２名が受講しました。こちらも研修の学びを活かし活動することで看護ケアの質向上に寄与すると考えます。

このようなスペシャリストだけでなく、幅広く活躍できるジェネラリストの育成も続けています。さらに、自施設はもとより、地域や県内全体を含めて考える幅広い視野を持ち、スタッフ育成や地域での役割を考えられる看護管理者育成もこれからは必要になってきます。そのため、今後はマネジメントラダー制の導入を検討していきたいと思います。

年度回顧

令和５年度は、新人看護職員27名の入職がありました。新人看護職員研修については、集合研修を中心に行い、早期に現場に慣れ、また患者さんとも円滑に関われるように様々な研修を行ってきました。この研修は、自施設の新人だけでなく、今年度も地域の医療機関、他施設の新人看護職員を受け入れました。

次に、昨年度同様に様々な看護職員が講師や災害支援等、病院内だけでなく地域でも活躍しました。

その中で大きな役割を担い活動したのが災害派遣医療チーム（DMAT）です。令和６年１月１日に石川県で起こった大きな地震災害に対し、翌１月２日には、現地へ向かう準備を

行い出発していきました。発災直後での活動であり、現地では混乱の中様々な活動を担ってきました。また三重県看護協会から災害支援ナースの派遣依頼もあり、初めて石川県へ２名派遣しました。

この経験は、南海トラフ地震が発生すると言われているこの地域で、どのような備えが必要なのか改めて気づかされ、病院としても備えなどを見直す機会となりました。

また災害現場に出向いた看護職員だけでなく、それを支えるため勤務調整などで協力をした看護職員がいたことも一つの災害支援だったと思います。

最後に、今年度も一年を通し看護学生の臨地実習を受け入れ、将来の看護師育成に携わってきました。

実習指導者のサポートの元、患者さんと直接かかわる事の大切さを改めて理解し学んでもらうことができたと思います。

令和５年度　新卒看護職員採用	27名
令和５年度　看護職員離職率	7.3%
令和５年度　新人看護職員離職率	3.8%

活動記録

◆◆院内研修◆◆

ラダーレベルⅠ対象　23研修
ラダーレベルⅡ～Ⅴ対象　32研修
看護補助者研修　６研修

◆◆臨地実習受け入れ実績◆◆

鈴鹿医療科学大学
四日市看護医療大学
桑名医師会立桑名看護専門学校
三重県立桑名高等学校衛生看護科
三重県立桑名高等学校衛生看護専攻科
ユマニテク看護助産専門学校
弥富看護学校

◆◆看護学校講師◆◆

看護管理

桑名医師会立桑名看護専門学校
三重県立桑名高等学校衛生看護専攻科
ユマニテク看護助産専門学校

感染管理

桑名医師会立桑名看護専門学校
三重県立桑名高等学校衛生看護科

医療安全管理

桑名医師会立桑名看護専門学校
三重県立桑名高等学校衛生看護専攻科

◆◆外部講師・講演◆◆

- 三重県看護協会
  令和５年度　災害支援ナース養成研修
- 三重県介護福祉士会
  令和５年度　感染症セミナー
- ＩＣＬＳ（インストラクター）
- 三重県救急救命指導者セミナー
- 三重心臓リハビリテーション研究会

◆◆専門・認定看護師院外活動・講師等◆◆

- がん看護専門看護師
- 認知症看護認定看護師
  令和5年度三重県看護職員認知症対向上研修
- がん性疼痛緩和認定看護師（ファシリテーター）
  市立四日市病院緩和ケア研修会
- 感染管理認定看護師
- 緩和ケア認定看護師
- 慢性心不全看護認定看護師
- がん化学療法看護認定看護師
- 脳卒中リハビリテーション看護認定看護師

各資格取得者

◆◆専門・認定看護師◆◆

専門看護師	
がん看護	1名
認定看護師	
感染管理	2名
皮膚・排泄ケア	1名
がん化学療法看護	1名
がん性疼痛看護	1名
緩和ケア	1名
脳卒中リハビリテーション看護	1名
認知症看護	1名
集中ケア	1名
慢性心不全看護	1名

◆◆その他研修修了者◆◆

（令和６年３月31日時点）

ファーストレベル	37名
セカンドレベル	8名
医療安全管理者	9名
実習指導者	43名
心不全療養指導士	1名
糖尿病療養指導士	6名
フットケア研修修了	10名
災害支援ナース	12名
NCPR資格取得者	30名
アドバンス助産師	5名

今後の展望

令和５年度は、看護部のキャリア支援の一つとして、クリニカルラダーを導入し２年目となりました。１年目の状況を踏まえ、研修内容などをさらにブラッシュアップしていきました。引き続き当院に求められる看護職の役割などを考慮し、研修内容などの見直しは今後も行っていきたいと思っています。

また令和５年度は現病院体制になり、初めて日本医療機能評価機構「病院機能評価3rdG:Ver2.0」を受審し、認定を取得いたしました。この受審をきっかけに、様々なことにさらに取り組み、改めて患者さんにとってよりよい看護の提供ができるように整備できたと思います。最近の社会の変化に対応しながら、今後も引き続き患者さんへのよりよい看護を考えていきたいと思います。

また国の政策として地域医療の機能分化や効率的な医療提供体制が求められています。そのため病院に受診され入院される患者さんだけでなく、地域の医療機関や介護施設等、また行政とも協働をしていき地域医療を支えることが必要となります。

そのために地域での役割も考え活動できる人材育成を継続していきたいと思います。

健診センター

スタッフ

所　属　長　　竹田　寛　　医学博士

医　　師……7名（常　勤：2名、非常勤：5名）
事務職員……7名（常　勤：6名、非常勤：1名）

健診センターの特色

健診センターでは、人間ドック・脳ドック・企業健康診断・特定健康診査・全国健康保険協会生活習慣病予防健診等を行っています。健康診断の最大の目的は、病気にならないようにする、あるいは病気になっても早期に治療して完全に治すことにあります。生活習慣病の予防とがんの早期発見を目的として、受診者の皆様の大切なご健康をお守りいたします。

また、当センターでは、NOBORIアプリをご利用いただくことにより、健康診断結果をスマートフォンで閲覧いただくことが可能となりました。

年度回顧

胃カメラ検査の件数について、内視鏡室にご協力いただき年間通じて10枠/日確保できました。また、コロナ禍で中止していた肺機能検査を10月より再開しました。

肺がんCT検査について、胸部だけではなく、腹部までCT撮影しより広い範囲の検査を行うことで、生活習慣病予防とがんの早期発見に力を入れております。骨密度検査についても、骨盤のみから骨盤～大腿骨に変更し、より広い範囲で検査することとしました。

活動記録

◆◆2023年度の統計資料◆◆

（単位：名）

	ドック	特定健診	その他	合計
4月	258	14	11	283
5月	275	23	8	306
6月	368	11	26	405
7月	453	118	414	985
8月	681	136	158	975
9月	364	183	494	1,041
10月	303	199	229	731
11月	330	191	616	1,137
12月	428	42	50	520
1月	272	9	400	681
2月	289	14	426	729
3月	252	23	426	701
合計	4,273	963	3,258	8,494

今後の展望

NOBORIアプリ等DXを推進し、受診者さんの利便性の向上を目指します

薬　剤　部

スタッフ

薬剤部長	伊藤久美子
副薬剤部長	須川由理子
総括主任	今西義紀　河村理沙
主任	小出哲朗　安藤陽子　橋本　陽　近藤加奈子 川﨑好人　西川嘉広
他	薬剤師……13名 調剤助手……４名　（嘱託職員：１名、臨時職員：３名）

薬剤部の特色

薬剤部では、業務を中央業務と病棟業務、化学療法業務の３つの業務体制に分けています。中央業務は、調剤をはじめ、無菌調製、院内製剤、外来疑義照会の対応、医薬品情報管理などを行い、病棟業務は病棟担当として薬剤師を配置し服薬指導や薬剤関連管理、情報提供などを行い、化学療法業務は化学療法サテライトで調製、調剤、患者への指導や副作用の聴取などを行っています。

各委員会やカンファレンス、ラウンドなどにも積極的に参加し、処方提案や副作用の確認などチーム医療の一員として活躍をしています。

医薬品の適正使用を推進するための取り組みの１つとして、がんや緩和、栄養、救急などさまざまな領域の専門・認定薬剤師を目指して研修会や学会への参加、発表など自己研鑽も図っています。

患者へより良い医療を提供するために薬剤師、薬剤助手一丸となって取り組んでいます。

年度回顧

今年度は以下の部門目標を立て取り組みました。

① 患者さんが適切で質の高い医療を安心して享受できるために医薬品の適正使用、管理、情報提供を行います。

② 部内の体制を整備し、新たな加算取得や医学管理料等の算定件数を増やします。

③ 業務の平準化と効率化を図り、働きやすい部内及び病院全体の環境作りに取り組みます。

医薬品の適正使用、管理、情報共有と９月の病院機能評価受審も兼ね、主に３つのことについて取り組みをしてきました。１つ目は院外処方箋における併用禁忌薬剤（相互作用）のチェックシステムを４月から導入し、併用禁忌の回避など、安全性を担保することができました。２つ目は供給制限の薬剤が多数発生する中で迅速な情報把握や代替薬の提案、薬剤の確保に努めることができました。３つ目は休日分の高カロリー輸液調製やアルブミン置換目的の置換液調製、外来診療場で使用するメトトレキサートの調製を行い、リスク

の軽減に寄与し、医師、看護師業務負担の軽減にも貢献できました。

調剤、指導関連の件数及び算定に関しては、前年度より1.2～1.6倍増加しており、特に抗がん薬調製に関しては月平均約100件増加しています。また、６月より新たにHCUで病棟薬剤業務実施加算２の算定を開始し、月平均約32万円の増収となりました。薬剤指導管理の件数は算定率の大幅な上昇は見られませんでしたが、算定件数は10月以降、増加に転じました。

業務の平準化・効率化の取り組みとして、煩雑となっていた外来患者の注射請求に係る運用を見直し、これまで伝票払い出しをしていた注射薬を可能な限り注射処方箋で払い出すことで、外来スタッフの業務効率の大幅な改善と安全性の向上に寄与しました。また、薬剤師の配置を見直すことで病棟、外来化学療法、中央業務が滞りなくできる体制を作り、業務の平準化と効率化につなげました。

昨年と同様、薬学部の学生６名を受け入れ、今後の薬剤師育成、教育に取り組み、学会発表や論文投稿、症例検討会、認定取得など自己研鑽も推進することができました。

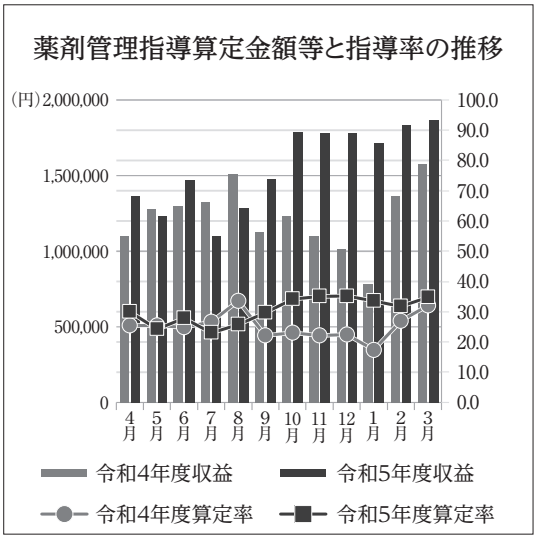
活動記録

◆◆実績◆◆

	2022年		2023年	
	年 間	月平均	年 間	月平均
外来院内処方箋	4,143枚	345枚	4,415枚	368枚
院　外処方箋	96,787枚	8,066枚	98,448枚	8,204枚
入　院処方箋	72,424枚	6,035枚	76,646枚	6,387枚
入院注射処方箋	73,049枚	6,087枚	82,628枚	6,886枚
抗がん剤調製	6,048件	504件	7,431件	619件
高カロリー輸液調製	1,464件	122件	2,431件	203件
薬剤管理指導	4,038件	337件	5,113件	426件
薬価差益	117,471,778円		118,390,531円	

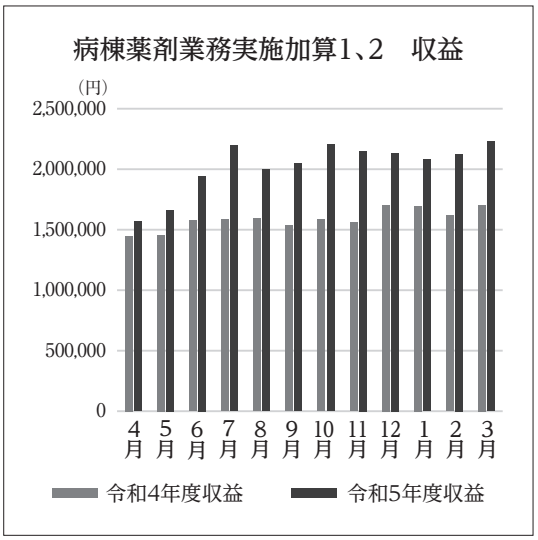
◆◆薬剤管理指導料◆◆

指導料1：380点　指導料2：325点



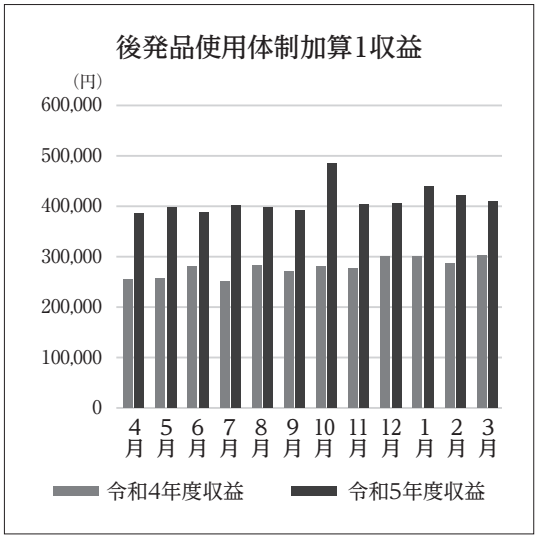
◆◆病棟薬剤業務実施加算１、２◆◆

DPC係数：0.0079



◆◆後発品使用体制加算1◆◆

DPC係数：0.0014



今後の展望

患者さんが適切で質の高い医療を安心して享受するために多職種と連携し、医薬品の適正使用、管理、情報提供していきたいと思います。取得可能な加算や算定件数の増加を目指すとともに業務の効率化と平準化を推進していきます。

主な認定資格（2023年4月時点）

日本医療薬学会指導薬剤師	1名
医療薬学会認定薬剤師	2名
認定実務実務実習指導薬剤師	5名
日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師	2名
日病薬病院薬学認定薬剤師	10名
がん専門薬剤師	1名
緩和薬物療法認定薬剤師	1名
感染制御認定薬剤師	1名
抗菌化学療法認定薬剤師	3名
救急認定薬剤師	1名
栄養サポートチーム専門療法士	4名
肝炎コーディネーター	1名
日本糖尿病療養指導士	1名

放射線室

スタッフ

室　　長　金森由繁

副　室　長　大井慎也

専　門　監　園田伸一

主　　任　前田香里　堀　直之　芝　達教　今村良樹

他　放射線技師……16名（常　　勤：14名、再 雇 用：２名）
　　事務職員……２名（常　　勤：１名、臨時職員：１名）

放射線室の特色

放射線室では北勢地域の診断・治療の医療完結を目指し、2018年合併・開院時に放射線治療装置、核医学装置等の最新鋭放射線機器を導入しました。またX線診断領域では２次救急病院として24時間急患対応を行うため、一般撮影、CT、MRI、透視検査治療、血管造影業務などの緊急依頼にも対応しています。また、被ばく低減にも取り組み、できるだけ少ない線量で高画質高画像を提供しています。各装置には各学会で知識・技術を習得した専門技師を中心に画像提供・がん治療を行っています。さらに放射線に関する患者様の不安やご質問に対してカウンセリング専門の技師も配属し、安心・安全に検査・治療を受けていただけるよう努力しています。

年度回顧

昨年度に引き続き新卒採用技師が加わり、人材育成も考慮しながら、各モダリティの専門性向上を図ることができる体制を整えています。技師歴の浅い技師の成長も顕著であり、検査件数、業務内容の増加に伴う業務効率化に対応しつつあります。

また、３病院合併以来初となる病院機能評価認定取得に向けて、放射線室運用マニュアル作成に取り組みました。通常業務に対する認識を統一し、外部評価を受けることによって、今後も継続的に医療の質の向上に取り組んで行くことを再確認しました。

活動記録

◆◆治療、検査件数◆◆

（単位：件）

	2021年度	2022年度	2023年度
一般撮影	28,676	32,438	33,871
歯科撮影	2,065	2,226	2,406
骨塩定量	976	1,047	1,191
ポータブル	7,963	7,522	7,176
外科用イメージ	469	688	578
乳房撮影	2,471	2,362	2,633
TV透視	2,631	2,636	2,308
CT	23,475	23,713	25,851
MR	6,755	6,889	7,423
核医学	538	591	571
放射線治療	173	158	141
血管造影	1,707	1,681	1,943

今後の展望

急速に進歩する画像診断技術や放射線治療技術に対応するため、積極的に研修・勉強会に参加し、且つ各診療部門と連携し、あらゆる専門性を取り入れることを主に、協調性を重んじてチーム医療を実践できるよう診療体制を更に整えてまいります。また、地域連携室経由で実施している検査についても、今後も安心して多くの検査依頼を頂けるよう、安全で質の高い医療を提供し、地域医療へ貢献していきたいと考えております。

最後に技術が進歩する一方、日々複雑化する各種検査において医療安全管理、感染症対策を徹底した環境下で患者様に安心且つ満足していただける検査を提供できるよう、スタッフ一同努力していきます。

その他

◆◆所有資格◆◆

第一種放射線取扱主任者
検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師
医学物理士
乳がん検診超音波検査実施技師
放射線管理士
Ai認定診療放射線技師
放射線機器管理士
放射線被ばく相談員
マスター診療放射線技師
放射線治療専門放射線技師
シニア診療放射線技師
X線CT認定技師
臨床実習指導教員
日本血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師

◆◆所属学会◆◆

日本医学物理学会
日本医学物理士会
日本診療放射線技師会
日本心血管インターベンション治療学会
日本放射線技術学会
日本乳癌検診学会
日本磁気共鳴医学会
日本乳癌学会
日本放射線カウンセリング学会
日本核医学技術学会東海地方会

◆◆主な医療機器◆◆

一般撮影装置	FUJI	Radnext(3台)
FPD	コニカ	AeroDR
歯科用パノラマ撮影装置	朝日レントゲン	Hyper.DCM
歯科用デンタル撮影装置	朝日レントゲン	ALULA
乳房X線撮影装置	HOLOGIC	SELENIA Dimensions
回診用X線撮影装置	FUJI	Sirius Star Mobile(3台)
		Sirius Star Mobile tiara(2台)
FPD	FUJI	CALNEO Smart
	コニカ	AeroDR
骨密度測定装置	GE	LUNAR
X線TV装置	FUJI	EXAVISTA(3台)
	Cannon	Win scope
外科用Cアーム	SIEMENS	Cios Fusion
		SEREMOBILE
	PHILIPS	BV Libra
X線CT装置	SIEMENS	SOMATOM Definition Flash
	Cannon	Aquilion PRIME
MRI装置	SIEMENS	Sempra 1.5T
		Skyra 3.0T
SPECT装置	SIEMENS	Symbia Evo Excel
放射線治療装置	VARIAN	CLINAC iX
CTシミュレーター	SIEMENS	SOMATOM Perspective
血管撮影装置	SIEMENS	ArtisZeebiplane
	PHILIPS	Allura Clarity

検　査　室

スタッフ

室　　長	矢橋知子
副　室　長	大矢知崇浩　伊藤恵美子（～2024年１月18日）
主　　任	藏城寛子　木下慶子　伊藤英樹　加藤淳也　今野和治
医　　師	長尾康治

他　臨床検査技師 …… 30名　（常　勤：22名、臨時職員：７名、嘱託職員：１名）
　　医 療 助 手……３名　（常　勤：２名、臨時職員：１名）

検査室の特色

当検査室は二次救急医療に対応するために365日24時間体制で検査技師を配置しております。迅速かつ正確な検査結果を報告するために各部門における検査システムを導入して運用しており、また内部・外部精度管理の徹底を実施しております。

NST、ICT、ASTや肝炎対策、肝臓病教室、DM教室、strokeチームなど多くのチーム医療において他部門との連携をとり、臨床検査技師の専門性を活かして臨床への貢献に努めております。

新人教育・継続教育に力を入れております。新人教育では個人に合わせた教育スケジュールを作成し、随時指導者との面談を行い理解度を把握し寄り添いながら指導を行っています。継続教育では積極的な認定資格取得を推進しており業務に対する意欲・専門性を高めています。

年度回顧

病院機能評価取得に向けて検査室一丸となり、各マニュアルの改訂、環境整備等を行い全てのセクションにおいてＡ評価の取得に繋がりました。

病理部門では病理結果通知システム運用により報告書管理体制加算、病理診断管理加算２を取得しました。

活動記録

三重県臨床検査技師会学術部・精度管理部より血液部門・輸血細胞治療部門、生理部門、免疫部門、病理部門、女性部会、また三重県輸血合同療法委員会より技師部会役員の委嘱を受けており、院外活動にも力を入れています。

認定資格の取得、学会発表、講演なども精力的に行い増加傾向にあります。

学生の受け入れでは、四日市看護医療大学、鈴鹿医療科学大学、中部大学の３校において検査技師臨地実習を行い、鈴鹿医療科学大学、四日市看護医療大学ではさらに細胞検査士の臨地実習も行っております。

派遣教育では検査部門として鈴鹿医療科学大学、四日市看護医療大学、桑名高校衛生看護科、桑名医師会立桑名看護専門学校へ臨床検査技師の派遣を行っております。

災害訓練において検査室として自主的に各

部門での防災対策の実施を行いました。

輸血医療では緊急輸血への対応のために救急部と産婦人科と2回にわたる合同シミュレーションを開催し、理解を深めることができました。

今後の展望

タスクシフト・シェアの取り組みの一つとして健診センターや中央採血室での採血業務への参画を目標に技師のスキルアップを目指していきたいと考えています。

教育（テクニカル・ノンテクニカルスキル）に力を入れ、院外へも当院を積極的にアピールできればと考えています。

臨床検査品質管理・施設認定

日本臨床衛生検査技師会 品質保証施設認定
日本病理学会 研修認定施設
日本臨床細胞学会　施設認定・教育施設認定
三重県輸血機能評価（I&R）認定施設

専門・認定資格者

細胞検査士（JSCC）	5名
国際細胞検査士（IAC）	4名
認定病理検査技師	2名
認定心電検査技師	2名
超音波検査士（消化器）	2名
超音波検査士（循環器）	2名
超音波検査士（体表臓器）	1名
超音波検査士（血管）	1名
超音波検査士（健診）	1名
乳がん検診超音波検査実施技師	1名
血管診療技師	1名
認定血液検査技師	1名
認定輸血検査技師	1名
二級臨床検査士（免疫血清）	1名
二級臨床検査士（微生物）	1名
二級臨床検査士（病理）	3名
二級臨床検査士（循環生理）	2名
二級臨床検査士（呼吸生理）	1名
緊急臨床検査士	4名
JHRS認定心電図専門士	2名
AHAガイドライン準拠BLSプロバイダー	1名
植込み型心臓不整脈デバイス認定士	1名
日本臨床神経生理学会専門技術師（脳波）	1名
日本臨床神経生理学会専門技術師（筋電図・神経伝導）	1名
日本臨床神経生理学会術中脳脊髄モニタリング認定技師	1名
電子顕微鏡技術二級技師	1名
健康食品管理士	3名

チーム医療・認定資格者

糖尿病指導療法士	4名
NST専門療法士	3名
肝炎コーディネーター	3名
弾性ストッキング圧迫療法コンダクター	1名

その他・認定資格者

特定化学物質・四アルキル鉛等作業主任者	1名
有機溶剤作業主任者	3名
毒劇物取扱責任者	1名
危険物取扱責任者（乙種1類～6類）	1名

臨床工学室

スタッフ

副　室　長　　小崎健司

主　　任　　服部慎也　　佐藤雅城　　渡辺俊文　　暮石陽介

他　臨床工学技士……16名　（常　勤）
　　事　務　員……１名　（常　勤）

臨床工学室の特色

現在、臨床工学技士が21名でうち１名が臨床検査技師免許取得者、また事務員１名で構成されています。(男性16名、女性６名)

スタッフは、血液浄化部門、循環器部門、手術室部門、機器管理部門、内視鏡・脳血管カテーテル部門の５部門に配置され業務を行っています。

また医療機器安全管理者として、院内の医療安全活動にも参加し医療機器安全の確保に努めています。

当直・３待機制により365日24時間院内の医療機器の対応や緊急業務を行っています。

年度回顧

2023年度は病院機能評価受審準備のための業務環境整備に取り組み多忙な１年となりました。また、受審に伴い新たな課題が見つかり業務改善につながりました。

また、一昨年より医師の業務負担軽減のためのタスクシフト業務として、鏡視下手術における内視鏡用ビデオカメラの保持及び操作を行うスコープオペレーター業務、血液浄化業務では超音波画像診断装置を用いたシャント管理業務や穿刺困難に対するエコー下穿刺業務も継続的に行うことができました。

活動記録

◆◆血液浄化部門　業務◆◆

業務内容	件数
慢性維持透析	24,225
血漿交換	65
顆粒球吸着療法	28
LDL吸着療法(吸着式潰瘍治療込み)	2
超音波画像診断(末梢血管)	125

◆◆循環器部門　業務◆◆

業務内容	件数
冠動脈造影	632
経皮的冠動脈形成術	376
末梢血管形成術	88
カテーテルアブレーション	53
テンポラリーペースメーカ稼働実績	39
ペースメーカ植込み・交換	98
ペースメーカOPE設定変更	35
ペースメーカMRI設定変更	70
ペースメーカ緊急チェック	46
ペースメーカ遠隔モニタリング	337
IABP稼働実績	22
ECMO稼働実績	3

◆◆手術室部門　業務◆◆

業務内容	件数
鏡視下手術	515

ロボット手術支援	66
スコープオペレーター	11
脳外科ナビゲーション	31
術中神経モニタリング	33
術中エコー業務	135

◆◆機器管理部門 業務◆◆

業務内容	件数
医療機器定期点検	1348
医療機器保守点検	30
院外修理対応	72
院内修理対応	236
管理医療機器台数	1,161
人工呼吸器稼働台数	266
持続的血液濾過	144
出張透析(重症病棟)	9
腹水濾過濃縮再静注	19
低体温療法	7
局所陰圧閉鎖療法	4
ECMO管理	3

◆◆内視鏡・脳血管カテーテル部門 業務◆◆

業務内容	件数
内視鏡的粘膜下層剥離術(上部)	46
内視鏡的粘膜下層剥離術(下部)	41
内視鏡的膵胆管膵管逆造影法	179
カプセル内視鏡(小腸)	22
カプセル内視鏡(大腸)	6
パテンシーカプセル	11
内視鏡的ステント留置術(食道)	7
内視鏡的ステント留置術(大腸)	8
頸動脈ステント留置術	15
脳動脈瘤コイルステント塞栓術	52
急性期血栓回収療法	42
経皮的ラジオ波焼灼術	20

今後の展望

高度・複雑化された医療機器を背景に医療機器のスペシャリストとして日本臨床工学技士会及び関連学会の専門認定資格の取得や、メーカー講習会の受講及びタスクシフト研修の受講により適切な医療技術と知識の提供、院内医療機器勉強会開催に尽力し更なる医療機器安全管理に貢献します。

学会資格認定

専門血液浄化関連臨床工学技士	1名
専門呼吸治療関連臨床工学技士	1名
専門心・血管カテーテル関連臨床工学技士	1名
専門不整脈治療関連臨床工学技士	1名
専門手術関連臨床工学技士	1名
専門内視鏡関連臨床工学技士	1名
認定集中治療関連臨床工学技士	1名
認定医療機器関連臨床工学技士	1名
認定実習指導者	1名
透析技術認定士	5名
腎代替療法専門指導士	1名
ITE心血管インターベンション技師	2名
植込み型心臓不整脈デバイス認定士	1名
医療機器情報コミュニケーター(MDIC)	1名
消化器内視鏡技師	2名
小腸カプセル内視鏡読影支援技師	1名
呼吸療法認定士	5名
体外循環認定士	1名
第1種ME技術者	1名
第2種ME技術者	13名
医療機器安全管理責任者講習会受講	3名

リハビリテーション室

スタッフ

室　　長　赤尾和則

副　室　長　松本正知

主　　任　安井沙代子　杉本文絵　中村浩之　稲垣　忍　松田依里子

他　理学療法士……６名（常　勤：５名、非常勤：１名）
　　作業療法士……３名（常　勤）
　　言語聴覚士……２名（常　勤）

リハビリテーション室の特色・診療対象疾患

リハビリテーション室では、患者様の障害を評価したうえで、専門的なリハビリテーションを実施できる体制を整えています。

以下に挙げる疾患別リハビリテーションを実施しており、それに加えて摂食・嚥下のリハビリテーションに対応しています。

◆疾患別リハビリテーション◆

- 心大血管疾患リハビリテーション
- 脳血管疾患等リハビリテーション
- 廃用症候群リハビリテーション
- 運動器リハビリテーション
- 呼吸器リハビリテーション
- がんのリハビリテーション

◆対象疾患◆

- 脳血管疾患（脳梗塞、脳出血など）
- 神経・筋疾患（パーキンソン病など）
- 骨・関節疾患（骨折術後、変形性関節症の術後など）
- 循環器疾患（心筋梗塞、心不全など）
- 呼吸器疾患（肺炎、COPD、肺がん術後など）
- 小児疾患（ダウン症、運動発達遅滞、低体重出生児など）
- がん疾患　　など

年度回顧

病院機能評価という一大イベントに部署一丸となって取り組み、無事に終えることができました。

その中でリハビリテーション室の実績としては、昨年８月に常勤理学療法士が１名増えたこともあり、昨年度より約1200万円増収と新病院設立から６年連続で前年度を上回る結果となっています。

活動記録

各疾患ともに延べ患者数が増加しており、スタッフ１人当たりの平均取得単位数も昨年度より増加しております。

◆◆疾患別延べ患者数◆◆

脳血管疾患	15,189人
運動器疾患	12,322人
心大血管疾患	5,268人
呼吸器	2,864人
がん	658人
廃用症候群	849人

今後の展望

来年度より新体制となりますが、急性期病院としての役割を果たすべく、安定したリハビリテーションの提供が今後も継続して行えるように、また病院のニーズに応えられるように、各疾患別リハビリテーションの担当人員の体制を整えていきたいと考えています。

栄養管理室

スタッフ

副　室　長　　長谷川恭子

他　管理栄養士……７名　（常　勤：４名、臨時職員：３名）

栄養管理室の特色

栄養管理室の業務は、大きく「給食管理」「栄養管理」「栄養指導」の３つに分かれています。

＜給食管理＞

当院の栄養管理室では、栄養管理の基礎とは何か？とういう原点に返り、まずは「患者さんが食べること」が第一だという考えのもと、安心、安全で美味しい治療食の提供に努めています。患者給食は日本ゼネラルフード株式会社に全面委託し、月に２回以上会議を実施し、よりよい患者給食の提供を行うため行事食や新メニューの考案、地産地消の食材の検討を続けています。

＜栄養管理＞

入院中の栄養管理については病棟担当制を導入しています。栄養管理計画書の作成、食事内容の提案や食欲不振の患者さんへの対応を行っています。また、栄養サポートチーム、摂食嚥下チーム、心臓リハビリテーションチーム、糖尿病チーム、褥瘡対策チームへも参加し、多職種で早期回復、早期退院へ向けて取り組んでいます。

＜栄養指導＞

個人栄養指導では、患者さん個人に合わせたオーダーメイドな栄養指導を心がけています。栄養指導は、InBody測定と併せて継続することを基本とし、ライフスタイルの中で患者さんが実践可能な食事療法を提案しています。

集団栄養指導では、医師やコメディカルと協力し、講義と調理による実践的な指導を行っています。2023年度は、2019年度末より感染対策のため中止していた糖尿病教室、減塩教室、肝臓病教室、嚥下教室を講義のみで再開し、少しずつ以前の環境へと戻りつつあります。

〈栄養管理室2023年度目標〉

- 食材料高騰による病院給食への影響を最低限とするよう、食品ロスの削減に取り組みます。安心して食していただけるよう、質を維持した満足度の高い病院食の提供を目指します。
- 集団栄養指導の再開により、栄養管理室での収益の増加と、患者満足度の向上を図ります。
- 栄養管理マニュアルの再整備後の評価を行い、属人化からの脱却を目指します。

年度回顧

栄養管理室の体制としては１名が産育休より復職し、有期雇用職員３名を含めた８名となりました。

COVID-19が感染症法上の５類感染症へと変更されてから再開した集団栄養指導では、講義形式のみでしたが定員に達する開催月もあり、参加者の方からも再開を喜ぶ声が上りました。大きな出来事としては、受審した病

院機能評価の栄養管理機能部門にてＳの高評価を受けることができました。改めて、栄養管理室、日本ゼネラルフード株式会社、栄養サポートチームでの協力の重要性も認識しました。院内のチーム医療による活動では１名が心不全療養指導士の資格を取得し、心臓リハビリテーションチームの一員として活動を継続しています。また、褥瘡対策チームでは毎週の回診へも参加し、積極的に栄養面からのアプローチも行っています。

病態栄養学会誌にて採択された、「高齢者における卓球による健康づくりプログラムの健康増進効果－体重、体脂肪量、骨格筋量の変化による検討－」が日本病態栄養学会誌　第26巻２号に掲載されました。

活動記録

◆◆食数実績◆◆

	2023年度
一般治療食	150,154食
特別治療食	126,506食
特別食加算率	34.5%
食事提供率	82.5%

- 選択食の実施
  普通食の方を対象に、週３回、朝食・昼食に選択食を実施しました。
- 行事食
  季節感を感じて頂けるように、月に２回行事食を実施しました。

◆◆栄養指導実績◆◆

	2023年度
外　　来	3,456
入　　院	775
集　　団	102
糖尿病透析予防指導	131
健　　診	0
合　　計	4,464

◆◆治療食別栄養指導実績◆◆

	2023年度
糖尿病食	1,475
心臓疾患食	793
高血圧症食	259
腎臓病食	753
痛風食	6
妊娠高血圧食	3
貧血食	12
術後食	183
胃・腸疾患食	50
肝・胆疾患食	182
膵臓疾患食	19
脂質異常症食	168
肥満症食	129
摂食・嚥下機能低下に対する治療食	46
低栄養・食欲不振に対する治療食	39
がんに対する治療食	14
乳児期食・離乳期食・幼児期食	53
その他	95

◆◆栄養情報提供書作成実績◆◆

	2023年度
栄養情報提供書	13

◆◆栄養管理計画書作成実績◆◆

	2023年度
ＨＣＵ	367
ＳＣＵ	98
ＮＩＣＵ	2
６北病棟	113
６南病棟	807
６西病棟	1,548
７北病棟	1,480
７南病棟	1,121
７西病棟	719
８北病棟	1,197
８南病棟	1,038
９北病棟	662
９南病棟	1,111
合　　計	10,263

今後の展望

病院給食については現在の嗜好調査による満足度を向上できるよう、食材料費高騰の影響を受けながらも、食事の質の低下を防ぐ対応を図ります。

GLIM基準による栄養状態判定の重要性も高まっており、適切な栄養管理を遂行できる能力が必要となります。また、管理栄養士の業務量の増加とともに、人員の確保、体制の構築が不可欠であると考えており、教育も含めて前向きに取り組んでいきます。

講義形式のみで再開していた集団栄養指導についても、調理の実演、試食を含めて開催していきたいと考えています。

医療安全管理室

スタッフ

医療安全管理委員長	山田典一	（専　任）　～2023年5月31日まで
	今井　寛	（専　任）　2023年6月1日～
医療安全管理室長	早川武司	（専　従）
医薬品安全管理者	伊藤久美子	（専　任）
医療機器安全管理者	小崎健司	（専　任）
管理部長	中村博明	（専　任）
事務職員……	1名	（非常勤）

医療安全管理室の業務

医療事故防止対策の充実、医療事故発生時における迅速な対応と医療事安全管理体制の充実を図ること及び全職員が医療安全業務を守り患者さんの安全確保が行えるように周知徹底を行う。

年度回顧

今年度は病院機能評価を受診しマニュアルの改訂、追加を行った。また、事故分析方法につて外部講師を招き実践練習を行った。事故症例に対しては、タイムリーに事故調査委員会を開催し対策を取った。定期的に医療安全情報を配信し職員に周知を行い年２回の医療安全研修会を行い90％以上の受講率を得た。今後受講率を上げる必要がある。委託業者向けにも医療安全研修会を行った。

活動記録

◆◆研修会◆◆

	2023年度
第１回医療安全研修会	2023年９月
第２回医療安全研修会	2024年２月

◆◆委員会活動◆◆

	2023年度
看護部RM部会	月１回
RM部会	月１回
安全管理委員会	月１回
診療報酬に伴い画像及び病理診断漏れ防止委員会	月１回
児童虐待対策委員会	年２回
B.C肝炎拾い上げ委員会	2か月に1回
医療安全カンファレンス	週１回
医療機器･医薬品安全管理委員会	月１回

◆◆その他の活動◆◆

	2023年度
三重県医療事故調査委員会	随時提出
医療事故調査委員会	随時開催

医療安全管理マニュアル	随時改訂
インシデントレポート集計･分析	随時
死亡診断書分析	隋時
院内ラウンド	月１回

今後の展望

医療事故を無くし、患者さんが安心して安全な医療を受けられる環境を整えることを目標に全職員が医療安全管理の問題に取り組み患者さんの安全確保に参画する。

院内感染対策室

スタッフ

院内感染対策室長	佐藤友美子	（専　従）
医師（ICD）	石田　聡	（常　勤）
	大久保節也	（常　勤）
	町支秀樹	（常　勤）
看護師（ICN）……	２名	（常　勤）
微生物検査技師……	２名	（常　勤）
薬　剤　師……	２名	（常　勤）
事務職員……	１名	（常　勤）

感染対策チーム、抗菌薬適正使用支援チームの活動

感染対策チーム（ICT）及び抗菌薬適正使用支援チーム（AST）は、院内感染対策活動、職業感染、抗菌薬の適正使用の啓発、サーベイランス、院内外からの感染対策に関する研修会や相談対応などを行っています。

年度回顧

2023年度は３年に渡り続いたCOVID-19が季節性インフルエンザと同じ感染症法上５類に引き下げられ、元の生活様式へと世間の動向がみられました。

活動記録

●ICTラウンド：週１回

●ASTミーティング：月～金　毎朝

●研修会

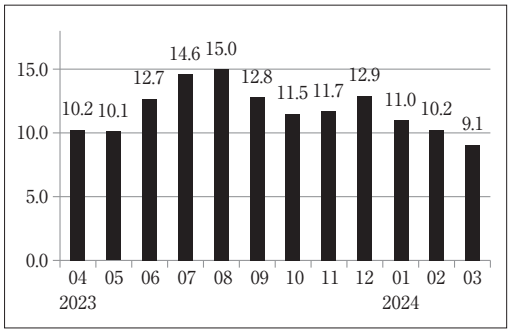
- 院内感染対策研修会＆抗菌薬適正使用支援研修会　全職員対象：年２回
- 新採用者研修：１回
- 部門別・対象別研修会：数回
- 院外研修会講師：数回

●感染症コンサルテーション：約800件

- 新型コロナウイルス感染症関連
- 職業感染
- 感染症治療
- 感染対策　　など

●各種サーベイランス

- 手指衛生



- 血液培養
- 耐性菌
- 手術部位感染
- 中心ライン血流感染

●その他

- 特定抗菌薬使用状況
- TDM実施率評価
- アンチバイオグラムの提示

●感染対策向上加算関連

- 地域連携カンファレンス：年４回
- 新興感染症に備えた訓練：年１回
  （ヨナハ丘の上病院、もりえい病院）
  桑名保健所、他桑名市内クリニック
  14施設）
- 感染症危機管理ネットワーク会議
- 相互評価：県立総合医療センター

●感染対策マニュアルの改訂

今後の展望

感染症のリスクが常に存在する中で、感染拡大を防ぐために日常に浸透することが望まれる感染対策の啓発活動に努めていきます。

地域医療センター

スタッフ

室　　長　蛭川さおり

看　護　師……8名（常　勤：7名、非常勤：1名）
社会福祉士……8名（常　勤）
事　務　員……6名（常　勤：3名、派　遣：3名）

地域医療センターの特色

地域医療センターでは、『医療相談・患者相談窓口』と『地域医療連携』の大きく二つの業務を行っています。

当センターでは、地域の皆さんが安心して適切な医療を受けられるよう、地域の医療機関や福祉機関との連携強化に努めています。

＜医療相談・患者相談窓口＞

患者さんに安心して治療に専念していただけるよう、社会福祉士の資格をもった医療ソーシャルワーカー（以下MSW）と退院調整看護師が患者さんやご家族の抱える様々な困りごとなどに対し、問題の解決を図るため様々な支援を行い、地域の関係機関との調整や連携を行っています。入院患者さんについては、病棟ごとに担当のMSWと退院調整看護師を配置し、入退院支援加算1を算定しています。病棟スタッフと協力しながら、入院患者さんのスクリーニング、アセスメント、週2回のカンファレンスを行い、入院早期から退院後の生活を視野に入れた支援ができるよう病院全体で取り組んでいます。

また、総合受付横に設置された患者相談窓口では、看護師が常駐し、患者さんやご家族からの相談に対応しています。相談内容に応じて、MSWやがん相談支援センター、脳卒中相談担当者など院内スタッフと連携しています。

▶主な業務内容

○療養中の問題の解決・調整援助
○退院援助
○社会復帰援助
○受診・受療援助
○経済的問題の解決・調整援助
○地域医療連携業務

＜地域医療連携＞

当センターは地域医療支援病院として承認されており、地域医療センターは当センターと地域の医療機関の連携窓口としての役割を担っています。地域の基幹病院として地域の医療機関との連携を強化し、地域医療に貢献できるよう、日々業務に取り組んでいます。紹介患者さんに関する業務をはじめ、地域連携検査の利用、登録医制度、登録医の施設共有利用などに対応しています。

▶主な業務

○診療予約の受付
○紹介患者に関する事務・管理
○逆紹介患者に関する事務・管理
○地域連携検査（CT・MRI、生理検査等）

年度回顧

2023年度は病院機能評価の受審に向け、業務の振り返り、見直しを行いました。

地域医療連携業務では、より早く確実に紹介状の返答ができるよう、返書の管理方法について検討を行い、返書が遅れている患者さんについて医師が把握しやすいよう、伝達方法を見直しました。従来の方法より短い間隔で定期的に各医師へ伝達するようにしたことで、返書への意識が高まったと感じています。

相談業務では、ＭＳＷ７名と退院調整看護師5名の体制で患者さんやご家族からの相談や退院支援を行いました。

ＭＳＷは、2020年から桑名市社会福祉協議会との人事交流により社会福祉協議会の職員が当センターのＭＳＷとして勤務していましたが、2023年度で人事交流は終了となりました。最後の年度となりましたが、期間中に3名の職員に勤務いただき、たくさんの経験や知識を共有することができ有意義な交流だったと感じています。

また、支援体制充実のため、ＭＳＷ１名を採用しました。新病院体制となってからは初の新卒者採用となり、社会人としてもＭＳＷとしても１年目ということで不安もありましたが、様々な知識を吸収し、１年間で患者さん対応を一人で担当できるようになりました。

退院支援においては、当部門だけではなく、病棟スタッフによる取り組みや視点も重要となるため、病院全体でより良い支援がきることを目標に退院調整看護師が中心となり、退院支援リンクナース会にて必要な情報提供や協議を行い、研修を実施しています。

活動記録

◆◆医療相談・患者相談窓口◆◆

入退院支援加算算定件数		5,785件
介護支援等連携指導料および退院時共同指導料等算定件数		160件
MSW相談件数	実件数	2,525件
	延件数	8,339件
退院調整看護師相談件数	実件数	938件
	延件数	4,659件
患者相談窓口件数		957件

◆◆地域医療連携◆◆

地域支援病院紹介率	92.3%
地域支援病院逆紹介率	127.7%
共同利用の実績	2,718件

今後の展望

地域包括ケアシステムの構築に向けて、高度医療及び急性期医療における地域の中核病院として、他の医療機関との役割分担及び連携の推進、患者様が退院後も切れ目のないケアを受けることが出来る様に、各医療機関と協力して地域における在宅医療を含む医療・福祉及び介護の連携体制の構築に貢献していきたいと思います。

また、日本医療機能評価機構認定水準の体制の維持増進に努め、医療の質の向上を行います。

がん相談支援センター

スタッフ

センター長　白石泰三（兼　任）

副　室　長　東田友紀（専　任）

看　護　師……1名（専　従）
事務職員　……1名

がん相談支援センターの特色

がん専門相談員であるがん看護専門看護師とＭＳＷが、患者さんや家族、地域住民や医療福祉関係者を対象とした、がんの総合相談を行っている。

相談業務の他に、市内小中学校へのがん教育や地域住民向けのがん予防の啓発活動にも取り組んでいる。その他、国立がん研究センターがん情報ギフト寄贈図書館との連携を行っている。

年度回顧

院内では、主に外来のがん患者さんの治療や療養生活についての相談と、一部入院患者さんの退院調整も担当した。院外では、がん予防啓発活動や、市内の中学校でのがん教育や地域向けの講演会を行った。新たな取り組みとしては、菰野町内の中小企業の人事労務担当者向けに行ったがん予防と両立支援について講演と、一般市民向けに『みんなのがん教室』@図書館を開催した。

活動記録

◆◆相談実績◆◆

《2023年４月～2024年３月》

相談件数：のべ1782件／年
（実人数　309人／年）

利用回数
平均相談回数：5.8回／人
最大相談回数：79回／人

◆◆がん教育◆◆

市内の中学校１校でがん教育を実施した。

2023年度がん教育実施校	対　象
桑名市立成徳中学校（2023年12月4日）	２年生

◆◆がん予防啓発◆◆

図書館や桑名市内外でのがん予防啓発の講演会を行った。

川越町がん予防講演会 ～がんについての疑問聞いてみよう～	2023年 ７月14日
桑名市西部地域包括ｾﾝﾀｰ勉強会 『がんのこと先生にきいてみよう』	2023年 10月24日
菰野町令和５年度 がん予防に関する健康セミナー	2024年 １月16日
『みんなのがん教室』@図書館	2024年 ３月９日

◆◆周知◆◆

地域のケアマネージャーとの交流会や、桑名市の広報にてがん相談支援センターの周知を行った。

桑名市西部圏域 ケアマネージャー交流会	2023年 ６月12日
桑名市広報メディカルニュース	令和６年 ２月号

◆◆がんサロン◆◆

三重県がん相談支援センターと共催で、『がん患者と家族のためのおしゃべりサロンin桑名』を４回開催した。

第１回	2023年６月21日
第２回	2023年９月20日
第３回	2023年12月20日
第４回	2024年３月27日

◆◆その他の活動◆◆

- 『生命の駅伝』参加・協力
- 緩和ケア研修会講師
- 桑名市立成和中学校　キャリア教育
  『医師の仕事について』

今後の展望

がんに関する情報の収集と整理を行い、正しい情報が届けられるように整備していく。また、院内外でのがん相談支援センターの効果的な周知活動についても検討中。

治験事務局

スタッフ

事　務　局……２名

治験審査委員会委員
　委　員　長……町 支 秀 樹
　副 委 員 長……川 口 達 也

　委　　員……10名　（専門委員：５名、非専門委員：２名、外部委員：３名）

事務局・委員会の特色

治験審査委員会は、治験の安全性・有効性・倫理性を審査する役割を担う委員会です。

委員会の定義や業務内容、治験審査委員会の委員選出のための条件などは、すべてGCP（治験実施の際に守るべきとされる国際的なルール）に定められており、医学に対して専門的な知識を持った「専門委員」、反対に医学の知識を持たない「非専門委員」、医療機関と利害関係を持たない「外部委員」の男女両性で構成されています。あくまで治験を依頼する製薬会社や治験を実施する医師などとは無関係であり、独立した第三者機関として設置されています。

当病院で実施する治験は、治験審査委員会において審査・承認された後、病院長の許可を得て行います。治験審査委員会は原則、毎月第３月曜日に開催され、事務局はその庶務を行うのみでなく、委員会に至る前の、治験新規案件について該当診療科に案内し、実施中の治験に関する進捗状況などを把握して、円滑に実施されるように努めています。

また、治験や臨床研究に係わるものは年に一回程度の倫理指針の講習が必要とされている為、「生命・医学系研究倫理指針講習会～人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針～」を企画・実行し、治験審査委員をはじめ院内スタッフへの研究倫理指針の啓発をしています。

事務局は治験の他、研究倫理委員会事務も担当しており、臨床研究・製造販売後調査の庶務も執り行っています。

年度回顧

2023年度に開始となった治験はありませんでしたが、前年度末に新規治験が２件開始となっていることもあり、７件の治験が実施されていました。薬剤部が二重盲検の業務を担う治験もあった為、治験事務局担当者以外の薬剤師も多く参加することになりました。

また、新規治験案件の相談が30件と多数入り、事務局としては該当する各科の先生方への案内や、参加意思を表明された診療科への調査面談・アンケート回答・選定調査等、多くの対応を仲介させて頂くこととなりました。

治験と共に担っている研究倫理委員会においても臨床研究以外で倫理審査を必要とする事案が多く発生しており、製造販売後調査関連業務と共に多くの案件に対応しております。

活動記録

◆◆治験実施開始実績◆◆

	開始件数	実施件数
2018年度	4件	9件
2019年度	2件	10件
2020年度	2件	5件
2021年度	3件	9件
2022年度	4件	10件
2023年度	0件	7件

◆◆治験実施中の試験内容◆◆

試験名	関連診療科
ABT-494(ウパダシチニブ) 体軸性脊椎関節炎を対象とした試験	膠原病リウマチ内科
ワクチンの接種を受けた母親から生まれた乳児を対象としたPF-06928316の第Ⅲ相試験	小児科、産婦人科
好酸球性重症喘息患者を対象としたGSK3511294をメポリズマブ又はベンラリズマブと比較評価する非劣性試験	呼吸器内科
グルココルチコイド治療依存性のリウマチ性多発筋痛症(PMR)患者を対象としたABBV-154 の安全性及び有効性を評価する試験	膠原病リウマチ内科
活動性シェーグレン症候群患者を対象にVAY736を皮下投与したときの臨床的有効性、安全性、忍容性を検証する第Ⅲ相試験	膠原病リウマチ内科
血液透析施行中の高リン血症患者を対象に、TS-172又はプラセボを二重盲検下で4週間投与した際の有効性、安全性及び薬物動態を検討し、TS-172の臨床推奨用量及び用法を検討する第Ⅱ相試験	腎臓内科
MTX効果不十分な活動性RA患者を対象に、MTX併用下でRGB-19点滴静注(4週間隔)の、RoActemra点滴静注に対する同等性、安全性の検討を行う第Ⅲ相試験	膠原病リウマチ内科

今後の展望

今年度は7件の治験実施継続でしたが、30件の新規治験案件の案内があり、選定調査中の案件も複数件ありますが、科による偏りが継続しています。

治験参加の意思のある科に向けて案内が届くよう働きかけを考えています。

教育研修センター

スタッフ

センター長(医　師)……白 石 泰 三　(兼　任)

事 務 職 員 ……2名

教育研修センターの特色

2023年度より初期臨床研修医(以下「研修医」)の履修支援・管理を目的として「教育研修センター」が設置されました。

当院における研修医数は増加しており、病床数あたりの研修医数は県内でもトップクラスです。

◆◆研修医数◆◆

年　　度	研修医数
2018年度入職	11人
2019年度入職	9人
2020年度入職	11人
2021年度入職	11人
2022年度入職	12人
2023年度入職	14人

年度回顧

◆第20回MMC三重卒後研修医学会◆

【開催日】令和6年2月3日

三重県内の研修医が症例発表を行うもので、20数題が発表されました。発表内容・考察・質疑応答などの総合的な審査の結果、当院2年次研修医の磯部太一先生が銀賞を受賞されました。今後も当院から受賞者が出るように研修体制を整えたいと思います。

活動記録

◆研修医症例検討会(全5回)◆

毎回外部の医師をコメンテーターとしてお招きして開催しています。

研修医が経験した症例について発表しディスカッションすることで知見を深めています。

【発表者】研修医13名

【参加者】指導医、上級医、研修医
延べ102名
院外コメンテーター各回1名

◆木曽川メディカルカンファレンス◆

木曽川河口域の生活医療圏を中心に関係病院等が協力し、研修医教育・連携を通じた地域医療の充実を目指す勉強会として、定期的に開催されています。当院からも研修医が参加し、研鑽を積んでいます。

＜第1回＞

【開 催 日】令和5年6月17日

【開催場所】いなべ総合病院

【参加職員】指導医1名、研修医11名

＜第2回＞

【開 催 日】令和5年10月6日

【開催場所】稲沢厚生病院(Web参加)

【参加職員】指導医1名、研修医4名

＜第3回＞

【開 催 日】令和6年2月2日

【開催場所】桑名市総合医療センター
【参加職員】指導医１名、研修医８名

◆令和５年度災害救護訓練◆

桑名医師会主催で開催され、当院から参加した研修医は、災害時のトリアージ訓練などを行いました。
【開 催 日】令和５年10月15日
【開催場所】明正中学校
【参加職員】研修医４名

◆桑員地区臨床集談会◆

当院より研修医２名が参加し、症例発表を行いました。普段お会いすることの少ない桑員地域の開業医の先生方とも交流させていただきました。
【開 催 日】令和５年10月22日
【開催場所】桑名医師会
【参加職員】研修医　以下２名
２年次研修医　喜 多　　渚
１年次研修医　嶋田有利子

◆第７回研修医との交流会◆

三重県医師会主催の交流会で、三重県知事も参加されました。県内外の多くの関係者が出席されており、他院の研修医を含め、親睦を深めさせていただきました。
【開 催 日】令和５年12月23日
【開催場所】ホテルグリーンパーク津
【参加職員】病院長、指導医２名、
研修医３名

◆研修修了式◆

２年次研修医12名が２年間の初期臨床研修を修了するにあたり、桑名医師会副会長、桑名市長、桑名市議会議長の来賓をお招きし、研修修了式を開催しました。
【開 催 日】令和６年３月７日
【開催場所】柿安シティホール
【参加者数】50名

◆三重県研修病院合同説明会◆

三重県内の初期臨床研修病院など20施設が集まり、医学生などを対象にした合同説明会が開催されました。

当院のブースにも多くの医学生にお越しいただき、研修の特徴や経験談など研修医からの話を聞いていただくことができました。
【開 催 日】令和６年３月24日
【開催場所】メッセウイング・みえ
【参加職員】指導医３名、研修医５名、
事務２名
【医学生エントリー数】45名

今後の展望

指導医や上級医からの指導や評価を円滑に行えるように運用を整備していきます。また他部門とも連携し、より充実した臨床研修が行える体制を整え、地域医療を支える人材の育成を目指します。

4. 業　績

学会発表

循環器内科

演　題・演　者	学会名・発表日・開催地
◆肺塞栓症に対する胸部X線透視動画解析ソフトの診断能についての検討 佐藤　徹、荻原義人、北川覚也、小椋　透、山田典一、土肥　薫	第43回日本静脈学会総会 2023年７月６日　松山市
◆保健委員会報告　静脈疾患に対する血栓除去デバイスおよび静脈ステントの承認のお知らせ　ー適正使用指針（案）と市販後調査へのご協力のお願いー 孟　眞、尾原秀明、星野祐二、菅野範英、今井崇裕、久米博子、広川雅之、細井　温、山田典一、山本　崇、八杉　巧、横井宏佳、東　信良	第43回日本静脈学会総会 2023年７月６日　松山市
◆静脈疾患サーベイの最近の動向 八巻　隆、佐戸川弘之、孟　真、白石恭史、西部俊哉、山田典一、田淵　篤、野村　正、松元　崇、山下侑吾、根本寛子	第43回日本静脈学会総会 2023年７月６日　松山市
◆Diagnosis and pharmacological treatment for acute deep vein thrombosis 山田典一	第31回日本心血管インターベンション治療学会学術集会 2023年８月４日　博多市

脳神経内科

演　題・演　者	学会名・発表日・開催地
◆EBV再活性化の随伴を疑われた脳炎の1例 磯部太一、古田智之、宮下紘一、大達清美	日本内科学会　第250回東海地方会 2023年６月25日　桑名市

消化器内科

演　題・演　者	学会名・発表日・開催地
◆急性肝炎様発症自己免疫性肝炎による急性肝不全非昏睡型の1剖検例 吉兼佑介、大矢由美、中地悌喜、村田亮介、山本あゆみ、浦吉俊輔、泉　道博、中川直樹、石田　聡	第250回日本内科学会東海地方会 2023年６月25日　桑名市
◆胆嚢周囲膿瘍内科的治療後感染性大動脈瘤を発症した1例 中地悌喜、大矢由美、吉兼佑介、村田亮介、山本あゆみ、浦吉俊輔、泉　道博、中川直樹、石田　聡	第251回日本内科学会東海地方会 2023年10月15日　名古屋市

糖尿病内分泌内科

演　題・演　者	学会名・発表日・開催地
◆POCT機によるHbA1cの正確性の検討 國保良太、大熊伸一、北川良子、堀田康広	日本糖尿病学会　中部地方会 2023年９月23日　名古屋市

小児科

演　題・演　者	学会名・発表日・開催地
◆Clinical effects of a three-day inpatient education program for children with atopic dermatitis NamiYamada, Rei Kanai, Takahiro Nishida, Takafumi Takase, Tomoyuki Arima, Fumiko Iwai, Shingo Yamada, Mizuho Nagano, Takao Fujisawa	世界アレルギー機構（WAO）シンポジウム 2023年５月18日　ハワイ
◆1か月健診で発覚した先天梅毒の1例 加藤公也、堀口駿一、牛田英里、山田菜美、安田泰明、間宮範人、大槻　静、山本和歌子、馬路智昭、森谷朋子	白圭会 2023年６月４日　津市
◆簡易なキットを自作して行う胸腔ドレーン留置トレーニング 馬路智昭、加藤公也、牛田英里、山田菜美、間宮範人、大槻　静、山本和歌子、森谷朋子	日本周産期新生児医学会 2023年７月９日　名古屋市
◆ドクターヘリコプターによる新生児搬送 馬路智昭、加藤公也、牛田英里、山田菜美、間宮範人、大槻　静、山本和歌子、森谷朋子	日本周産期新生児医学会 2023年７月10日　名古屋市
◆放射線療法を施行した小児白血病・リンパ腫経験者における二次性脳腫瘍の特徴 牛田英里、豊田秀実、奥村陽介、丹羽香央里、伊藤卓洋、森本真理、花木　良、天野敬史郎、高田彰憲、伊井憲子、平山雅浩	日本小児血液がん学会 2023年９月30日　札幌市
◆繰り返す発熱を訴えた3歳男児例 喜多　渚、加藤公也、牛田英里、山田菜美、間宮範人、大槻　静、山本和歌子、馬路智昭、森谷朋子	桑名いなべ地区臨床集団会 2023年10月22日　桑名市
◆House dust mite sublingual immunotherapy prevents lung function decline in children and adolesents with asthma Nami Yamada, Rei Kanai, Takahiro Nishida, Takafumi Takase, Tomoyuki Arima, Fumiko Iwai, Shingo Yamada, Mizuho Nagano, Takao Fujisawa	世界アレルギーコングレス（WAC） 2023年12月１日　バンコク

病理診断科

演　題・演　者	学会名・発表日・開催地
◆前立腺癌に対する、病理学的有害事象とリンパ節転移を用いた術後リスク分類 仙波玲美、内田克典、白石泰三、大西毅尚、佐々木　豪、井上貴博、宮本　浩、渡邉昌俊	第112回日本病理学会総会 2023年４月15日　下関市
◆前立腺癌に対する、病理学的有害事象とリンパ節転移を用いた術後リスク分類の作成 仙波玲美、内田克典、白石泰三、大西毅尚、佐々木　豪、井上貴博、宮本　浩、渡邉昌俊	第27回日本外科病理学会学術集会 2023年10月14日　津市
◆intraductal carcinoma of the prostateを考慮したpT分類の検討 仙波玲美、内田克典、白石泰三、佐々木　豪、井上貴博、宮本　浩、渡邉昌俊	第12回日本泌尿器病理研究会学術集会 2024年２月10日　大阪市

外科

演　題・演　者	学会名・発表日・開催地
◆再発鼠径ヘルニアに対する手術成績の検討 水越幸輔、服部小百合、篠田真里、岡部雄介、市川　崇、肥満智紀、杉澤　文、髙橋直樹、小西尚巳、鈴木秀郎、町支秀樹、登内　仁	第21回日本ヘルニア学会学術集会 2023年５月27日　大阪
◆抗HER2療法により間質性肺炎を来した乳癌症例に対し、肺炎改善後に抗HER2療法を再開した症例の検討 小西尚巳、鈴木秀郎、杉澤　文、町支秀樹、登内　仁	第31回日本乳癌学会総会 2023年６月29日　横浜
◆非閉塞性腸間膜虚血症術後のstomaの取り扱い 髙橋直樹、岡部雄介、市川　崇、水越幸輔、肥満智紀、杉澤　文、小西尚巳、鈴木秀郎、町支秀樹、登内　仁	第78回日本消化器外科学会 2023年７月12日　山口
◆こだわりの環状切開TAPP-若手教育を意識した手術手技と言語化 水越幸輔、服部小百合、篠田真里、岡部雄介、市川　崇、肥満智紀、杉澤　文、髙橋直樹、小西尚巳、鈴木秀郎、町支秀樹、登内　仁	第78回日本消化器外科学会 2023年７月12日　山口
◆不妊治療中に発症した肝細胞腺腫の切除例 髙橋直樹、服部小百合、篠田真里、岡部雄介、水越幸輔、肥満智紀、杉澤　文、小西尚巳、鈴木秀郎、町支秀樹、登内　仁	第27回日本外科病理学会 2023年10月13日　津
◆胃全摘術後6年4ヶ月で腸閉塞を契機に卵巣転移を診断した1例 岡部雄介、髙橋直樹、服部小百合、篠田真里、水越幸輔、肥満智紀、杉澤　文、小西尚巳、鈴木秀郎、町支秀樹、登内　仁	第27回日本外科病理学会 2023年10月14日　津
◆術前マンモグラフィで所見の得られなかった乳癌症例の検討 小西尚巳、鈴木秀郎、杉澤　文、小島玲子、近藤偲瑞子	第33回日本乳癌検診学会学術総会 2023年11月24日　福岡
◆両側meshomaによる術後慢性疼痛を伴った両側再発鼡径部ヘルニアの1例 水越幸輔、肥満智紀、杉澤　文、髙橋直樹、小西尚巳、町支秀樹、登内　仁	第36回日本内視鏡外科学会総会 2023年12月７日　横浜
◆腹腔鏡下手術が-有用と考えられた超高齢者のS状結腸魚骨穿孔の1例 水越幸輔、服部小百合、岡部雄介、市川　崇、肥満智紀、杉澤　文、髙橋直樹、小西尚巳、鈴木秀郎、町支秀樹、登内　仁	第60回日本腹部救急医学会総会 2024年３月22日　北九州

整形外科

演　題・演　者	学会名・発表日・開催地
◆大腿骨近位部骨折術後患者さんに対して入院中にゾレドロン酸を使用した症例の検討 半田忠幹、中瀬古健、松井佑梨世、岡村直樹、松田　理	第140回中部整形外科災害外科学会・学術集会 2023年４月７日～８日　奈良
◆当院での女性の大腿骨近位部骨折および橈骨遠位端骨折術後患者における骨密度の比較検討 樋口聖也、中瀬古健、松田　理、岡村直樹、松井佑梨世、半田忠幹	第140回中部整形外科災害外科学会・学術集会 2023年４月７日～８日　奈良
◆当院で経験した小児化膿性股関節炎の3症例 半田忠幹、中瀬古健、高田晃佑、松井佑梨世、岡村直樹、松田　理	第46回日本骨・関節感染症学会 2023年６月23日～24日　津
◆右ハムストリング近位部断裂に対してアンカーを用いて腱修復術を行った1例 高田晃佑、松田　理、中瀬古健、岡村直樹、松井佑梨世、半田忠幹	第141回中部整形外科災害外科学会・学術集会 2023年10月６日～７日　神戸
◆BDDHに対する股関節鏡下単独手術により急速に変形性関節症が進行しTHAを要した1例 岡村直樹	第50回日本股関節学会 2023年10月27日～28日　博多
◆Comparison of bone mineral density (BMD) in female patients undergoing proximal femur fracture surgery or distal radius fracture surgery Ken Nakaseko	25th Asia-Pacific League of Associations for Rheumatology Congress 2023年12月７日～11日 Chiang Mai Thailand
◆異なる形状のポリエチレンインサートを用いたVANGUARD IDの短期術後成績の比較検討 岡村直樹、半田忠幹	第１回日本膝関節学会 2023年12月８日～９日　横浜
◆VANGUARD IDを用いた人工膝関節全置換術の術後短期成績 半田忠幹、岡村直樹	第１回日本膝関節学会 2023年12月８日～９日　横浜
◆TKA術後におけるエスフルルビプロフェン・ハッカ油貼付剤の腎機能への安全性の評価　－腎機能低下患者にも使用可能か? 岡村直樹、高田晃佑	第54回日本人工関節学会 2024年２月23日～24日　京都
◆TKA術後患者の疼痛におけるエスフルルビプロフェン・ハッカ油貼付剤の有効性　－NSAIDs内服投与と比較して 高田晃佑、岡村直樹	第54回日本人工関節学会 2024年２月23日～24日　京都

泌尿器科

演　題・演　者	学会名・発表日・開催地
◆Novel method of performing a completely retroperitoneal cutaneous ureterostomy with robot-assisted radical cystectomy (RARC) ○田中しおり、北野剛士、加藤　学、小倉友二、小島崇宏	第110回日本泌尿器科学会総会 2023年４月20日　神戸市
◆当院における前立腺水蒸気治療（WAVE）の初期経験 ○寺邊隆史、小倉友二	第72回三重泌尿器科医会 2023年７月２日　津市

脳神経外科

演　題・演　者	学会名・発表日・開催地
◆鍼治療により緊張型頭痛が軽快した一例 黒木香行	日本脳神経外科学会第82回学術総会 2023年10月25日～27日　横浜
◆急性冠動脈症候群により急速な症状の進行を呈した頚動脈狭窄症に対して緊急CASを指向した1例 濱田和秀	第39回本脳神経血管内治療学会学術集会 2023年11月23日～25日　京都
◆視力障害を主訴とした腕頭動脈の動脈硬化性プラークによる内頚動脈塞栓症に対して経上腕動脈アプローチで血栓回収した1例 濱田和秀	第39回本脳神経血管内治療学会学術集会 2023年11月23日～25日　京都
◆鍼治療により薬物療法を離脱できた緊張性頭痛の一例 黒木香行	第51回日本頭痛学会総会 2023年12月１日～２日　横浜
◆CGRP関連製剤に経口予防薬 を追加し治療を行った3例の報告 黒木香行	第51回日本頭痛学会総会 2023年12月２日　横浜
◆頭痛診療における鍼治療　－医師の立場から－ 黒木香行	第51回日本頭痛学会総会　東洋医学シンポジウム 2023年12月２日　横浜
◆脳卒中相談窓口　経過報告と今後の課題 黒木香行、赤尾和則、石咲朋子、岩田友子、叶田寛人、神谷裕子、藏條寛子、佐藤公介、橋本　陽、堀　直之、米裕美子、稲葉耕一、宮下紘一、青木一晃、三浦洋一、濱田和秀、古田智之、田中克浩、大達清美、阪井田博司	STROKE 2024 2024年３月８日　横浜

歯科口腔外科

演　題・演　者	学会名・発表日・開催地
◆当科におけるARONJの臨床的検討 －侵襲的歯科治療に関する考察－ 杉本遼介、加藤英治、加納慶子、佐竹貴仁、柳瀬成章、若林宏紀、新井直也	第68回公益社団法人 日本口腔外科学会総会・学術大会 2023年11月10日　大阪市
◆弄舌癖によって難治性となった舌潰瘍の治療経験 杉本遼介、加藤英治、加納慶子、佐竹貴仁	第4回Winter Dental Meeting in Tsu 2024年12月10日　津市

薬剤部

演　題・演　者	学会名・発表日・開催地
◆薬物動態学的アプローチにより併用継続および消化管出血再発回避につながったオシメ ルチニブ併用エドキサバン誘発消化管出血症例 池口麻由子、小出哲朗、桐生浩子、田中裕子、大矢知立城、村田美里、大森加奈子、今西義紀、蛯原愛子、伊藤久美子	緩和医療薬学会 2023年５月28日　神戸市
◆低コルチゾール血症患者に出現したデュロキセチン誘発低ナトリウム血症 小出哲朗、池口麻由子、北本千晴、窪田知仁、田中裕子、松田千裕、桐生浩子、森　実優、堀田康広、伊藤久美子	医療薬学フォーラム2023 2023年７月22日　山形市

演　題・演　者	学会名・発表日・開催地
◆薬学介入より再発防止につながった、心筋梗塞を発症したチモロール配合点眼誘発冠攣縮性狭心症の1例 西川嘉広	第26回日本臨床救急医学会 2023年７月27日　東京都板橋区
◆多職種連携による運用を目指したアンデキサネットアルファ投与プロトコルの導入およびその評価 加藤公人、西川嘉広、河村理沙、小出哲朗、渡辺俊文、早川武司、濱田和秀、伊藤久美子	第33回日本医療薬学会年会 2023年11月３日　仙台市
◆集中治療室で用いる薬剤を対象に希釈倍率の標準化に向けた当院の取り組み 西川嘉広、今西義紀、河村理沙、加藤公人、早川武司、山田典一、大村　崇、宮原ひろみ、濱田和秀、湯浅右人、伊藤久美子	第33回日本医療薬学会年会 2023年11月３日　仙台市
◆新型コロナウイルス感染症患者に出現したワルファリンとモルヌピラビルの相互作用 水谷日花里、窪田知仁、加藤公人、西川嘉広、川﨑好人、大森加奈子、橋本　陽、小出哲朗、大村　崇、伊藤久美子	日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会2023 2023年11月12日　名古屋市

放射線室

演　題・演　者	学会名・発表日・開催地
◆検査説明における傾聴技法活用の有用性についての検討第2報 大井慎也	第39回日本診療放射線技師学術大会 2023年９月29日　熊本市
◆CT透視下による留置マーカー同定皮膚マーキング撮影における患者被ばく低減の取り組み 近藤偲瑞子、前田香里、三島みづき、大井慎也	第33回日本乳癌検診学会学術総会 2023年11月24日～25日　福岡市
◆ハイドロゲルスペーサーと金マーカーを用いた前立腺癌に対する3D-CRTの有用性 金森美佳	日本放射線腫瘍学会第36回学術大会 2023年11月30日　横浜市

検査室

演　題・演　者	学会名・発表日・開催地
◆肺動脈血管内膜肉腫の1症例 矢野孝明、今野和治、宇田紗矢香、伊藤英樹、高尾ともよ、仙波玲美、白石泰三	第62回日本臨床細胞学会秋期大会 2023年11月５日　福岡市
◆散在性異型細胞が出現した乳腺細胞診の2症例 今野和治、小塚祐司、宇田紗矢香、矢野孝明、伊藤英樹、高尾ともよ、仙波玲美、白石泰三	第62回日本臨床細胞学会秋期大会 2023年11月５日　福岡市
◆NT-proBNPとBNPの相関について与える影響因子の検討 水谷直弘、大矢知崇浩、杉谷春美、矢橋知子	第61回日臨技中部圏支部医学検査学会 2023年12月３日　金沢市

演　題・演　者	学会名・発表日・開催地
◆標準化実務委員会学術部輸血細胞治療部門報告 大矢知崇浩	第46回三重県医学検査学会 2024年２月18日　鈴鹿市
◆当院における血液培養の現状と今後の検討 籠　　徹	第46回三重県医学検査学会 2024年２月18日　鈴鹿市
◆標準化実務委員会学術部病理細胞部門報告 今 野 和 治	第46回三重県医学検査学会 2024年２月18日　鈴鹿市
◆眼房水細胞診で診断した眼内悪性リンパ腫の1例 宇田紗矢香、矢 野 孝 明、今 野 和 治、伊 藤 英 樹、高尾ともよ、 仙 波 玲 美、白 石 泰 三	第43回日本臨床細胞学会東海連合会総会ならびに学術集会 2024年３月３日　津市

リハビリテーション室

演　題・演　者	学会名・発表日・開催地
◆腱板縫合術後に拘縮を呈した症例 和 田 満 成、松 本 正 知、丹 羽 結 生、稲 垣　　忍、田 口 敦 也	整形外科リハビリテーション学会 2023年６月10日　名古屋市
◆関節窩の中心点を推測するための骨指標:3DCTを用いた検討 －第2報－ 和 田 満 成、松 本 正 知	第20回日本肩の運動機能研究会 2023年10月14日　東京都
◆意味のある作業を共有することでADLが改善したギラン・バレー症候群の一例 磯 谷 茜 音、野 口 佑 太	第34回三重県作業療法学会 2024年３月３日　津市

地域連携室

演　題・演　者	学会名・発表日・開催地
◆『障害・介護・社会的背景が複雑に絡みあう症例～社会福祉士のかかわり～』 叶 田 寛 人	STROKE2024 2024年３月８日　神奈川県
◆『相談者に寄り添うを目指して』 神 谷 裕 子	STROKE2024 2024年３月８日　横浜市

論文発表

循環器内科

題　名・著　者	雑誌名：発行年：巻（号）：頁
◆Duration of Initial Intensive Rivaroxaban Therapy for Patients With Venous Thromboembolism −Subanalysis of the J'xactly Study− Mashio Nakamura, Ikuo Fukuda, Norikazu Yamada, Morimasa Takayama, Hideaki Maeda, Takeshi Yamashita, Takanori Ikeda, Makoto Mo, Tsutomu Yamazaki, Yasuo Okumura, Atsushi Hirayama on behalf of the J'xactly Investigators	Circ Rep 2023：Vol.5 No.4：144-151
◆がん関連血栓症患者に対するリバーロキサバン治療時の治療にかかる医療資源の使用と医療費に関する調査 土屋孝範、中村真潮、山下侑吾、山田典一	Therapeutic Research 2023：vol.44 no.4：281-292
◆Safety Profile and Effectiveness of Rivaroxaban for Patients With Venous Thromboembolism in Japan −Results From Post-Marketing Surveillance (XASSENT)− Ikuo Fukuda; Atsushi Hirayama, Kazuo Kawasugi, Takao Kobayashi, Hideaki Maeda, Mashio Nakamura, Norikazu Yamada, Tsubasa Tajima, Michiya Tachiiri, Yutaka Okayama, Toshiyuki Sunaya, Kazufumi Hirano, Takanori Hayasaki	Circulation Journal 2023：87(9)：1175-1184
◆Risk Factors and Impact on Outcomes of Thrombosis in Patients with COVID-19 in Japan: From the CLOT-COVID Study Yachi S, Takeyama M, Nishimoto Y, Tsujino I, Nakamura J, Yamamoto N, Nakata H, Ikeda S, Umetsu M, Aikawa S, Hayashi H, Satokawa H, Okuno Y, Iwata E, Ogihara Y, Ikeda N, Kondo A, Iwai T, Yamada N, Ogawa T, Kobayashi T, Mo M, Yamashita Y, On Behalf Of The Clot-Covid Study Investigators	Ann Vasc Dis 2023：16(1)：31-37
◆Influence of obesity on incidence of thrombosis and disease severity in patients with COVID-19: From the CLOT-COVID study Ogihara Y, Yachi S, Takeyama M, Nishimoto Y, Tsujino I,Nakamura J, Yamamoto N, Nakata H, Ikeda S, Umetsu M, Aikawa S, Hayashi H, Satokawa H, Okuno Y, Iwata E, Ikeda N, Kondo A, Iwai T, Yamada N, Ogawa T, Kobayashi T, Mo M, Yamashita Y;CLOT-COVID Study Investigators	J Cardiol 2023：81(1)：105-110
◆Clinical Features Comparing Arterial Thrombosis and Venous Thromboembolism in Hospitalized Patients with COVID-19: Result from the CLOT-COVID Study Umetsu M, Kanamori H, Murakami K, Shiga T, Yachi S, Takeyama M, Nishimoto Y, Tsujino I, Nakamura J, Yamamoto N, Nakata H, Ikeda S, Aikawa S, Hayashi H, Satokawa H, Okuno Y, Iwata E, Ogihara Y, Ikeda N, Kondo A, Iwai T, Yamada N, Ogawa T, Kobayashi T, Mo M, Yamashita Y.	Ann Vasc Dis 2023：16(2)：115-123
◆Mortality-associated Risk Factors in Hospitalized COVID-19 Patients in Japan: Findings of the CLOT-COVID Study Takeyama M, Yachi S, Nishimoto Y, Tsujino I, Nakamura J, Yamamoto N, Nakata H, Ikeda S, Umetsu M, Aikawa S, Hayashi H, Satokawa H, Okuno Y, Iwata E, Ogihara Y, Ikeda N, Kondo A, Iwai T, Yamada N, Ogawa T, Kobayashi T, Mo M, Yamashita Y.	J Epidemiol 2023：33(3)：150-157

題　名・著　者	雑誌名：発行年：巻（号）：頁
◆Association Between the Development of Thrombosis and Worsening of Disease Severity in Patients With Moderate COVID-19 on Admission - From the CLOT-COVID Study Ikeda S, Ueno Y, Maemura K, Yachi S, Takeyama M, Nishimoto Y, Tsujino I, Nakamura J, Yamamoto N, Nakata H, Umetsu M, Aikawa S, Hayashi H, Satokawa H, Okuno Y, Iwata E, Ogihara Y, Ikeda N, Kondo A, Iwai T, Yamada N, Ogawa T, Kobayashi T, Mo M, Yamashita Y; CLOT-COVID Study Investigators.	Circ J 2023：87(3)：448-455
◆Significant Impact of Age on Mortality and Non-significant Impact of Age on Thrombosis and Major Bleeding in Patients with COVID-19: From the CLOT-COVID Study Yamashita Y, Yachi S, Takeyama M, Nishimoto Y, Tsujino I, Nakamura J, Yamamoto N, Nakata H, Ikeda S, Umetsu M, Aikawa S, Hayashi H, Satokawa H, Okuno Y, Iwata E, Ogihara Y, Ikeda N, Kondo A, Iwai T, Yamada N, Ogawa T, Kobayashi T, Mo M.	J Atheroscler Thromb 2023：30(6)：624-635
◆Efficacy and Safety of Warfarin for the Treatment of Venous Thromboembolism - A Multicenter Prospective Observational Cohort Study in Japan (AKAFUJI Study) Nakamura M, Tamaru S, Hirooka S, Hirayama A, Tsuji A, Hirata M, Munemasa M, Nakagawa I, Toshima M, Shimokawa H, Nishimura Y, Ogura T, Yamamoto T, Satokawa H, Obayashi T, Yamada N; AKAFUJI Study Investigators.	Circ J 2023：88(3)：359-368
◆Prognostic Impact of Prehospital Simple Risk Index in Patients With ST-Elevation Myocardial Infarction Moriwaki K, Kurita T, Hirota Y, Ito H, Ishise T, Fujimoto N, Masuda J, Ishikura K, Tanigawa T, Yamada N, Kawasaki A, Dohi K.	Circ J 2023：87(5)：629-639
◆Prognostication of Patients with Pulmonary Thromboembolism with and without Residual Deep Vein Thrombosis: A Subanalysis of the J'xactly Study Norikazu Yamada, Ikuo Fukuda, Mashio Nakamura, Morimasa Takayama, Hideaki Maeda, Takeshi Yamashita, Takanori Ikeda, Makoto Mo, Tsutomu Yamazaki, Yasuo Okumura, and Atsushi Hirayama, on behalf of the J'xactly Investigators	AVD 2023：16(3)：181-188

血液内科

題　名・著　者	雑誌名：発行年：巻（号）：頁
◆R-CHOP treatment for patients with advanced follicular lymphoma: Over 15-years follow-up of JCOG0203. Watanabe T, Tobinai K, Wakabayashi M, Maruyama D, Yamamoto K, Kubota N, Shimada K, Asagoe K, Yamaguchi M, Ando K, Ogura M, Kuroda J, Suehiro Y, Matsuno Y, Tsukasaki K, Nagai H	Br J Haematol 2024：204・3：849-860

題　名・著　者	雑誌名：発行年：巻（号）：頁
◆A phase 1 trial of NY-ESO-1-specific TCR-engineered T-cell therapy combined with a lymph node-targeting nanoparticulate peptide vaccine for the treatment of advanced soft tissue sarcoma. Ishihara M, Nishida Y, Kitano S, Kawai A, Muraoka D, Momose F, Harada N, Miyahara Y, Seo N, Hattori H, Takada K, Emori M, Kakunaga S, Endo M, Matsumoto Y, Sasada T, Sato E, Yamada T, Matsumine A, Nagata Y, Watanabe T, Kageyama S, Shiku H.	Int J Cancer 2023：152・12：2554-2566
◆NY-ESO-1-specific redirected T cells with endogenous TCR knockdown mediate tumor response and cytokine release syndrome Ishihara M, Kitano S, Kageyama S, Miyahara Y, Yamamoto N, Kato H, Mishima H, Hattori H, Funakoshi T, Kojima T, Sasada T, Sato E, Okamoto S, Tomura D, Nukaya I, Chono H, Mineno J, Kairi MF, Diem Hoang Nguyen P, Simoni Y, Nardin A, Newell E, Fehlings M, Ikeda H, Watanabe T, Shiku H	J Immunother Cancer 2022：10・6：e003811
◆Chimeric antigen receptor T-cell therapy targeting a MAGE A4 peptide and HLA-A*02:01 complex for unresectable advanced or recurrent solid cancer: protocol for a multi-institutional phase 1 clinical trial Okumura S, Ishihara M, Kiyota N, Yakushijin K, Takada K, Kobayashi S, Ikeda H, Endo M, Kato K, Kitano S, Matsumine A, Nagata Y, Kageyama S, Shiraishi T, Yamada T, Horibe K, Takesako K, Miwa H, Watanabe T, Miyahara Y, Shiku H	BMJ Open 2022：12・11：e065109

病理診断科

題　名・著　者	雑誌名：発行年：巻（号）：頁
◆Short-term prognosis of low-risk prostate cancer patients is favorable despite the presence of pathological prognostic factors: a retrospective study Remi Semba, Katsunori Uchida, Yoshihumi Hirokawa,Taizo Shiraishi, Takehisa Onishi, Takeshi Sasaki, Takahiro Inoue, Masatoshi Watanabe, Hiroshi Miyamoto,	BMC Urology 2023：31;23(1)：174-186

外科

題　名・著　者	雑誌名：発行年：巻（号）：頁
◆術前に原発巣の特定が困難であった乳癌孤立性副腎転移の1例 山門玲奈、高橋直樹、鈴木秀郎、小西尚巳、町支秀樹	日本臨床外科学会雑誌 2023：84(3)：27-31
◆同時性腹膜播種(P3)を伴う盲腸癌に対し、術前補助化学療法を併用し二期的に根治切除した1例 水越幸輔、服部小百合、篠田真里、岡部雄介、杉澤　文、高橋直樹、肥満智紀、小西尚巳、鈴木秀郎、町支秀樹、登内　仁	癌と化学療法誌 2023：50(13)：1390-1392
◆Examination of colorectal cancer cases with metal allergy Kousuke Mizukoshi, Yu Okazawa, Kota Amemiya et al.	Surgery Today 2023：53(7)：753-761

整形外科

題　名・著　者	雑誌名：発行年：巻（号）：頁
◆左大腿骨転子下骨折に対する観血的手術施行後に髄内釘折損した非定型骨折の1例 樋口聖也、岡村直樹、松井佑梨世、松田　理、中瀬古健	臨床雑誌整形外科 2023：74・11：1169-1173
◆当院での女性の大腿骨近位部骨折および橈骨遠位端骨折手術患者における骨密度の比較検討 樋口聖也、中瀬古健、松田　理、岡村直樹、松井佑梨世、半田忠幹	中部日本整形外科災害外科学会雑誌 2023：66(5)：783-784
◆大腿骨近位部骨折術後患者に入院中にゾレドロン酸を使用した症例の検討 半田忠幹、松井佑梨世、岡村直樹、松田　理、中瀬古健	中部日本整形外科災害外科学会雑誌 2023：66：597-598

泌尿器科

題　名・著　者	雑誌名：発行年：巻（号）：頁
◆Pre-operative Plasma Fibrinogen Level as a Potential Predictor of Pathological T3 Upstaging in Clinically Localized Renal Cell Carcinoma ○関戸　翔、田中しおり、北野剛士、加藤　学、小倉友二、小島崇宏	Anticancer Research 2023：43・9：4229-4235
◆Clinical Efficacy and Openness to New Challenges of Low Dose Rate Brachytherapy for Prostate Cancer ○加藤　学、東真一郎、杉野友亮、梶原進也、田中しおり、 北野剛士、山下恭史、小倉友二、立花弘之、小島崇宏、井上貴博	Current Oncology 2023：30・11：9824-9835

脳神経外科

題　名・著　者	雑誌名：発行年：巻（号）：頁
◆A unique technique to adjust snare position for coil retrieval in tortuous vessel during aneurysm coil embolization: Technical case report. Yoichi Miura, Naoki Toma, Tomonori Ichikawa, Yume Suzuki, Hirofumi Nishikawa, Ryuta Yasuda, Hidenori Suzuki	World Neurosurg. 2023：173：263-267
◆Computational fluid dynamics for predicting the growth of small unruptured cerebral aneurysms. Masanori Tsuji, Fujimaro Ishida, Ryuta Yasuda, Takenori Sato, Kazuhiro Furukawa, Yoichi Miura, Yasuyuki Umeda, Naoki Toma, Hidenori Suzuki	J Neurosurg. 2023：140(1)：138-143
◆Computational fluid dynamics using dual-layer porous media modeling to evaluate the hemodynamics of cerebral aneurysm treated with FRED: A technical note. Masanori Tsuji, Fujimaro Ishida, Takenori Sato, Kazuhiro Furukawa, Yoichi Miura, Ryuta Yasuda, Yasuyuki Umeda, Naoki Toma, Hidenori Suzuki.	Brain Hemorrhages 2023：4(1)：39-43
◆Effects of new-generation antiepileptic drug prophylaxis on delayed neurovascular events after aneurysmal subarachnoid hemorrhage. Hidenori Suzuki, Yoichi Miura, Ryuta Yasuda, Tetsushi Yago, Hisashi Mizutani, Tomonori Ichikawa, Takahiro Miyazaki, Yotaro Kitano, Hirofumi Nishikawa, Fumihiro Kawakita, Masashi Fujimoto, Naoki Toma	Transl Stroke Res 2023：14(6)：899-909

題　名・著　者	雑誌名：発行年：巻（号）：頁
◆Evaluation of intra-aneurysmal residual blood flow with the iMSDE T1-black blood imaging after flow diverter treatment. Yume Suzuki, Naoki Toma, Katsuhiro Inoue, Tomonori Ichikawa, Hirofumi Nishikawa, Yoichi Miura, Masashi Fujimoto, Ryuta Yasuda, Masayuki Maeda, Hidenori Suzuki	J Neuroendovasc Ther. 2023：17(8)：159-166
◆Hemodynamic differences of posterior communicating artery aneurysms between adult and fetal types of posterior cerebral artery. Katsuhiro Tanaka, Kazuhiro Furukawa, Fujimaro Ishida, Hidenori Suzuki	Acta Neurochir 2023：165(12)：3697-3706
◆Plasma SPARC Elevation in Delayed Cerebral Ischemia After Aneurysmal Subarachnoid Hemorrhage. Hideki Nakajima, Fumihiro Kawakita, Hiroki Oinaka, Yume Suzuki, Mai Nampei, Yotaro Kitano, Hirofumi Nishikawa, Masashi Fujimoto, Yoichi Miura, Ryuta Yasuda, Naoki Toma, Hidenori Suzuki; pSEED group.	Neurotherapeutics. 2023：20(3)：779-788
◆Prediction of thrombosis after coil embolization of unruptured cerebral aneurysm by computational fluid dynamics using porous media modeling. Masanori Tsuji, Fujimaro Ishida, Yoichi Miura, Takenori Sato, Kazuhiro Furukawa, Ryuta Yasuda, Yasuyuki Umeda, Naoki Toma, Hidenori Suzuki	J Med Biol Eng. 2023：43：741-748
◆数値流体力学を用いた血行力学による未破裂脳動脈瘤壁性状の検討 中野響子、三浦洋一、石田藤麿、南部友昭、福田剛史、南　紀夫、市川尚己、古川和秀、荒木朋浩、鈴木秀謙	脳卒中の外科 2023：51(5)：405-410
◆Usefulness of 3-dimensional images fusion in preoperatively simulating aneurysm clipping Ryuta Yasuda, Yoichi Miura, Naoto Kimura, Tomonori Ichikawa, Shota Ito, Takeshi Okada, Naoki Toma, Hidenori Suzuki	The 16th Korea-Japan Joint Conference on Surgery for Cerebral Stroke 2023：9：13-15
◆Rupture status of bilateral vertebral artery dissecting aneurysms presenting with subarachnoid hemorrhage using computational fluid dynamics: a case report Masanori Tsuji, Fujimaro Ishida, Ryuta Yasuda, Tomonori Ichikawa, Takenori Sato, Kazuhiro Furukawa, Yoichi Miura, Yasuyuki Umeda, Naoki Toma, Hidenori Suzuki	The 16th Korea-Japan Joint Conference on Surgery for Cerebral Stroke 2023：9：13-15

眼科

題　名・著　者	雑誌名：発行年：巻（号）：頁
◆Effect of perfluorocarbon use during rhegmatogenous retinal detachment surgery on postoperative outcomes. Sugimoto M, Kozawa M, Matsui Y, Matsubara H, Kondo M, Sakamoto T	Ophthalmologica 2023：doi: 10：1159
◆Factors Associated with Reclosure of Posterior Capsule Aperture by Flat Opacifications with Pearls after Nd:YAG Laser Posterior Capsulotomy. Ota A, Ota I, Kachi S, Miyake G, Haga F, Miyake K, Kondo M, Kato K	Diseases 2023：１１(２)：82

皮膚科

題　名・著　者	雑誌名：発行年：巻（号）：頁
◆【神経症状を伴う皮膚病～重要な合併症を見逃さない～】Sturge-Weber症候群を合併した色素血管母斑症 斎藤拓郎（三重大学医学部附属病院 皮膚科）、山本晋也、淀谷典子、築留英之、波部幸司、山中恵一	皮膚病診療 2023：45巻12号：1096-1099

歯科口腔外科

題　名・著　者	雑誌名：発行年：巻（号）：頁
◆下顎頭の形態回復過程を観察した小児の両側性下顎骨関節突起骨折の2例 堀　晃二、小泉　岳、清水香澄、加藤英治、奥田悠大、新井直也	日本口腔外科学会雑誌 2024：70巻2号：54-60

薬剤部

題　名・著　者	雑誌名：発行年：巻（号）：頁
◆薬学的介入によって早期診断および重症化回避につながったアテゾリズマブによる1型糖尿病性ケトアシドーシスの1例 西川嘉広、小出哲朗、池口麻由子、桐生浩子、今西義紀、大森加奈子、橋本　陽、大矢知立城、堀田康広、伊藤久美子	日本臨床救急医学会 2023：26(4)：528-31
◆薬学的介入により改善に至ったバンコマイシン内服投与後に出現した薬剤性腎障害の1例 森脇健太郎、小出哲朗、加藤公人、高橋千裕、田中裕子、水谷日花里、窪田和仁、大矢知立城、西田順二、伊藤久美子	日本腎臓病薬物療法学会雑誌 2023：12(2)：197-201

リハビリテーション室

題　名・著　者	雑誌名：発行年：巻（号）：頁
◆関節窩の中心点を推測するための骨指標―3DCTを用いた検討― 和田満成、松本正知	肩関節 2023：47巻1号：17-22

栄養管理室

題　名・著　者	雑誌名：発行年：巻（号）：頁
◆高齢者における卓球による健康づくりプログラムの健康増進効果―体重、体脂肪量、骨格筋量の変化による検討― 長谷川恭子、伊藤由貴、岡山慶子、石田紀子、西脇文俊、梶原有香、岡村亜紀、嘉納未來、竹田　寛	日本病態栄養学会誌 2023：26(2)：163-172

著　　書

循環器内科

題　名・著　者	雑誌名：発行年：巻（号）：頁
◆2-5.　肺血栓塞栓症 山 田 典 一	薬局 特集：循環を止めるな！血液凝固とくすり 2023：Vol.74, No.8：1418-1421
◆静脈血栓塞栓症I　静脈血栓塞栓症の現状 山 田 典 一	健康づくり 2023：No.544：9
◆静脈血栓塞栓症II　静脈血栓塞栓症の原因、診断方法 山 田 典 一	健康づくり 2023：No.545：9
◆静脈血栓塞栓症III　静脈血栓塞栓症の治療 山 田 典 一	健康づくり 2023：No.546：9
◆静脈血栓塞栓症IV　静脈血栓塞栓症の予防 山 田 典 一	健康づくり 2023：No.547：9

血液内科

題　名・著　者	雑誌名：発行年：巻（号）：頁
◆二重特異性抗体の開発経緯と臨床応用の進歩 渡 辺　　隆	日本臨牀　新リンパ腫学　基礎・臨床の最新動向 2023：増刊号：484-490

病理診断科

題　名・著　者	雑誌名：発行年：巻（号）：頁
◆補助診断としての免疫染色の使用方法 仙 波 玲 美、内 田 克 典	腫瘍病理鑑別診断アトラス　前立腺癌 第2版 2023：　：112-122
◆前立腺癌取扱い規約第5版 病理学的事項の改訂点 ②Gleason分類 仙 波 玲 美、内 田 克 典	病理と臨床　前立腺癌 2023：41巻5号：484-489
◆前立腺癌:WHO2022と取扱い規約での変更点 仙 波 玲 美、内 田 克 典	臨床泌尿器科　泌尿器病理　鳥瞰図 2023：77巻7号：518-525

研究会・講演会

循環器内科

演　題・演　者	研究会名・発表日・開催地
◆症例Discussion～病診連携を通して～搬送元 大村　崇	第3回Heart Recovery Network @三重 2023年６月８日　津市
◆超音波気管支鏡ガイド下生検後に発症した急性細菌性心膜炎の1例 大内亮介	第48回三重大学第一内科集談会 2023年７月16日　津市
◆超音波気管支鏡ガイド下生検後に発症した急性細菌性心膜炎の2例 大内亮介	第46回北勢地区循環器研究会 2023年７月20日　四日市市
◆超音波気管支鏡ガイド下生検後に発症した急性細菌性心膜炎の3例 大内亮介	第71回日本心臓病学会 2023年９月９日　東京都
◆多量の血栓にTVACによる血栓吸引が有用であった1例 柳澤将史	CVIT第49回東海北陸地方会 2023年11月10日　名古屋市
◆実臨床データXASSENT結果からみたVTEに対するDOAC治療 山田典一	第30回肺塞栓症研究会・学術集会 2023年11月19日　東京都
◆肺塞栓症に対する胸部X線透視動画解析ソフトの診断能についての検討 佐藤　徹、荻原義人、北川覚也、小椋　透、山田典一、土肥　薫	第30回肺塞栓症研究会・学術集会 2023年11月19日　東京都

脳神経内科

演　題・演　者	研究会名・発表日・開催地
◆認知症について 大達清美	興和株式会社　社内研修会 2023年３月10日　Web
◆認知症と糖尿病 大達清美	桑員地区地域連携セミナー ～認知症・糖尿病治療を考える～ 2023年３月16日　桑名
◆パーキンソン病治療と医師・薬剤師のかかわり 大達清美	三重県病院薬剤師会令和5年度第3回薬物療法部研修会 2023年12月15日　Web

消化器内科

演　題・演　者	研究会名・発表日・開催地
◆潰瘍性大腸炎の臨床像と最新の治療指針について ○中川直樹	四日市薬剤師会研修会 2023年５月18日　四日市
◆急性肝炎様発症自己免疫性肝炎による急性肝不全非昏睡型の1剖検例 吉兼佑介、大矢由美、中地悌喜、村田亮介、山本あゆみ、浦吉俊輔、泉　道博、中川直樹、石田　聡	第304回肝胆膵研究会 2023年６月２日　Web
◆複合免疫療法をさらに使いこなすためには?（ディスカッサント） ○中川直樹	HCC Expert Meeting in Mie 2023年10月12日　Web

演　題・演　者	研究会名・発表日・開催地
◆胆嚢周囲膿瘍内科的治療後感染性大動脈瘤を発症した1例 中地悌喜、大矢由美、吉兼佑介、村田亮介、山本あゆみ、浦吉俊輔、泉　道博、中川直樹、石田　聡	第305回肝胆膵研究会 2023年11月28日　Web
◆Sequential療法の工夫とレンバチニブの位置づけ（ディスカッサント） ○大矢由美	LENVIMA HCC Expert Meeting 2024年１月19日　Web
◆高度の黄疸を認めたニボルマブによるirAE関連肝障害の1例 中地悌喜、大矢由美、吉兼佑介、村田亮介、山本あゆみ、浦吉俊輔、泉　道博、中川直樹、石田　聡	第2回三重消化器内科談話会 2024年２月３日　津市
◆肝硬変について ○中川直樹	三重県肝炎医療コーディネーター養成研修会 2024年２月18日　Web
◆中枢神経障害を合併した アルコール性肝障害の一例 溝口真都、大矢由美、吉兼佑介、中地悌喜、村田亮介、山本あゆみ、浦吉俊輔、泉　道博、中川直樹、石田　聡	令和5年度第5回研修医症例検討会 2024年２月22日　当院

小児科

演　題・演　者	研究会名・発表日・開催地
◆繰り返す発熱に対して、対応に苦慮した一例 堀口駿一	三重大学小児科web症例検討会 2023年４月６日　Web

外科

演　題・演　者	研究会名・発表日・開催地
◆鼡径部ヘルニアの心技継承―ラパロからロボットへ新たな術式導入と教育を考える― 水越幸輔	第77回手術手技研究会イブニングセミナー 2023年５月12日　名古屋
◆盲腸癌・同時性腹膜播種に対し、腹腔鏡下に二期的切除を施行した1例 水越幸輔、服部小百合、篠田真里、岡部雄介、市川　崇、肥満智紀、杉澤　文、髙橋直樹、小西尚巳、鈴木秀郎、町支秀樹、登内　仁	第45回日本局所療法研究会 2023年６月２日　東京
◆最新の大腸癌治療―クリニックから始まる集学的治療― 水越幸輔	木曜サロン 2024年１月11日　桑名

脳神経外科

演　題・演　者	研究会名・発表日・開催地
◆片頭痛診療のポイント　～病態を踏まえて～ 黒木香行	片頭痛治療を考える会 in 三重2023 2023年５月25日　桑名

演　題・演　者	研究会名・発表日・開催地
◆鎮痛薬コントロールだけでは心配なこと 黒木香行	第4回桑員地区　片頭痛治療UpToDate 2023年６月１日　桑名
◆頚動脈狭窄症と高トリグリセライド血症の関連 三浦洋一	第41回 The Mt. Fuji workshop on CVD 2023年８月26日　京都
◆Internal trapping 後の急性期に再開通を来した破裂椎骨動脈解離性動脈瘤の一例 青木一晃、田中克浩、三浦洋一、濱田和秀、黒木香行、阪井田博司	第95回三重脳神経外科集談会 2023年９月１日　津
◆頭痛から解放された明るい毎日を送れるように　当院頭痛外来における取り組み 黒木香行	片頭痛診療Web セミナー 2023年９月８日　Web
◆クモ膜下出血の周術期管理　クラゾセンタン導入後に変わること、変わらないこと 田中克浩	第3回三重 SAH カンファレンス 2023年９月14日　津
◆実践的、抗CGRP抗体薬の活用方法 黒木香行	West Japan Migraine Expert Conference 2023年９月29日　名古屋　桑名
◆片頭痛の悩みを考える～CGRP製剤発売から2年のリアルワールド～ 黒木香行	片頭痛の悩みを考える～CGRP製剤発売から2年のリアルワールド～ 2023年11月14日　桑名
◆シャント圧設定に難渋したlow pressure hydrocephalusの一例 青木一晃、三浦洋一、濱田和秀、黒木香行、田中克浩、井田博司	第33回三重脳神経外科同門会 2023年12月９日　津
◆マイクロサージェリーのための手の機能解剖と巧緻性の考察 田中克浩、青木一晃、三浦洋一、濱田和秀、黒木香行、阪井田博司	第33回三重脳神経外科同門会 2023年12月９日　津
◆片頭痛診療の地域連携を考える会 黒木香行	片頭痛診療の地域連携を考える会 2024年２月２日　桑名

薬剤部

演　題・演　者	研究会名・発表日・開催地
◆Clostridioides difficile感染症に関する当院の取り組み 川﨑好人	三重県病院薬剤師会令和5年度第3回感染制御部会研修会 2023年11月10日　Web
◆心音・呼吸音の聴診による薬学的介入の実際 小出哲朗	令和5年度在宅医療基礎研修会 2023年12月24日　Web
◆桑名市総合医療センターでのアンデキサネットアルファ（オンデキサ）投与プロトコルについて 加藤公人	Ondexxya Online Symposium 2024年３月21日　Web

検査室

演　題・演　者	研究会名・発表日・開催地
◆肝炎コーディネーターが実践するB,C型肝炎に対する患者拾い上げの取り組み1 大矢知崇浩	三重県医療安全WEBセミナー 2023年７月５日　Web(津)
◆輸血について 大矢知崇浩	三重県臨床検査技師会　輸血実技講習会 2023年７月23日　三重
◆神経伝導検査の基礎 ～電極位置や刺激位置などの基礎を再確認しよう～ 山 中 優 香	三重県臨床検査技師会 臨床生理部門　神経生理分野 2023年８月22日　オンライン
◆術中迅速標本作製方法の各施設の運用方法 矢 野 孝 明	第7回中部圏認定病理検査技師企画・病理技術研修会 2023年９月９日　一宮市
◆心室性不整脈 山 中 優 香	三重県臨床検査技師会 臨床生理部門　循環生理分野 2023年９月22日　オンライン
◆凝固検査の基礎 矢 橋 知 子	三重県臨床検査技師会 臨床血液部門勉強会 2023年９月22日　津市
◆「肝炎コーディネーターが実践するB,C型肝炎に対する患者拾い上げの取り組み2 大矢知崇浩	三重県病院協会 2023年10月12日　Web(津)
◆神経伝導検査の基礎 ～きれいな波形を導出するために～ 山 中 優 香	三重県臨床検査技師会 臨床生理部門　神経生理分野 2023年10月24日　オンライン
◆脳波賦活法 山 中 優 香	三重県臨床検査技師会 臨床生理部門　神経生理分野 2023年11月28日　オンライン
◆臨床免疫部門報告 水 谷 直 弘	三重県臨床検査精度管理調査報告会 2023年12月17日　津市
◆神経生理 山 中 優 香	三重県臨床検査精度管理調査報告会 2023年12月17日　津市
◆呼吸機能(SVC、FVC) 藏 城 寛 子	三重県臨床検査技師会 臨床生理部門　循環生理分野 2024年１月20日　津市
◆血液型について 大矢知崇浩	三重県合同輸血療法委員会輸血実技講習会 2024年１月21日　三重
◆神経伝導検査の実際　～最初に困ること・疑問に感じること～ 山 中 優 香	東京都臨床検査技師会 2024年２月22日　オンライン
◆ER/PgR抗体免疫染色サーベイ結果報告 矢 野 孝 明	令和5年度中部圏支部病理細胞検査研修会 2024年２月25日　津市

市民公開講座

整形外科

講座名 ・講　師	開催日・開催地
◆やさしく理解する股関節の病気と治療 岡 村 直 樹	2024年４月21日　桑名市

脳神経外科

講座名 ・講　師	開催日・開催地
◆第3回市民公開講座　知っておこう!脳卒中センターの役割と脳梗塞の予防・治療について　「脳卒中と脳卒中センターの役割について」 阪井田博司	2023年10月21日　桑名
◆第3回市民公開講座　知っておこう!脳卒中センターの役割と脳梗塞の予防・治療について　「脳梗塞の緊急治療」 濱 田 和 秀	2023年10月21日　桑名

CPC記録

主な病理所見・主治医	開催日・開催場所
◆老衰・虫垂粘液癌S/O 西 田・市 川	2023年２月９日　スキルスラボ
◆医療介護関連肺炎・間質性肺炎 八 木・小 寺	2023年３月２日　スキルスラボ
◆膵尾部癌 大 矢	2023年６月29日　スキルスラボ
◆膵頭部癌 中 地	2023年８月10日　スキルスラボ
◆原発不明多発転移癌 平 井	2023年９月13日　スキルスラボ
◆子宮悪性腫瘍 榊 原	2023年10月5日　スキルスラボ
◆肝内胆管癌 大 矢	2023年11月16日　スキルスラボ
◆腸管壊死疑い 山 川	2023年12月21日　スキルスラボ
◆アルコール性肝炎・膵壊死 吉 兼・大 矢	2024年２月15日　スキルスラボ

地方独立行政法人
桑名市総合医療センター
年　報
2023（令和5）年度
令和７年３月　発行

編集・発行　地方独立行政法人　桑名市総合医療センター
所　在　地　桑名市寿町三丁目11番地
電　　話　0594-22-1211

印　　刷　阿竹印刷工業株式会社
四日市市富州原町14-24

地方独立行政法人

桑名市総合医療センター